

名古屋城三の丸遺跡

第12次発掘調査報告書

(中央新幹線「名城非常口」地点)

2017

名古屋市教育委員会



名古屋城三の丸遺跡

第12次発掘調査報告書

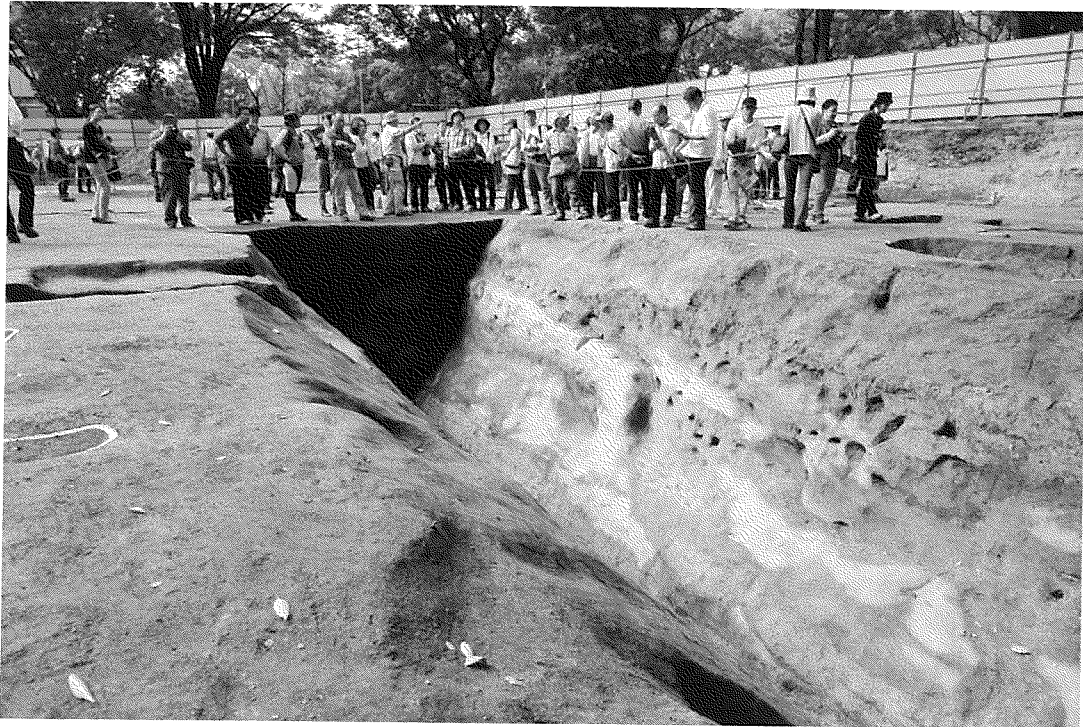
(中央新幹線「名城非常口」地点)

2017

名古屋市教育委員会



発掘調査地点から名古屋城天守閣を望む(南東から)



発掘調査現地説明会(東からみるSD701)

例 言

1. 本書は、平成27年度に名古屋市教育委員会が実施した名古屋城三の丸遺跡第12次発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、東海旅客鉄道株式会社(以下、JR東海と記す。)による中央新幹線名城非常口工事に伴い、名古屋市教育委員会が受託契約して行った。
3. 発掘調査のうち、現場作業と記録作業および出土品の水洗作業等を名古屋市教育委員会がナカシャクリエイテブ株式会社へ支援業務委託した。
4. 調査は、名古屋市教育委員会生涯学習部文化財保護室学芸員水野裕之が担当し、ナカシャクリエイテブ株式会社が、調査員の大杉規之、廣瀬正嗣のもとに現場作業および出土品水洗等の整理作業を行った。発掘調査報告書の作成は、平成28年度分のJR東海の委託費用により名古屋市教育委員会が行なった。出土品の分類、接合、実測作業等の遺物整理および報告書図版作成業務は、樋上佐知子、小浦美生、河原久美、若原義弘が行ない、執筆・編集は水野が担当した。
5. 発掘調査にあたり、JR東海をはじめ、財務省東海財務局、愛知県教育委員会、愛知県警察本部、名古屋市緑政土木局、同北土木事務所のお世話になった。また調査中も多くの方々から多くのご教示を得た。
6. 自然科学分析は、戦国期の堀から出土した人の頭骨について、名古屋大学博物館准教授の新美倫子先生に分析、鑑定委託した。
7. 本書で使用する方位・座標は、国土座標系(世界測地Ⅶ系)に拠っており、水準地は東京湾平均海水面(T.P)である。
8. 当調査の出土品および記録類は、名古屋市教育委員会が保管している。

目 次

1	調査の経過	3
2	遺跡の位置と環境	4
	(1) 地理的環境	4
	(2) 歴史的環境	4
3	調査の方法と成果	6
	(1) 調査の方法	6
	(2) 層序	6
	(3) 遺構と遺物	21
	① 近代以降の概要	21
	② 近世の概要	23
	③ 中世の概要	57
	④ 古代の概要	80
	⑤ 古代以前の概要	83
4	自然科学的分析	84
5	まとめ	86
	報告書抄録	90

1 調査の経過

中央新幹線「名城非常口」の建設予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、平成26年3月13日付で名古屋市教育委員会は、埋蔵文化財の有無(残存状況)を確認するために試掘調査が必要である旨をJR東海に伝えた。そして、JR東海から平成26年4月10日付の試掘調査依頼書を受け、同年5月12日から5月23日までの間で、約2,000㎡の敷地のうち8箇所を試掘調査を行った。その結果、江戸時代の堆積土層と中世(14~16世紀)の堆積土層である遺物包含層と該期の遺構・遺物が、工事予定地のほぼ全面に渡って存在すると判断された。

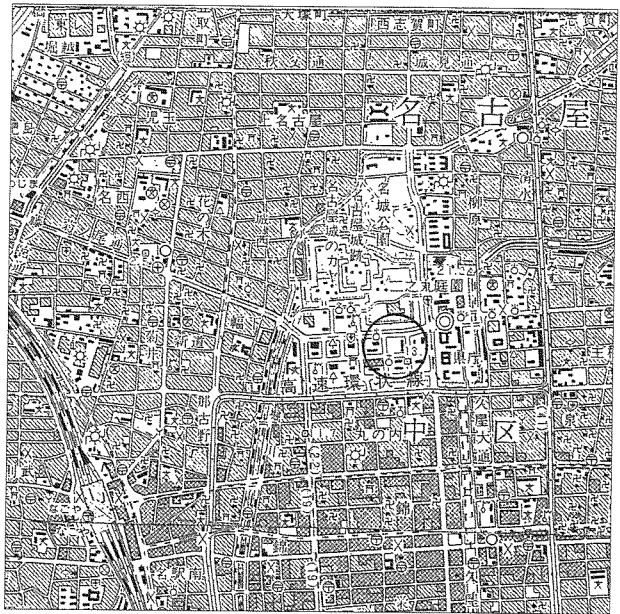


図1 調査位置(○印)(5万分の1)

これらの経緯から、名古屋市教育委員会は、JR東海から発掘調査業務の委託を受け、約1,900㎡を対象面積とした発掘調査を平成27年4月16日から平成27年10月31日の予定で発掘調査を始めた。

また、調査が進むうち、江戸時代(上層)と戦国期以前(下層)に調査面を分けて発掘調査することが必要となり、発掘調査の作業量が増加することとなった。協議の結果、その費用負担等についてJR東海の協力を得て、更に発掘調査の工期も平成28年2月29日まで延長された。

発掘調査作業は、名古屋市教育委員会と支援業務委託契約をした発掘調査会社(ナカシャクリエイト株式会社)の調査員、調査補助員らと名古屋市教育委員会文化財保護室学芸員が調査を行った。江戸時代の遺構検出面は、現地表から約1m下位で検出され、ほぼ全面を一度に調査、記録をしたが、戦国期以前の遺構検出面は現地表下約160cmにあり、この面の調査は、排土置場のスペースの関係などから、西側の全体の約3分の1を先に調査し、埋め戻してから残り部分の調査を行った。出土遺物は、コンテナケースで約260箱におよび随時発掘調査会社が水洗作業と遺物の収納を行った。

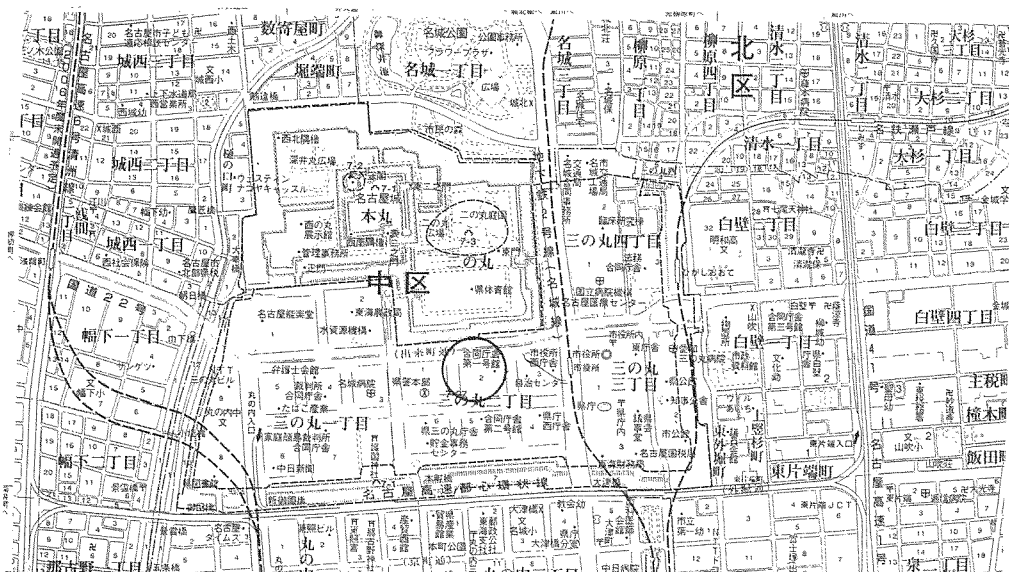


図2 調査位置(○印)(2万分の1)

2 遺跡の位置と環境

(1) 地理的環境

名古屋城三の丸遺跡は、遺跡名の示すとおり江戸時代に徳川家康の命により天下普請で築城された名古屋城の三之丸の範囲を埋蔵文化財包蔵地とした遺跡である。名古屋城の立地する地形は、熱田台地と呼ばれる名古屋市の中央部を南北に細長く連なる標高12~13mの更新世台地の北西端にあたる。このため西方や北方に対しては、極めて見晴らしの良い地形に造られたことがいえる。

また、当地方は、日本列島においての東西文化の中間に位置する立地であり、おそらく陸路に加え、海路においても東西を中継する地域という当地方の特徴が、旧石器時代以降古代、中世から現代にも通じる地理的環境となっている。

(2) 歴史的環境

当遺跡範囲では、約3.8万年前以降の後期旧石器時代の終末期頃にあたる細石刃核の出土もあり、古くから人が住んでいた痕跡がわずかながらみつかっている。縄文時代では、早期の土器片のほか、詳細な時期は不明であるが縄文時代とおもわれる石器もわずかに出土している。弥生時代になると中期前半、後期前半、後期後半の竪穴住居跡そして古墳時代の竪穴住居跡が当遺跡範囲の南西部(愛知県図書館地点)から多数検出され、ここではさらに弥生時代後期後半や古墳時代前期の方形周溝墓もみつかっている。

古代においては、遺構の広がりはいくつかあるが遺跡南西部では、地域の公的な施設の存在を想定させる小型の灰釉陶器双耳瓶や円面硯が竪穴建物から出土し、緑釉陶器、緑釉素地の四足壺といった一般の集落とはいえないような内容の出土遺物がある。

中世では、13~14世紀の遺物は希薄である。15世紀になると遺跡北西部では、一辺50mあまりの方形区画の溝で囲まれた施設がつくられ、軍事的な構造を示すようであるが、その一角には、土坑墓が複数つくられた場所が備わっていたようである(能楽堂地点、中部電力地下変電所地点)。15世紀中頃からは、今川那古野氏が屋敷を構える地となり、16世紀前葉には、駿河国主今川氏親が那古野城を築き、今川氏豊を城主に置いた。この城は、別称「柳の丸」とも呼ばれた。1538年(天文7)頃、織田信秀は那古野城を攻略し、安養寺、天主坊、若宮八幡社などが焼失したという。織田信長は、1555年(弘治元)、21歳の頃、この城から清須城へ移り、織田信光(後に林通勝)を那古野城主に置いた。そして1582年(天正10)、この頃那古野城は廃城になったとされている。

1610年(慶長15)、名古屋城の築城がはじまり、その後「清須越し」もはじまる。1663年(寛文3)には、二之丸の成瀬、竹腰の両屋敷が三之丸へ移った。

さて、現在の三の丸官庁街の中央部である当調査地点を近世名古屋城の城下絵図に合わせてみると、名古屋城二之丸の中央南側石垣の上に造られた二層の「御太鼓櫓」の位置から三之丸の中央を南へ続く「御太鼓櫓筋」の一部が調査区のほぼ中央にあたるもおもわれ、道路を挟んだ東西では、重臣屋敷の一部を調査することが予想された。この道路が検出されれば、西側は、17世紀後半から幕末に至るまで尾張藩の付家老であった二万石の竹腰家の屋敷地の奥にあたり、道路の東側は、久野、横井、鈴木氏などの屋敷地であった場所であることが想定された。

また、非常に珍しいことに、発掘調査する地点の時代背景として、尾張徳川家第14代藩主慶勝撮影の幕

末頃の名古屋城三之丸の映像(写真)が現在まで残っていたことである。その写真には、特に道路(「御太鼓櫓筋」)と竹腰家の土蔵がメインに写っており、発掘調査で検出される遺構の上部の姿を(見てきたように)想像することができる。

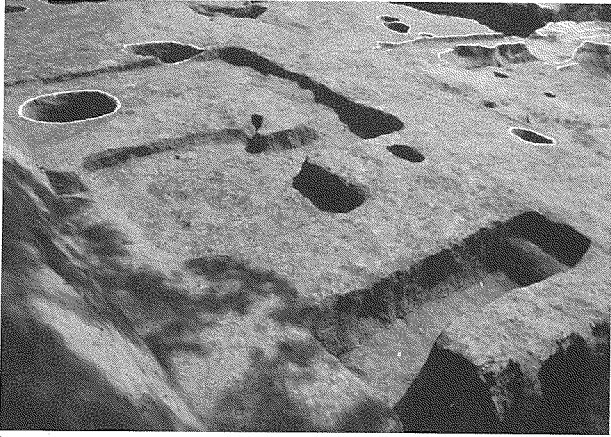


写真1 塹壕

写真2 個人用掩体

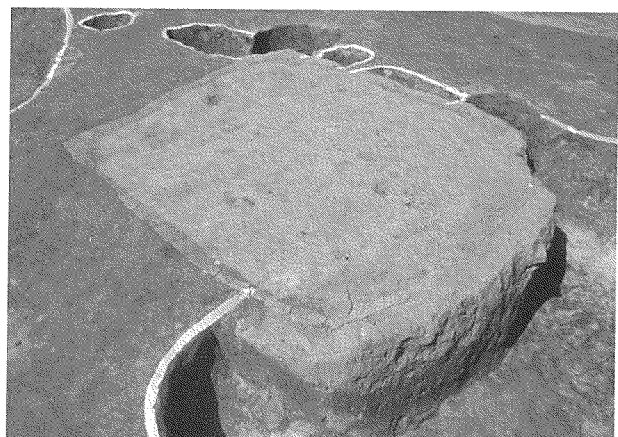


写真3 防空壕

写真4 貯水槽

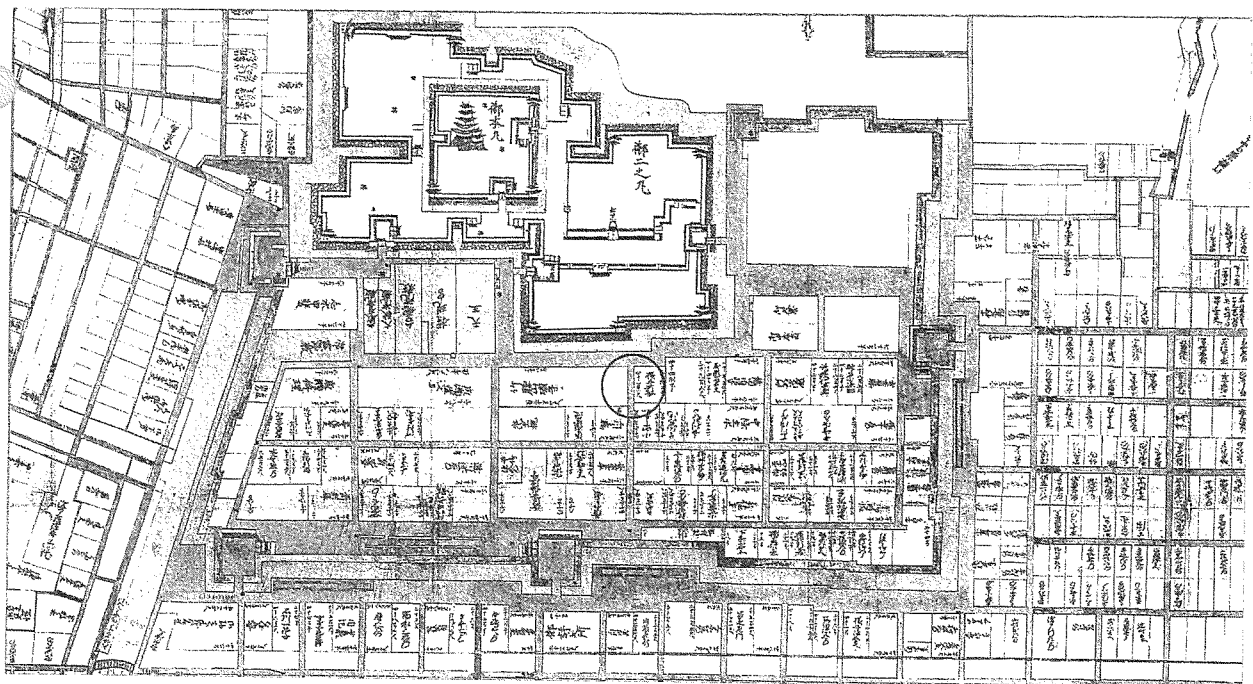


図3 城下絵図からみた調査位置(○印)

〔尾府名古屋図〕より 名古屋市蓬左文庫蔵

3 調査の方法と成果

(1) 調査の方法

発掘調査は、面積が比較的大きいため、江戸時代の整地土(黄灰白色シルトの盛土)面で検出された三之丸を南北に通る道路(「御太鼓櫓筋」)の東側の調査区をA区(道路部分まで含む)、西側をB区とした。調査区のほぼ全域に堆積する整地土面では、江戸時代各時期の遺構がこの盛土(20~80cmの厚みで残存する)を掘り込んで造られている。本来はさらに上位から造られた明治時代以降の遺構もこの面で検出した(防空壕、掩体など)。

地表からの土層堆積の断面図は、調査区の主に4辺を記録し、遺構埋土の断面は状況に応じて記録した。整地土の下には、戦国期以前の遺構が残っているため、調査では上層の江戸時代の整地土面を第1面とし、基盤層(熱田層)及びこの上に堆積する暗褐色の遺物包含層(中世)での検出面を第2面とした。平面図化と記録写真用にドローンによる撮影を3回行った。

(2) 層序

当地点は、都市公園内にあたり、表層土は砂質の公園整地土である。その下には、基本土層として、明治時代以降の帝国陸軍用地であった頃の砂質土層、江戸時代の整地土(盛土)、中世の包含層(暗褐色土層)、基盤層の熱田層(数万年前的水成層でシルト、砂、粘土が互層に堆積する)の順に観察できる。現地表から熱田層上面までは、1.7~1.8mである。

江戸時代の整地土(盛土)は、「三之丸」の築城時に北側に位置する堀を掘削した際の発生土(地山である熱田層で、上層は黄橙色であるが、その下は黄色系から黄灰白色、明灰色などの色調がある。)を積んでいったと考えられ、黄灰白色のシルト質土が、北側から順に盛土していったとおもわれる。



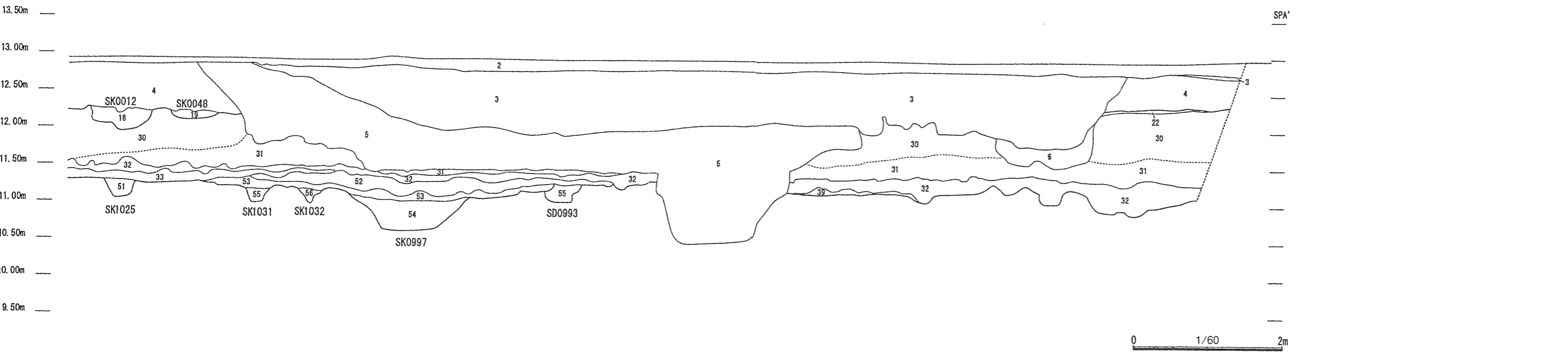
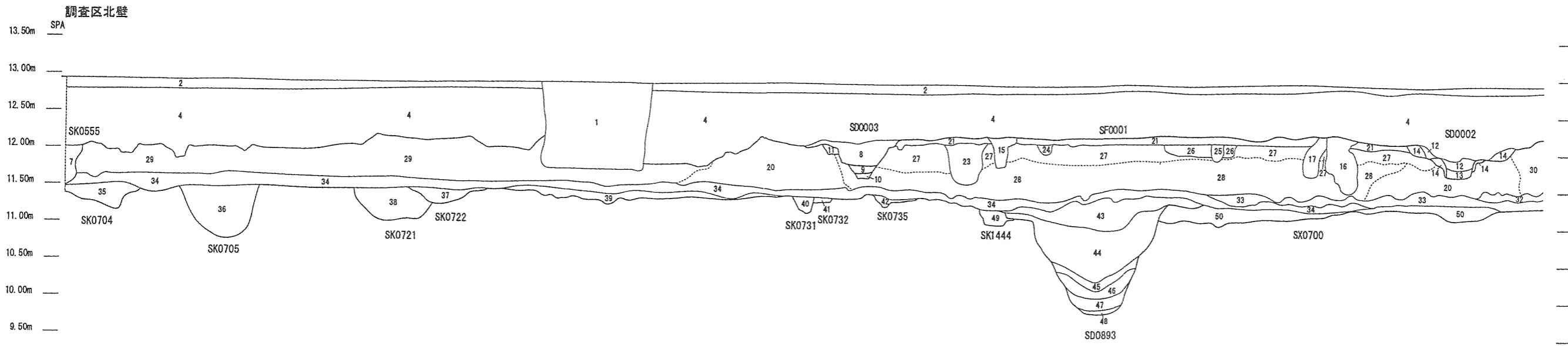
写真5 調査状況(表土除去)



写真6 調査状況(SD701)

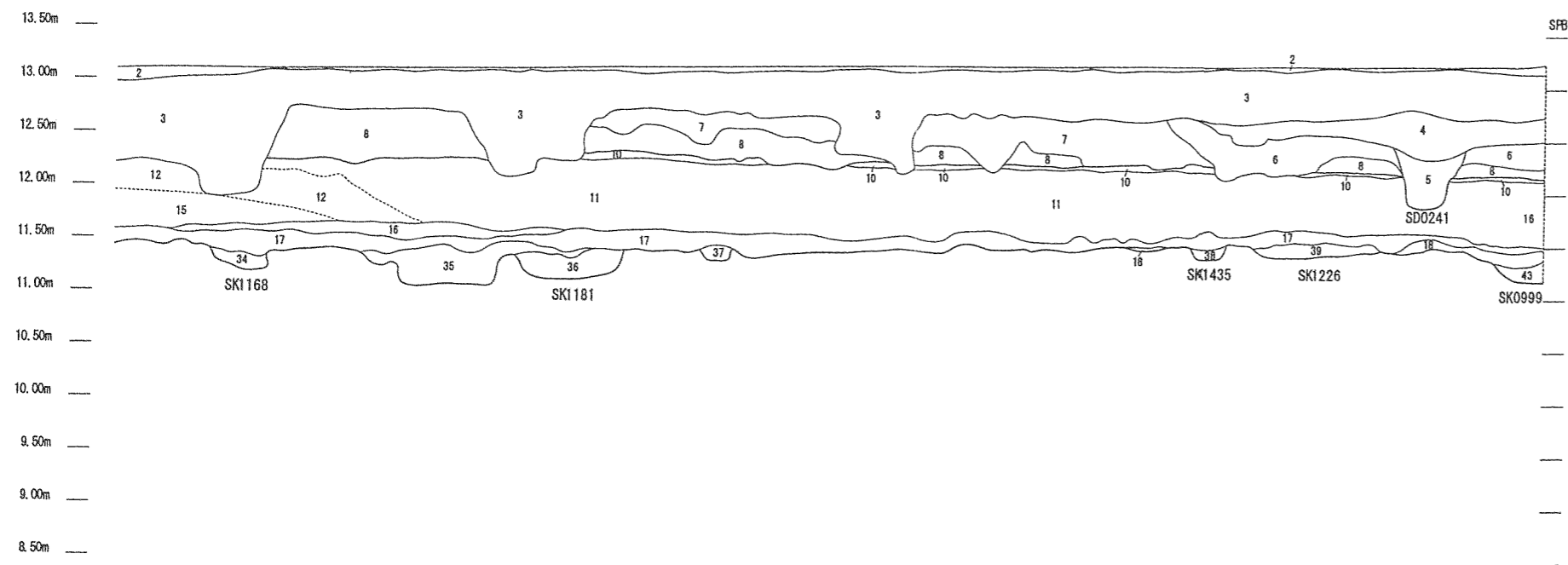
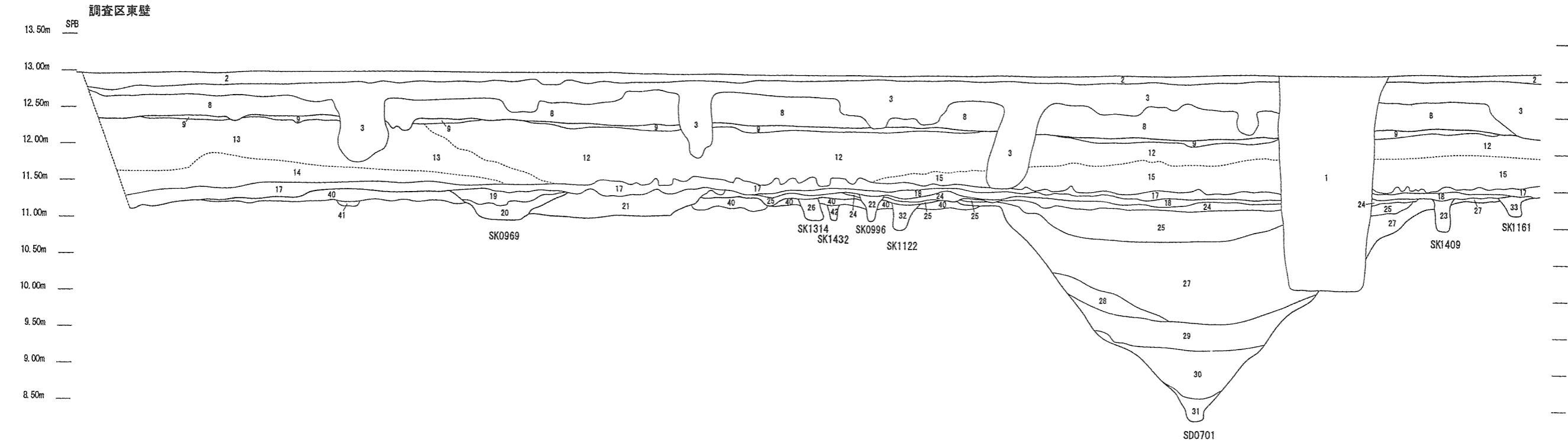


写真7 盛土層下の近世以前の遺構検出



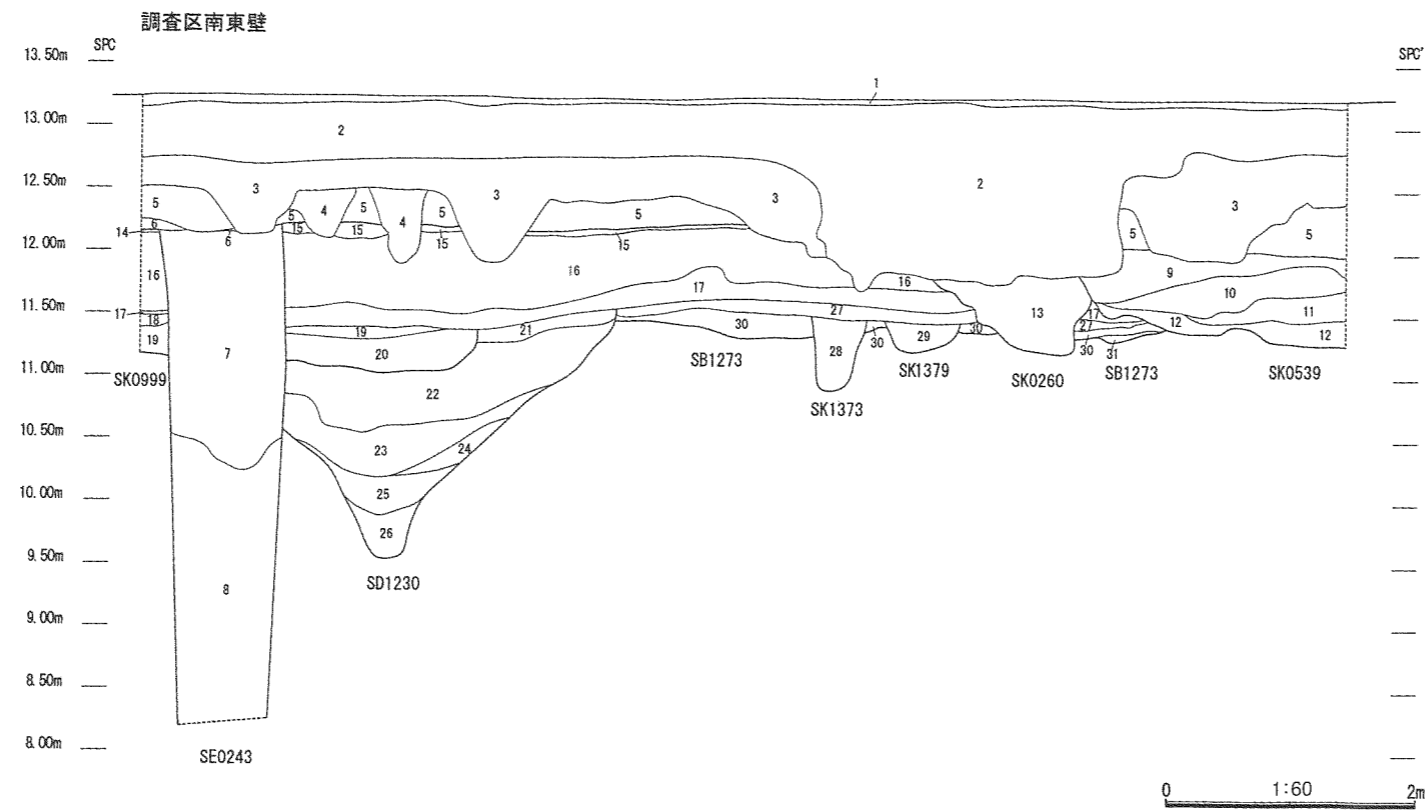
- | | | | |
|--|--|---|---------------------------------------|
| 1. 攪乱 (試掘坑) | 16. 10YR5/3 にぶい黄褐色 極細粒砂 10YR8/2 灰白色細粒砂を斑状に含む。 | 31. 10YR8/3 淡黄褐色 細粒砂 10YR8/2 灰白色細粒砂をブロック状に、10YR2/2 黒褐色シルトを斑状に含む。しまりやや弱い。(近世豊地土) | 46. 10YR2/2 黒褐色 シルト 地山との斑土。(SD0893) |
| 2. 10YR5/8 黄褐色 粗粒砂 (表土) | 17. 10YR6/3 にぶい黄褐色 極細粒砂 10YR8/2 灰白色細粒砂を斑状に含む。 | 32. 10YR3/1 黒褐色 粘土 10YR8/2 灰白色細粒砂をブロック状に、10YR2/2 黒褐色シルトを斑状に含む。しまりや弱い。(近世豊地土) | 47. 10YR4/1 褐灰色 粘土 無遺物層。(SD0893) |
| 3. 10YR2/1 黒色 粗粒砂 丈〜巨礫多く含む。しまりなし。(昭和以降) | 18. 10YR3/3 暗褐色 細粒砂 (SK0012) | 33. 10YR5/1 褐灰色 粘土 10YR8/1 灰白色極細粒砂の粒を少量含む。(中世包含層) | 48. 10YR2/2 黒褐色 シルト 地山との斑土。(SD0893) |
| 4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 細粒砂 細〜中礫多く含む。一部焼土含む。(昭和以降) | 19. 10YR3/3 暗褐色 細粒砂 (SK0048) | 34. 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR8/1 灰白色極細粒砂の粒を少量含む。(中世包含層) | 49. 10YR2/1 黒色 シルト (SK01444) |
| 5. 10YR5/1 褐灰色 粗粒砂 10YR7/2 にぶい黄褐色極細粒砂を斑状に含む。(防空壕) | 20. 10YR8/3 淡黄褐色 粗粒砂 34層をブロック状に含む。しまりあり。(近世豊地土) | 35. 10YR2/2 黒褐色 シルト (SK0704) | 50. 10YR2/2 黒褐色 シルト 地山を斑状に含む。(SK0700) |
| 6. 10YR5/1 褐灰色 粗粒砂 10YR7/2 にぶい黄褐色極細粒砂を少量含む。(防空壕) | 21. 10YR4/4 褐色 粗粒砂 細礫多く含む。硬くしまる。(SF0001) | 36. 10YR2/2 黒褐色 シルト 地山を粒状に含む。(SK0705) | 51. 10YR2/2 黒褐色 シルト (SK1025) |
| 7. 10YR2/2 黒褐色 粘土 10YR2/1 黒色粘土を斑状に含む。地山を含む。(SK0555) | 22. 10YR5/4 にぶい黄褐色 粗粒砂 10YR7/1 灰白色細粒砂を含む。硬くしまる。(近世豊地土) | 37. 10YR3/2 黒褐色 粘土 地山を斑状に含む。焼土粒を少量含む。(SK0722) | 52. 10YR3/4 暗褐色 シルト 粗粒砂を含む。 |
| 8. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂 粗粒砂を含む。中〜大礫多く含む。しまりあり。(SD0003) | 23. 10YR5/2 黄褐色 極細粒砂 10YR8/2 灰白色細粒砂、10YR2/2 黒褐色シルトを斑状に含む。 | 38. 10YR2/1 黒色 シルト 地山との斑土。(SK0721) | 53. 10YR3/2 黒褐色 シルト 52層を少量含む。(SK1038) |
| 9. 10YR4/2 灰黄褐色 粗粒砂 10YR8/2 灰白色極細粒砂(地山)を斑状に含む。(SD0003) | 24. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂 10YR8/2 灰白色細粒砂を斑状に含む。 | 39. 10YR3/4 暗褐色 シルト 地山を斑状に含む。 | 54. 10YR2/2 黒褐色 シルト (SK0998) |
| 10. 10YR4/1 褐灰色 粗粒砂 (SD0003) | 25. 10YR7/4 にぶい黄褐色 極細粒砂 しまりなし。 | 40. 10YR2/2 黒褐色 粘土 地山を斑状に含む。(SK0731) | 55. 10YR1/2 黒色 粘土 地山を粒状に含む。(SK1031) |
| 11. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂 粗粒砂を含む。しまりあり。(SD0003) | 26. 10YR6/4 にぶい黄褐色 極細粒砂 10YR8/2 灰白色細粒砂を斑状に含む。 | 41. 10YR2/2 黒褐色 粘土 (SK0732) | 56. 10YR2/2 黒褐色 粘土 地山を粒状に含む。(SK1032) |
| 12. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粗粒砂 10YR5/6 中粒砂を斑状に含む。硬くしまる。(SD0002) | 27. 10YR6/2 灰白色 粗粒砂 10YR2/2 黒褐色シルトを斑状に含む。硬くしまる。(近世豊地土) | 42. 10YR2/2 黒褐色 粘土 地山を斑状に含む。(SK0735) | |
| 13. 10YR4/1 褐灰色 シルト 炭化物少量含む。硬くしまる。(SD0002) | 28. 10YR8/3 淡黄褐色 粗粒砂 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂を斑状に含む。(近世豊地土) | 43. 10YR3/2 黒褐色 シルト 地山を粒状に含む。焼土粒を含む。(SD0893) | |
| 14. 10YR4/2 灰黄褐色 中粒砂 繪層を含む。(SD0002) | 29. 10YR5/3 にぶい黄褐色 粗粒砂 10YR8/2 灰白色細粒砂、10YR2/2 黒褐色シルトとの斑土。(近世豊地土) | 44. 10YR2/2 黒褐色 シルト 地山をブロック状、粒状に含む。(SD0893) | |
| 15. 10YR5/3 にぶい黄褐色 極細粒砂 10YR8/2 灰白色細粒砂、10YR2/2 黒褐色シルトを斑状に含む。 | 30. 10YR7/2 にぶい黄褐色 粗粒砂 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂がラミナ状に堆積。(近世豊地土) | 45. 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 無遺物層。(SD0893) | |

図4 調査区北壁土層断面図 (S=1/60)



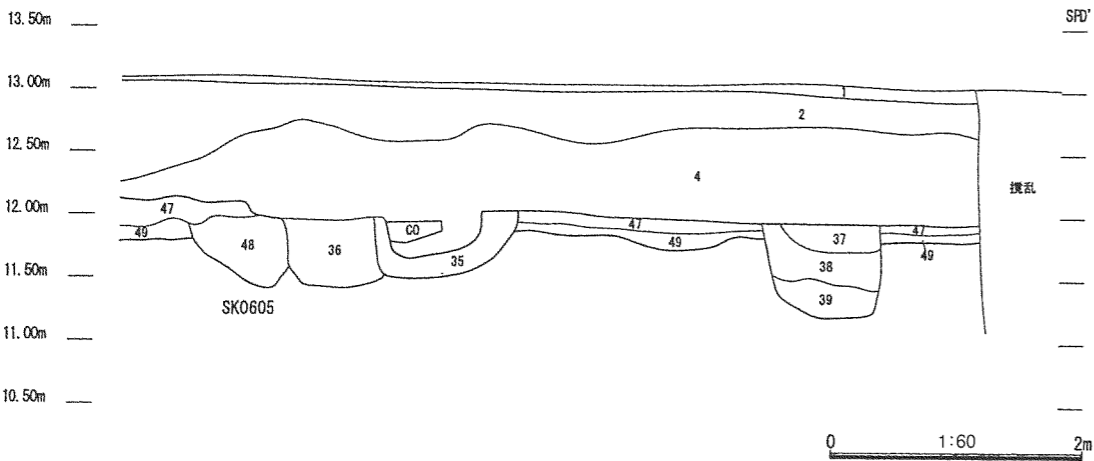
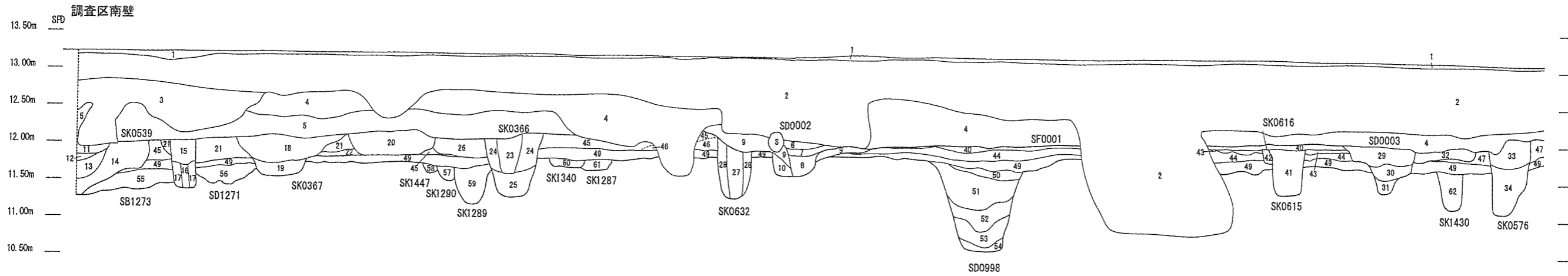
- | | | |
|--|---|--|
| 1. 掘削
(試掘坑) | 16. 10YR3/1 黒褐色 粘土
中礫主体の層。(中世包層) | 31. 10YR5/3 にぶい黄褐色 中粒砂
しまりなし。(A区 SDO701第6層) |
| 2. 10YR5/9 黄褐色 細粒砂 (黄土) | 17. 10YR3/1 黒褐色 粘土
硬くしまる。(中世包層) | 32. 10YR3/2 黒褐色 シルト
10YR8/1灰白色を粒状に含む。(SK1122) |
| 3. 10YR5/1 褐灰色 細粒砂
細～中礫多く含む。(昭和以降) | 18. 10YR5/1 褐灰色 粘土
硬くしまる。10YR8/1灰白色極細粒砂の粒を少量含む。(SK0969) | 33. 10YR3/3 暗褐色 粘土
地山を少量含む。(SK1161) |
| 4. 10YR3/1 黒褐色 細粒砂
細礫含む。下層に10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂が堆積。(SD0241) | 19. 10YR3/2 黒褐色 粘土
10YR8/1灰白色極細粒砂の粒を少量含む。細礫少量含む。(SK0969) | 34. 10YR2/3 黒褐色 粘土
地山を斑状に含む。(SK1168) |
| 5. 10YR3/3 暗褐色 細粒砂
細礫含む。中～大礫をわずかに含む。(明治以降) | 20. 10YR3/3 暗褐色 細粒砂
10YR8/1灰白色極細粒砂の粒を少量含む。細礫含む。(SK0969) | 35. 10YR2/3 黒褐色 粘土
地山を少量含む。(SK1181) |
| 6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 細粒砂
細礫含む。一部地山を斑状に含む。(明治以降) | 21. 10YR3/4 暗褐色 シルト
10YR8/1灰白色極細粒砂の粒を少量含む。細礫含む。(SK0969) | 36. 10YR2/2 黒褐色 粘土
(SK1181) |
| 7. 10YR5/2 灰黄褐色 細粒砂
地山を斑状に含む。細礫を含む。硬くしまる。(明治以降) | 22. 10YR3/2 黒褐色 粘土
地山を斑状に含む。(SK1409) | 37. 10YR2/3 黒褐色 粘土
(SK1435) |
| 8. 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂
地山を斑状に含む。細礫を含む。硬くしまる。(明治以降) | 23. 10YR3/2 黒褐色 粘土
10YR8/1灰白色極細粒砂を粒状または斑状に含む。(A区 SDO701第1層) | 38. 10YR2/3 黒褐色 粘土
地山を斑状に含む。(SK1226) |
| 9. 10YR5/4 にぶい黄褐色 細粒砂
10YR7/1灰白色細粒砂を含む。硬くしまる。(近世整地面) | 24. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト
10YR8/1灰白色～10YR8/3淡黄褐色極細粒砂を斑状に含む。(SK1314) | 39. 10YR2/3 黒褐色 シルト
(SK1435) |
| 10. 10YR7/1 灰白色 極細粒砂
硬くしまる。(近世整地面) | 25. 10YR3/2 黒褐色 シルト
10YR8/1灰白色～10YR8/3淡黄褐色極細粒砂の粒を少量含む。(A区 SDO701第2層) | 40. 10YR3/4 暗褐色 シルト
炭化物粒。10YR8/1灰白色極細粒砂の粒を少量含む。(A区 SDO701第3層) |
| 11. 10YR5/3 にぶい黄褐色 細粒砂
10YR8/2灰白色細粒砂、10YR2/2黒褐色シルトとの斑状。攪拌された土。(近世整地土) | 26. 10YR3/2 黒褐色 シルト
炭化物粒。10YR8/1灰白色極細粒砂の粒を少量含む。(A区 SDO701第2層) | 41. 10YR2/3 暗褐色 粘土
地山を斑状に含む。(SK1432) |
| 12. 10YR8/1 灰白色 細粒砂
10YR8/2灰白色細粒砂を斑状に含む。10YR2/2黒褐色シルトを少量含む。攪拌された土。硬くしまる。(近世整地土) | 27. 10YR3/2 黒褐色 シルト
炭化物粒。10YR8/1灰白色極細粒砂の粒を少量含む。(A区 SDO701第2層) | 42. 10YR2/3 暗褐色 粘土
地山を斑状に含む。(SK1432) |
| 13. 10YR7/2 にぶい黄褐色 細粒砂
10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂がラミナ状に堆積。(近世整地土) | 28. 10YR6/4 にぶい黄褐色 中粒砂
炭化物粒。10YR8/1灰白色極細粒砂の粒を少量含む。(A区 SDO701第3層) | 43. 10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト
10YR8/2灰白色粘土(地山)と10YR6/4にぶい黄褐色粘土(地山)の粒を多量に含む。攪拌された土。(SK1161) |
| 14. 10YR8/3 淡黄褐色 極細粒砂
10YR8/2灰白色細粒砂をブロック状に、10YR2/2黒褐色シルトを斑状に含む。しまりやや弱い。(近世整地土) | 29. 7.5YR4/6 褐色 粘土
10YR6/4にぶい黄褐色中粒砂が層状に水平堆積。鉄分多く含む。(A区 SDO701第4層) | |
| 15. 10YR8/2 灰白色 極細粒砂
10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂、10YR2/2黒褐色シルトを斑状に含む。下層はやブロック状となる。(近世整地土) | 30. 10YR6/4 にぶい黄褐色 中粒砂
10YR2/2黒褐色シルトが層状に堆積。下層にならにつれ中粒砂が主体。(A区 SDO701第5層) | |

図5 調査区東壁土層断面図 (S=1/60)



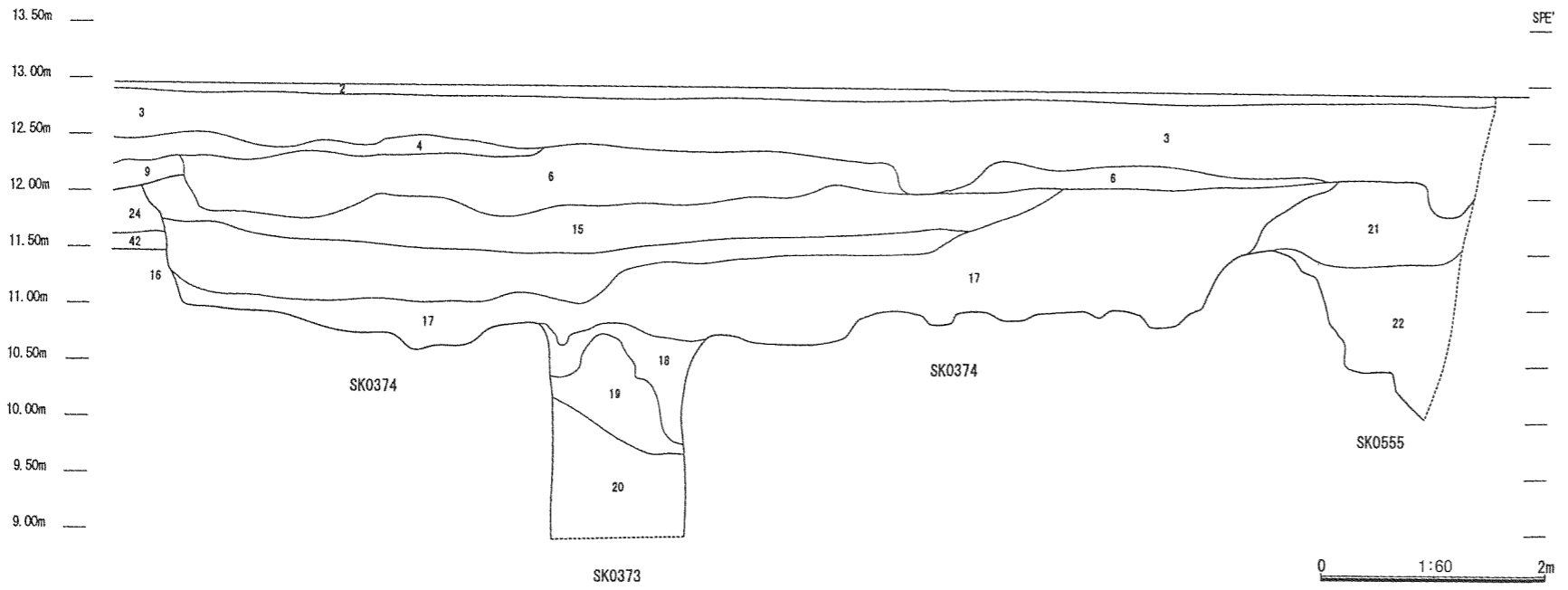
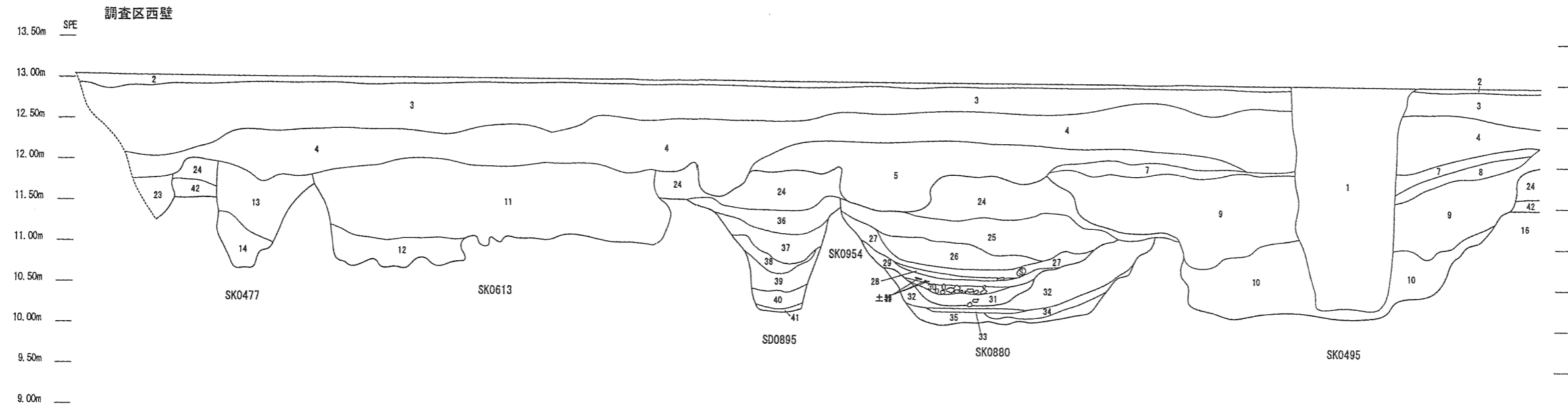
- | | | | | | |
|--------------------|------|--|--|--|--|
| 1. 10YR5/8 黄褐色 | 粗粒砂 | (表土) | | | |
| 2. 10YR5/1 褐灰色 | 細粒砂 | 中〜大礫多く含む。(昭和以降) | | | |
| 3. 10YR3/3 暗褐色 | 細粒砂 | 細礫含む。下層に10YR5/3にふい黄褐色極細粒砂が堆積。(明治以降) | | | |
| 4. 10YR4/3 にふい黄褐色 | 細粒砂 | 地山を粒状に含む。 | | | |
| 5. 10YR4/3 にふい黄褐色 | 細粒砂 | 中〜大礫をわずかに含む。(明治以降) | | | |
| 6. 10YR7/6 明黄褐色 | 粘土 | 硬くしまる。 | | | |
| 7. 10YR7/2 にふい黄褐色 | 細粒砂 | 中粒砂含む。細〜中礫含む。(SE0243) | | | |
| 8. 10YR4/2 灰黄褐色 | 粗粒砂 | しまり弱い。(SE0243) | | | |
| 9. 10YR4/3 にふい黄褐色 | 極細粒砂 | 粗粒砂、細礫含む。(SK0539) | | | |
| 10. 10YR3/1 黒褐色 | 粘土 | 10YR4/3にふい黄褐色極細粒砂、地山を含む。(SK0539) | | | |
| 11. 10YR3/2 黒褐色 | 粘土 | 11層を少量含む。(SK0539) | | | |
| 12. 10YR5/3 にふい黄褐色 | 粘土 | 10YR6/2灰白色極細粒砂(地山)を少量含む。(SK0539) | | | |
| 13. 10YR4/4 褐色 | 極細粒砂 | 細〜中礫含む。10YR2/2黒褐色シルトを少量含む。(SK0260) | | | |
| 14. 10YR7/1 灰白色 | 極細粒砂 | 硬くしまる。(近世豊地面) | | | |
| 15. 10YR5/3 にふい黄褐色 | 極細粒砂 | 10YR7/1灰白色極細粒砂を斑状に含む。硬くしまる。(近世豊地面) | | | |
| 16. 10YR5/3 にふい黄褐色 | 細粒砂 | 10YR6/2灰白色細粒砂、10YR2/2黒褐色シルトとの斑土。攪拌された土。(近世豊地土) | | | |
| 17. 10YR3/1 黒褐色 | 粘土 | 硬くしまる。(中世包含層) | | | |
| 18. 10YR5/1 褐灰色 | 粘土 | 硬くしまる。10YR6/1灰白色極細粒砂の粒を少量含む。 | | | |
| 19. 10YR6/3 にふい黄褐色 | シルト | 10YR6/2灰白色粘土(地山)と10YR6/4にふい黄褐色粘土(地山)の粒を多量に含む。攪拌された土。(SK0999) | | | |
| 20. 10YR5/3 にふい黄褐色 | シルト | 10YR6/4にふい黄褐色粘土(地山)を斑状に含む。(SK0999) | | | |
| 21. 10YR3/2 黒褐色 | シルト | 焼土をわずかに含む。(SD1230 第1層) | | | |
| 22. 10YR2/2 黒褐色 | 粘土 | 10YR6/2灰白色極細粒砂(地山)の斑土。斑土の層と10YR2/2黒褐色シルト層が交互に層状堆積。(SD1230 第2層) | | | |
| 23. 10YR2/2 黒褐色 | 粘土 | 10YR6/4にふい黄褐色粘土(地山)を斑状に含む。(SD1230 第3層) | | | |
| 24. 10YR4/3 にふい黄褐色 | 粘土 | (SD1230 第4層) | | | |
| 25. 10YR4/3 にふい黄褐色 | 極細粒砂 | 10YR6/2灰白色粘土(地山)と10YR6/4にふい黄褐色粘土(地山)を粒状に含む。しまり弱い。(SD1230 第5層) | | | |
| 26. 10YR4/2 灰黄褐色 | 粘土 | (SD1230 第6層) | | | |
| 27. 10YR2/2 黒褐色 | 粘土 | 焼土を含む。(SB1273) | | | |
| 28. 10YR2/1 黒色 | 粘土 | 地山を斑状に含む。(SK1373) | | | |
| 29. 10YR2/2 黒褐色 | 粘土 | 地山を斑状に含む。(SK1379) | | | |
| 30. 10YR2/3 黒褐色 | 粘土 | (SB1273) | | | |
| 31. 10YR3/2 黒褐色 | 粘土 | 地山との斑土。(SB1273) | | | |

図6 調査区南東壁土層断面図 (S=1/60)



- | | | |
|--|---|---|
| 1. 10YR5/8 黄褐色 粗粒砂 (表土) | 21. 10YR5/3 にぶい黄褐色 細粒砂 10YR8/2灰白色極細粒砂(地山)を粒状に含む。(SK0367) | 41. 10YR2/3 黒褐色 粘土 42-43層を斑状に含む。 |
| 2. 10YR5/1 褐灰色 細粒砂 中〜大礫多く含む。(昭和以降) | 22. 10YR8/3 浅黄褐色 極細粒砂 44層を含む。(SK0367) | 42. 10YR2/3 黒褐色 粘土 42-43層を少量含む。 |
| 3. 10YR3/3 暗褐色 細粒砂 細礫含む。下層に10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂が堆積。(明治以降) | 23. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂 (SK0366) | 43. 10YR2/1 黒色 粘土 (近世整地土) |
| 4. 10YR3/3 暗褐色 細粒砂 細礫含む。下層に10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂が堆積。(明治以降) | 24. 10YR5/3 にぶい黄褐色 極細粒砂 地山を少量含む。(SK0366) | 44. 10YR8/3 浅黄褐色 極細粒砂 10YR2/2黒褐色シルトと10YR6/4にぶい黄褐色粘土(地山)を斑状に含む。硬くしまる。(近世整地土) |
| 5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 細粒砂 中〜大礫を含む。(明治以降) | 25. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂 地山を斑状に含む。(SK0366) | 45. 10YR5/3 にぶい黄褐色 細粒砂 10YR8/2灰白色極細粒砂(地山)を粒状に含む。(近世整地土) |
| 6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 細粒砂 10YR5/6中粒砂を斑状に含む。硬くしまる。(SD0002) | 26. 10YR3/3 暗褐色 細粒砂 細礫含む。10YR2/2黒褐色粘土ブロックを含む。 | 46. 10YR8/3 浅黄褐色 極細粒砂 44層を含む。(近世整地土) |
| 7. 10YR4/1 褐灰色 シルト 炭化物少量含む。硬くしまる。(SD0002) | 27. 10YR4/1 褐灰色 シルト 25層を少量含む。(SK0632) | 47. 10YR3/3 暗褐色 細粒砂 10YR8/2灰白色極細粒砂(地山)を粒状に含む。(近世整地土) |
| 8. 10YR4/2 灰黄褐色 中粒砂 細礫含む。(SD0002) | 28. 10YR2/2 黒褐色 粘土 地山との斑土。硬くしまる。(SK0632) | 48. 10YR3/1 暗褐色 粘土 10YR8/2灰白色極細粒砂(地山)を少量含む。(SK0605) |
| 9. 10YR4/1 褐灰色 極細粒砂 細礫を少量含む。(SD0002) | 29. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂 粗粒砂を含む。中〜大礫多く含む。しまりあり。(SD0003) | 49. 10YR3/1 暗褐色 粘土 (中世包層) |
| 10. 10YR2/2 黒褐色 シルト 地山を斑状に含む。(SD0002) | 30. 10YR4/2 灰黄褐色 粗粒砂 10YR8/2灰白色極細粒砂(地山)を斑状に含む。(SD0003) | 50. 10YR2/2 黒褐色 シルト 地山を粒状に含む。硬くしまる。(SD0998) |
| 11. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂 粗粒砂。細礫含む。(SK0539) | 31. 10YR4/1 褐灰色 粗粒砂 粗粒砂を含む。しまりあり。(SD0003) | 51. 10YR2/2 黒褐色 シルト 地山ブロック多量を含む。(SD0998) |
| 12. 10YR3/1 黒褐色 粘土 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂、地山を含む。(SK0539) | 32. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粗粒砂 粗粒砂を含む。しまりあり。(SD0003) | 52. 10YR2/2 黒褐色 シルト 地山を斑状に含む。(SD0998) |
| 13. 10YR3/2 黒褐色 粘土 11層を少量含む。(SK0539) | 33. 10YR6/4 にぶい黄褐色 極細粒砂 10YR8/2灰白色粘土(地山)と10YR6/4にぶい黄褐色粘土(地山)の粒を多量に含む。(SK0576) | 53. 10YR2/2 黒褐色 シルト 地山を斑状に含む。一部層状に堆積。(SD0998) |
| 14. 10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト 10YR8/2灰白色極細粒砂(地山)を少量含む。(SK0539) | 34. 10YR3/1 黒褐色 粘土 32層を斑状に含む。(SK0576) | 54. 10YR2/2 黒褐色 粘土 地山を斑状に含む。(SB1273) |
| 15. 10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト 10YR8/2灰白色極細粒砂(地山)を少量含む。(SK0635) | 35. 10YR4/2 灰黄褐色 粗粒砂 | 55. 10YR2/3 黒褐色 粘土 地山を斑状に含む。(SD1271) |
| 16. 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト しまりなし。(SK0635 柱底) | 36. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粗粒砂 | 56. 10YR2/3 黒褐色 粘土 (SK1290) |
| 17. 10YR6/2 灰黄褐色 粗粒砂 10YR8/2灰白色極細粒砂(地山)と10YR2/2黒褐色シルトの粒を多量に含む。(SK0635) | 37. 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂 | 57. 10YR3/2 黒褐色 粘土 (SK1447) |
| 18. 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂 (SK0367) | 38. 10YR4/2 灰黄褐色 極細粒砂 | 58. 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR2/2黒褐色粘土を含む。(SK1289) |
| 19. 10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト 地山を斑状に含む。(SK0367) | 39. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 地山を斑状に含む。細〜中礫を含む。黄土粒を少量含む。硬くしまる。(SF0001) | 59. 10YR3/2 黒褐色 粘土 (SK1287) |
| 20. 10YR3/4 暗褐色 極細粒砂 細〜中礫含む。(SK0367) | 40. 10YR2/3 黒褐色 粘土 43層を部分的に含む。細〜中礫を含む。黄土粒を少量含む。硬くしまる。(SF0001) | 60. 10YR2/2 黒褐色 粘土 (SK1287) |
| | | 61. 10YR2/2 黒褐色 粘土 (SK1287) |
| | | 62. 10YR3/1 黒褐色 粘土 地山を斑状に含む。(SK1430) |

図7 調査区南壁土層断面図 (S=1/60)



- | | | | |
|------------------------|--------------------------------|---------------------|---------------------------|
| 1. 攪乱 (試掘坑) | 16. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト (SK0374) | 31. 10YR3/1 黒褐色粘土 | 中礫を少量含む。(SK0954) |
| 2. 10YR5/8 黄褐色粗粒砂 (黄土) | 17. 10YR6/4 にぶい黄褐色粘土 | 32. 10YR2/2 黒褐色粘土 | 31層を斑状に含む。酸化鉄を含む。(SK0880) |
| 3. 10YR5/1 褐灰色粗粒砂 | 18. 10YR2/2 黒褐色粘土 | 33. 10YR8/1 灰白色粘土 | (SK0880) |
| 4. 10YR3/3 暗褐色粗粒砂 | 19. 10YR8/1 灰白色粗粒砂 | 34. 10YR3/1 黒褐色粘土 | 地山との斑土。(SK0880) |
| 5. 10YR4/1 褐灰色極細粒砂 | 20. 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土 | 35. 10YR2/2 黒褐色粘土 | 31層を斑状に含む。(SK0880) |
| 6. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 | 21. 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土 | 36. 10YR2/2 黒褐色シルト | 31層を斑状に含む。(SK0880) |
| 7. 10YR6/1 褐灰色粘土 | 22. 10YR2/2 黒褐色粘土 | 37. 10YR2/2 黒褐色シルト | 燧土粒をわずかに含む。(SD0895) |
| 8. 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 | 23. 10YR5/2 灰黄褐色シルト | 38. 10YR4/1 褐灰色粘土 | 地山を斑状に含む。(SD0895) |
| 9. 10YR3/1 黒褐色極細粒砂 | 24. 10YR7/2 にぶい黄褐色極細粒砂 | 39. 10YR3/1 黒褐色粘土 | 13・14層と地山の斑土。(SD0895) |
| 10. 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト | 25. 10YR3/2 黒褐色シルト | 40. 10YR3/1 黒褐色粘土 | (SD0895) |
| 11. 10YR5/2 灰黄褐色シルト | 26. 10YR2/2 黒褐色シルト | 41. 10YR4/2 灰黄褐色シルト | 40層と地山の斑土。(SD0895) |
| 12. 10YR7/6 明黄褐色粘土 | 27. 10YR2/1 黒色粘土 | 42. 10YR3/2 黒褐色シルト | しまりあり。(中世色層) |
| 13. 10YR4/2 灰黄褐色シルト | 28. 10YR8/1 灰白色粘土 | | |
| 14. 10YR4/2 灰黄褐色シルト | 29. 10YR3/1 黒褐色粘土 | | |
| 15. 10YR6/4 にぶい黄褐色極細粒砂 | 30. 10YR8/1 灰白色粘土 | | |

図8 調査区西壁土層断面図 (S=1/60)



図 10 戦国期~古代の遺構位置図 (S=1/200) [第 2 面]

(3) 遺構と遺物

①近代以降の概要

名古屋城では、1872年(明治5)に東京鎮台第三分営(のちの名古屋鎮台)が名古屋城内に置かれ、1874年(明治7)には、三之丸全域が陸軍省に移管された。そして、三之丸の中央北部にあたる当調査地のあたりは、1879年(明治11)名古屋鎮台に陸軍の砲兵第3大隊として創設され、砲兵第3連隊を経て、1890年(明治22)に野砲兵第3連隊がおかれていた。調査地点は、朝礼や行進などを行なう「営庭」と呼ばれる広場にあたり、1900～1903年(昭和12～15)頃には、中国大陸への派兵のための訓練場にもなっていた。その頃の遺構として訓練用の塹壕や個人用掩体(えんたい)、防空壕などを江戸時代の盛土面で検出した。そして、終戦後の当地は、米軍進駐軍の施設として営庭を利用した野球場(キャッスル野球場)となっていたところである。

●塹壕

幅50cmほど、深さ80～110cmほどの直線状の溝に3～4mごとに幅60cmほど、長さ120cmほどの長方形のスペースを取り付けた塹壕が見つかったほか、己字形や口字形の溝や方形の小部屋を設けた塹壕を検出した。埋土からの遺物はほとんど無かったが、プラスチック製の歯ブラシやアメリカ合衆国の調達物品の伝票とおもわれるカードが出土した。

●個人用掩体(俗称「たこつぼ」)

訓練のための一人用の塹壕で個人用掩体と呼ばれる径60～70cmほど、現状の深さが80cmほどの円形の土坑が60基ほど検出された。分布域が江戸時代の道路遺構(「御太鼓櫓筋」)より東側で塹壕に囲まれた範囲に集中することは、訓練のあり方を示すものであろうか。穴を掘ってすぐ埋めることが多かったようで、埋まった土も近世の盛土の黄灰白色のシルト質土である。出土品は、ほとんど無かったが、一箇所から錆びた銃剣とおもわれる破片が出土した。

●防空壕

防空壕と考えられる遺構が3箇所検出された。いずれも調査区東半(A区)の塹壕等のつくられた範囲に位置し、南北に長く造られている。これらは、野砲兵第3連隊で使用されたものとおもわれるが、一定の規格でつくられたのであろう。南側の1基は、出入口通路と部屋の間には扉のあるつくりで、戸の軸を受ける礎石が据えられていた。部屋の床下(?)には、太い根太状の丸木で、表面を焼いたものを3本並べていて、文書や図面を緊急避難させるための施設かもしれない。

●貯水槽(?)

1.6～1.8m四方、現状で深さ0.8mほどの浴槽状の土坑内面を白色と紫色が混じる粘土で厚さ15cmほど貼って表面を平滑に仕上げたものである。水を溜める施設であったとおもわれる。同規格の遺構が2箇所のほか、1.6～2.6m四方で現状の深さ0.8mほどの長方形の土坑が検出され、この内面には、漆喰が6～7cmの厚さで貼られていた。これも同様の機能をもつ施設であったと思われる。



図11 「野砲兵第3連隊」時代の遺構[①～③防空壕、④⑤貯水槽、他は個人用掩体(たこつぼ)と塹壕]

② 近世の概要

A 整地土

表土除去作業の際、現地表から70～90cm下に黄灰白色のシルト質土が調査区のほぼ全域に広がっている状態を検出した。これらの土層は、調査区西側の愛知県警察本部地点の調査でも検出されていたものの、これまで当遺跡の他の調査では、ほとんど確認されなかった土である。本来の自然堆積層ではないと判断され、調査の結果、当調査地点付近では、名古屋城「三之丸」築城時、最初の段階で戦国時代以前の地面(標高約11.5m)の上に80cmほどの厚さで盛土し、地盤整備がなされていたとおもわれる。この土の調達には、北側にある二之丸南の堀を掘削した際の発生土(この地域の地山である熱田層)を使用したと考えられ、北側から順に土を積んでいった作業の状況が調査区東壁の土層断面で観察された(写真10)。また、この盛土は調査区の南壁付近ではほとんど無くなっており、江戸時代後期以降の包含層または、その土の整地土が南側に続くようである。

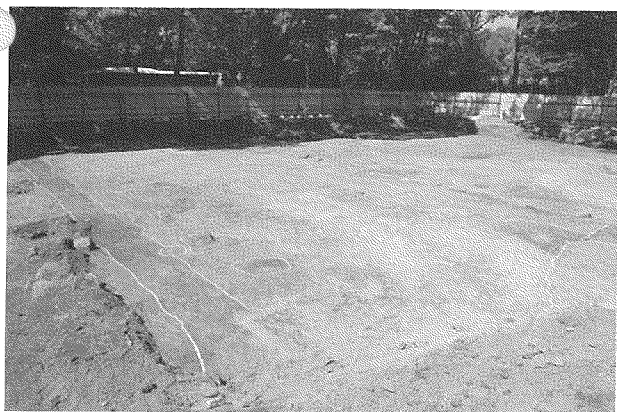


写真8 盛土上面の検出遺構



写真9 盛土面の調査(奥)



写真10 盛土層断面(調査区東壁)

B 道路・側溝

盛土による整地土の上面で遺構の検出を行う作業のなかで、調査区中央部を南北方向に幅7mほどの直線状で非常に硬く締まった部分が検出された。この部分は、名古屋城の三之丸中央部に位置する南北の道路で、二之丸の「御太鼓櫓」付近から南へのびていることから「御太鼓櫓筋」と呼ばれた道路であり、道路表面には、数cm大のチャートなどの礫を敷いてめり込んだ状態の部分があり、砂利敷きの道路であったことが判った。

また、道路幅の両端には、素掘りの側溝があり、埋土の遺物から江戸時代後期にはほとんど埋まっていたと思われる、埋土の上に土塀の基礎と考えられる一段の石列が道路東側に残存していた。側溝の断面形は、浅い逆台形で、現代の道路の側溝と同じ状態にあり、埋まるまでは悪水路として、雨水や屋敷地からの排水の機能があったと思われる。埋土下半には、微粒の砂やシルトが層状に溜まっていた。側溝底の傾斜は、調査区北端部から調査区南端部までの約40mの間で南端部側が約20cm下がっている。

C 溝状遺構

短いものや、幅の広いものなど、規模や形態の違いがあり、機能にも各種あったものと思われる。屋敷地割と考えられる溝は、SK(SD)477とした遺構であり、西側の愛知県警察本部地内の調査地点で検出された溝(SD202)の延長部分とおもわれ竹腰家の南側境界を示し、三之丸造営当初に設定されたものとおもわれる。その他の各種短い溝などの機能については、現在のところ明確でない。

D 塀の基礎

屋敷地の外周に造られた土塀等の基礎列と考えられる遺構が整地土面で検出された。屋敷地の道路際に一辺1.5m前後の隅丸方形の遺構が、ほぼ3m間隔で一列に並ぶ状況で検出された。これより規模の小さい柱穴列もあり、時期差による別の基礎遺構か同一構造物の遺構かは、現在のところ明確でない。道路西側の竹腰家側と道路東側の久野・横井・鈴木などの順で拝領された各氏屋敷地であった側の塀の基礎遺構の規模や形状もほぼ同じであった。

E 土蔵の基礎

調査区の北西部において、整地土上面で検出された長方形を呈する土蔵の基礎の遺構である。土蔵の壁部分の基礎は溝状で、幅が1.0~1.5m、長辺約14m、短辺約8.5mの長方形を呈し、埋土は、砂利と粘質土(シルト)を交互に入れて突き固める工法を施したとおもわれる状態で、深さは検出から約50cmであった。この壁部分の基礎の内側には、大棟の位置に2箇所の柱穴(一辺約1.5~1.7mの隅丸方形を呈している。)があり、この柱穴の埋土も径数cmから10cmの礫とシルトを互層に積んだ埋土として基礎にしている。これらの基礎は、いずれも土蔵上屋の重量に耐える強固な基礎として構築されたものである。

F 土坑

調査区の道路西側は、竹腰家屋敷地の最奥部にあたり、特に南半は大規模な廃棄土坑が重複して造られていて、江戸時代中期頃(18世紀代)と幕末頃の大規模土坑が集中する。道路東側では、同じ屋敷地を久野氏(17世紀)、横井氏(18世紀)、鈴木氏(18世紀末)などの変遷で拝領された屋敷地のうち、その西南部が当調査区の位置にあたと推定される。江戸時代前期の土坑は、比較的小型で数も多くないが、江戸時代中期頃(18世紀中頃)には、巨大な廃棄土坑(幅約6m、長さ約11mの楕円形)がつくられ、拝領が終わる際に、日常用品等で不用になった器物を処分したものと思われる。

G 井戸

井戸の遺構は比較的少なく、竹腰家側では1基、道路東側では、数基が調査区の東側に片寄り、敷地内でも、建物(居住域)に近い部分に井戸が造られているとおもわれる。

H 建物跡

調査区の道路跡を境に東半部(A区)のうち北側に、径50cm以下のピット(柱穴などの小穴)が方形に配置している状況であるが、一連の建物の推定が困難である。

B 道路・側溝など

●SF01

- <形状>直線状
- <長さ>検出長40m
- <幅>7.0m
- <深さ>
- <埋土>表面の一部に小礫敷きが残存
- <主な出土遺物と時期>
- <遺構の性格など>道路(「御太鼓櫓筋」)

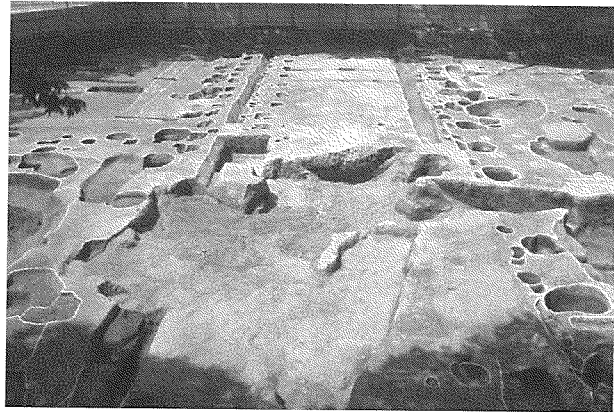


写真11 道路遺構(「御太鼓櫓筋」)

●石列

- <形状>1段の石列で直線状
- <長さ>現存部最長で7.5m
- <幅>石の奥行0.40m以内
- <深さ>石の高さ0.40m以内
- <埋土>側溝の埋土上位に構築
- <主な出土遺物と時期>割石、礫を少し含む。
- <遺構の性格など>道路に面した土塀の基礎石か



写真12 石列

●SD02(東側側溝)

- <形状>直線状
- <長さ>検出長40m
- <幅>1.4m
- <深さ>0.42m
- <埋土>シルトおよび砂
- <主な出土遺物と時期>瀬戸美濃陶器碗、皿、椀、瓦片など。19世紀中頃。
- <遺構の性格など>道路の側溝(築城期の区画溝)

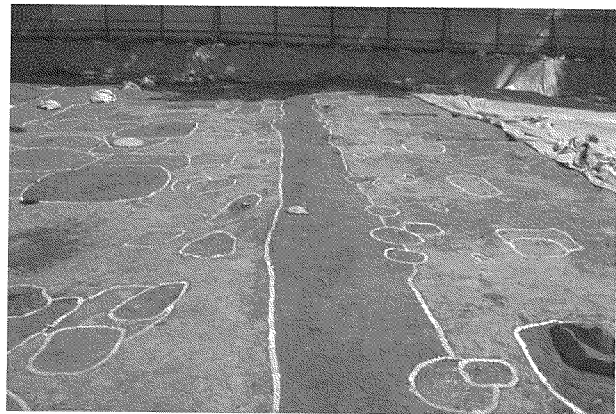


写真13 側溝(SD02)

●SD03(西側側溝)

- <形状>直線状
- <長さ>検出長40m
- <幅>0.97m
- <深さ>0.44m
- <埋土>シルトおよび砂
- <主な出土遺物と時期>瀬戸美濃陶器碗片、軒椀瓦など。19世紀中頃
- <遺構の性格など>道路の側溝(築城期の区画溝)

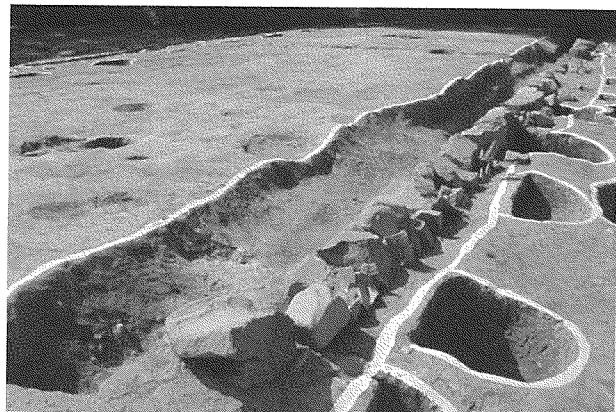


写真14 側溝(SD03)

C 溝状遺構

●SD136

<形状>太短い溝状

<長さ>11.1m

<幅>1.3m

<深さ>0.76m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>御深井釉丸皿、肥前染付磁器小杯、肥前系陶器皿、中国磁器など。

17世紀～18世紀初。

<遺構の性格など>南北方向の溝

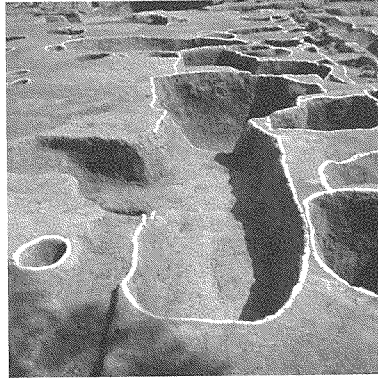


写真15 SD136

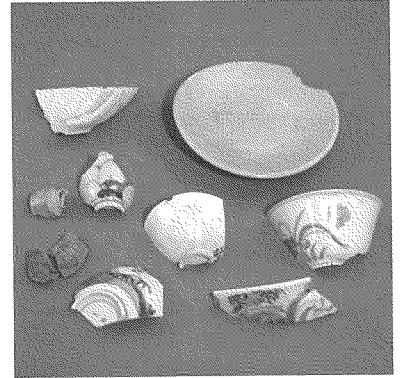


写真16 SD136出土遺物

●SD201

<形状>溝状

<長さ>8.1m

<幅>0.50m

<深さ>0.25m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>肥前染付磁器皿、常滑赤物鉢、瀬戸美濃陶器片など。18世紀後半か。

<遺構の性格など>東西方向の溝

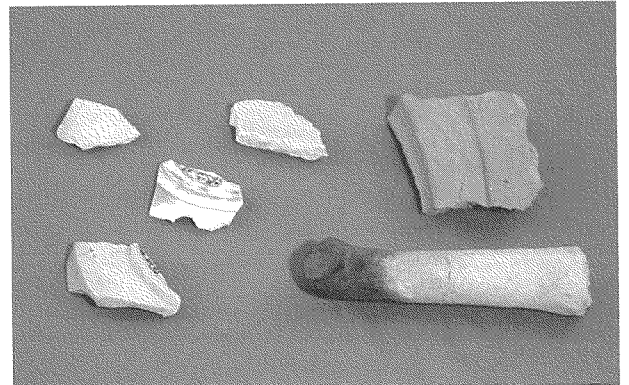


写真17 SD201出土遺物

●SD241

<形状>溝状

<長さ>(15.3)m

<幅>0.36m

<深さ>0.12m

<埋土>暗褐色砂質土、細礫含む

<主な出土遺物と時期>染付磁器碗片など。19世紀前半か。

<遺構の性格など>東西方向の溝

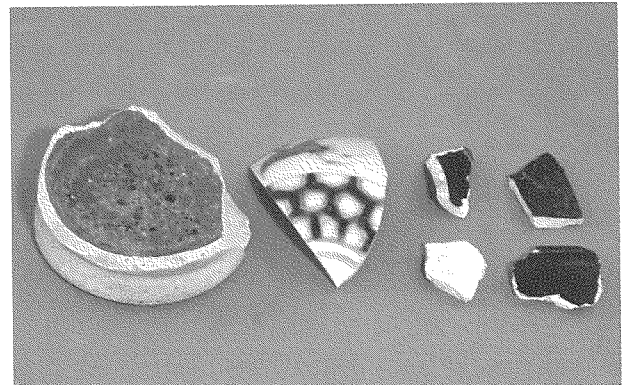


写真18 SD241出土遺物

●SK(SD)260

<形状>溝状

<長さ>(7.6)m

<幅>1.7m

<深さ>1.6m

<埋土>暗褐色土

<主な出土遺物と時期>瀬戸播鉢片、
瀬戸拳骨茶碗片など。18世紀。

<遺構の性格など>屋敷境の溝か。

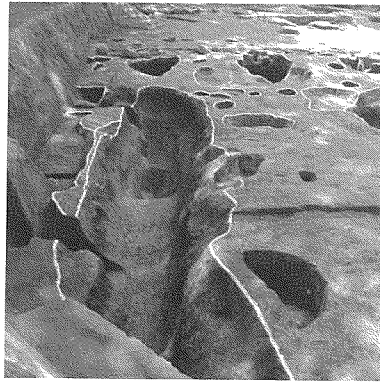


写真19 SK(SD)260

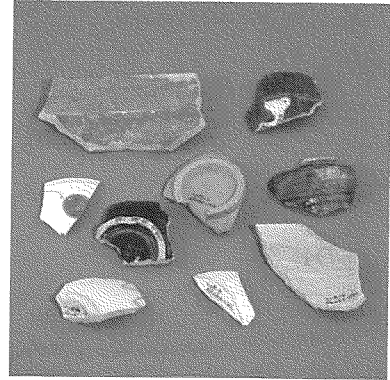


写真20 SK(SD)260出土遺物

●SK(SD)477

<形状>溝状

<長さ>(17.0)m

<幅>(0.76)m

<深さ>1.4m

<埋土>暗褐色土

<主な出土遺物と時期>肥前染付磁器、志野丸皿、美濃陶器灰釉皿、
唐津丸皿、瀬戸播鉢、内耳鍋など。
17世紀代。

<遺構の性格など>築城期、屋敷割
の区画溝か。



写真21 SK(SD)477

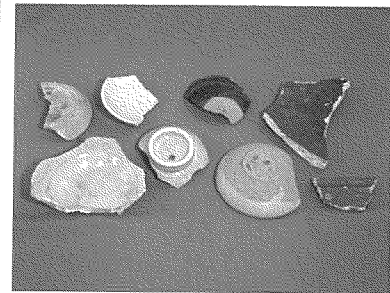


写真22 SK(SD)477出土遺物

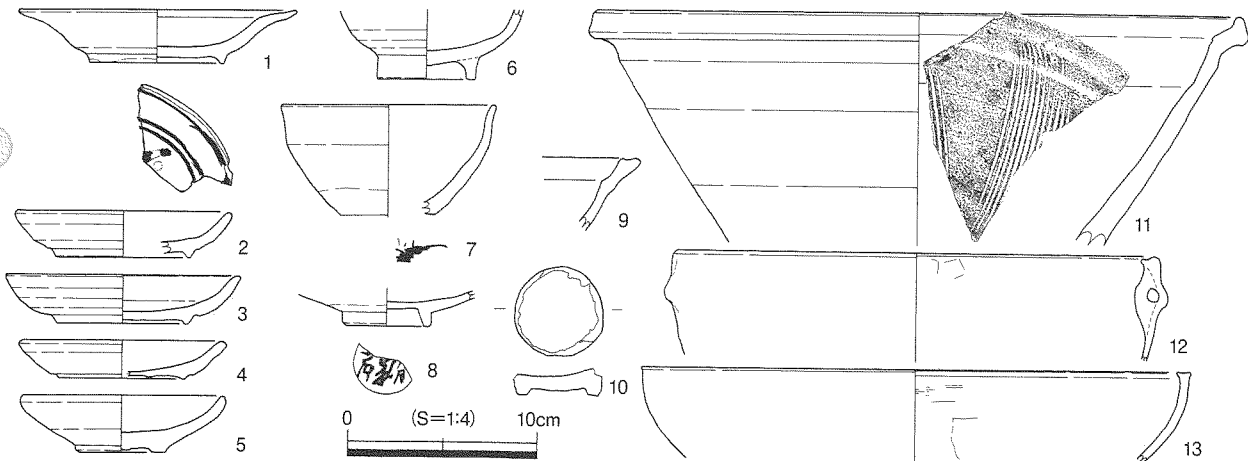


図12 SK(SD)477出土遺物

表1 SK(SD)477掲載遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	陶器	灰釉皿	17世紀、瀬戸美濃	8	陶器	鉄絵皿	18世紀後半、信楽か。(後世の混入品)
2	陶器	志野織部皿	17世紀、瀬戸美濃	9	陶器	播鉢	17世紀、瀬戸美濃
3	陶器	志野丸皿	17世紀、瀬戸美濃	10	陶器	播鉢	17世紀、瀬戸美濃
4	陶器	志野丸皿	17世紀、瀬戸美濃	11	陶器	加工円盤	鉄軸天目茶碗底部
5	陶器	唐津丸皿	17世紀、唐津、明灰色釉	12	土師器	内耳鍋	
6	陶器	灰釉碗	17世紀、瀬戸美濃	13	土師器	内耳鍋	
7	陶器	天目茶碗	17世紀、瀬戸美濃、鉄釉				

D 塀の基礎

●SK15

<形状>隅丸方形

<長さ>1.26m

<幅>1.26m

<深さ>1.00m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>染付磁器碗、
青磁香炉、挿鉢など。18世紀。

<遺構の性格など>道路東側屋敷地。
土塀の柱穴。



写真23 SK15

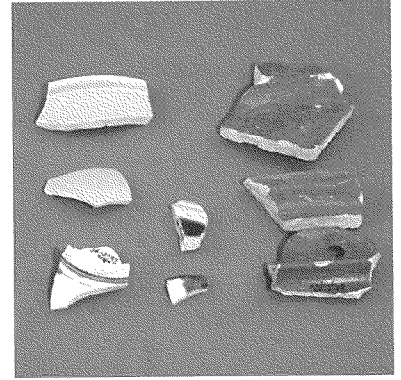


写真24 SK15出土遺物

●SK26

<形状>隅丸方形

<長さ>1.57m

<幅>1.35m

<深さ>0.95m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>染付磁器碗・
皿、瀬戸美濃産陶器皿など。18世紀。

<遺構の性格など>道路東側屋敷地。
土塀の柱穴。

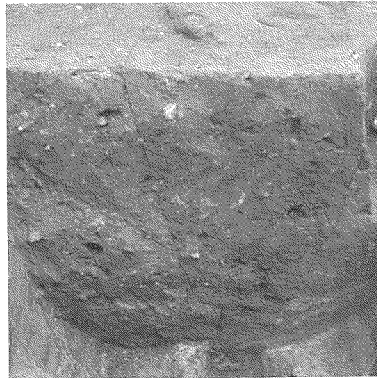


写真25 SK26(埋土断面)

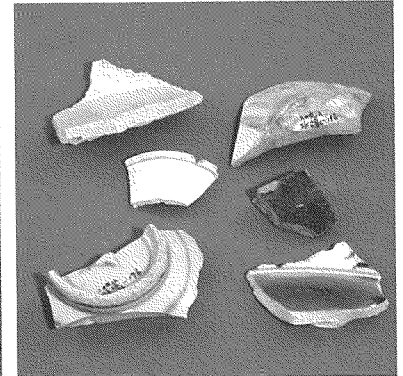


写真26 SK26出土遺物

●SK486

<形状>隅丸方形

<長さ>0.72m

<幅>0.58m

<深さ>0.76m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>18世紀代。

<遺構の性格など>道路東側屋敷地。
土塀の柱穴。SK26を切る。

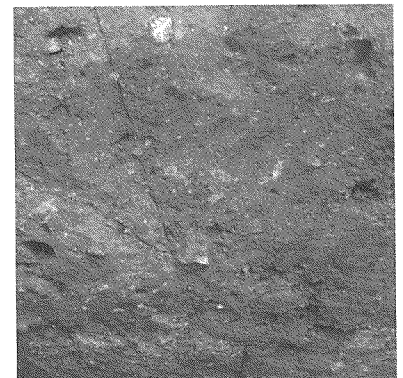


写真27 SK486(埋土断面:中央部)

●SK336

<形状>不整形

<長さ>1.67m

<幅>1.39m

<深さ>1.24m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>平瓦など。17世紀か。

<遺構の性格など>道路西側、竹腰家屋敷地。土塀の柱穴。

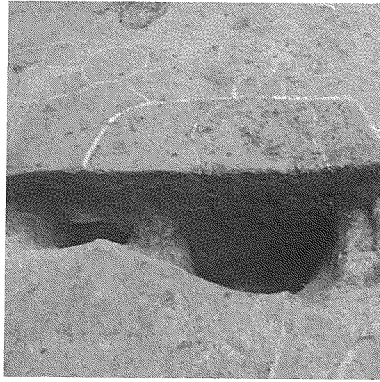


写真28 SK336

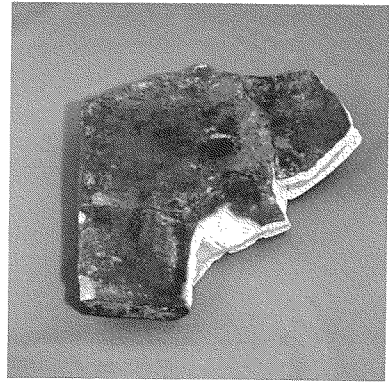


写真29 SK336出土遺物



●SK549

<形状>楕円形

<長さ>0.94m

<幅>0.70m

<深さ>0.60m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>17世紀か。

<遺構の性格など>SK336を切る。

道路西側、竹腰家屋敷地。土塀の柱穴。

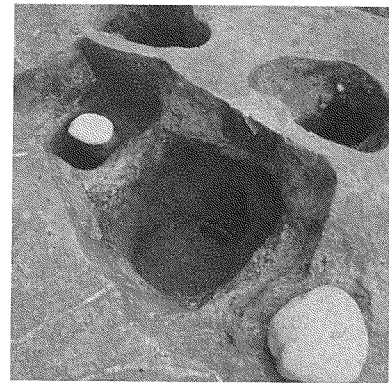


写真30 SK549



●SK568

<形状>隅丸方形

<長さ>1.33m

<幅>1.25m

<深さ>1.08m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>梅鉢紋の軒棧瓦、染付磁器小瓶。18世紀後半。

<遺構の性格など>道路西側、竹腰家屋敷地。土塀の柱穴。



写真31 SK568

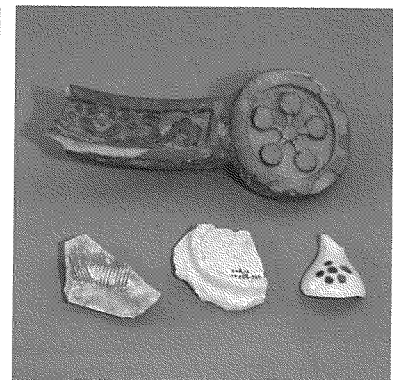


写真32 SK568出土遺物

E 土蔵の基礎

●SK540

<形状>隅丸方形

<長さ>1.51m

<幅>1.48m

<深さ>0.58m

<埋土>黄白色シルトと拳大の礫を互層に詰める。

<主な出土遺物と時期>瀬戸播鉢片など。18世紀中頃か。

<遺構の性格など>土蔵の大棟を支える柱の一つ。

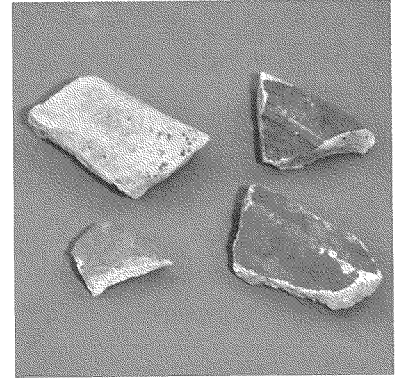
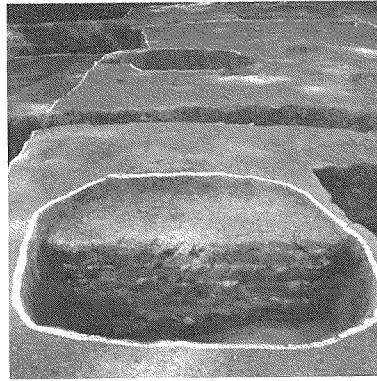


写真33 SK541とSK540(奥) 写真34 SK540出土遺物

●SK541

<形状>隅丸方形

<長さ>1.68m

<幅>1.59m

<深さ>0.55m

<埋土>黄白色シルトと拳大の礫を互層に詰める。

<主な出土遺物と時期>戦国期の播鉢片

<遺構の性格など>土蔵の大棟を支える柱の一つ。



写真35 SK541

●SK542

<形状>溝状

<長さ>8.02m

<幅>1.34m

<深さ>0.53m

<埋土>黄白色シルトと小石を互層に敷く。

<主な出土遺物と時期>古瀬戸片、陶丸

<遺構の性格など>土蔵の壁の基礎。

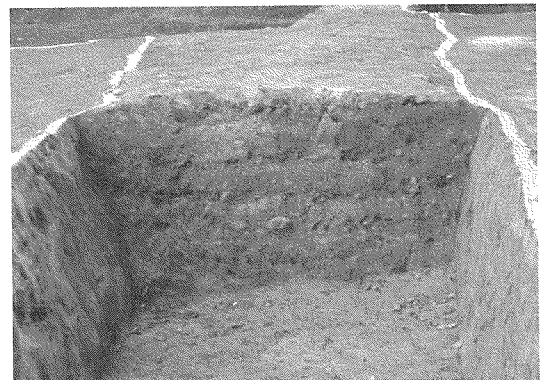


写真36 SK542

F 土坑

●SK65(以下のSKはA区検出)

<形状>不整楕円形

<長さ>2.22m

<幅>1.18m

<深さ>0.21m

<埋土>褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>染付磁器碗片、瀬戸播鉢片、内耳鍋片など。19世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑か



写真37 SK65出土遺物

●SK84

<形状>隅丸長方形

<長さ>3.51m

<幅>(1.76) m

<深さ>0.99m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>瀬戸美濃陶器、染付磁器、常滑甕、煙管、火打石、火打金など。19世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑

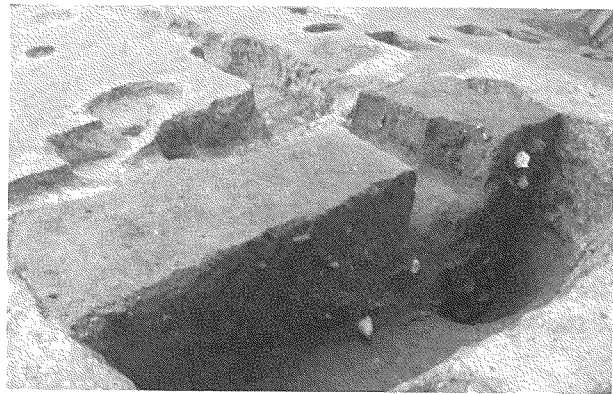


写真38 SK84



写真39 SK84出土遺物

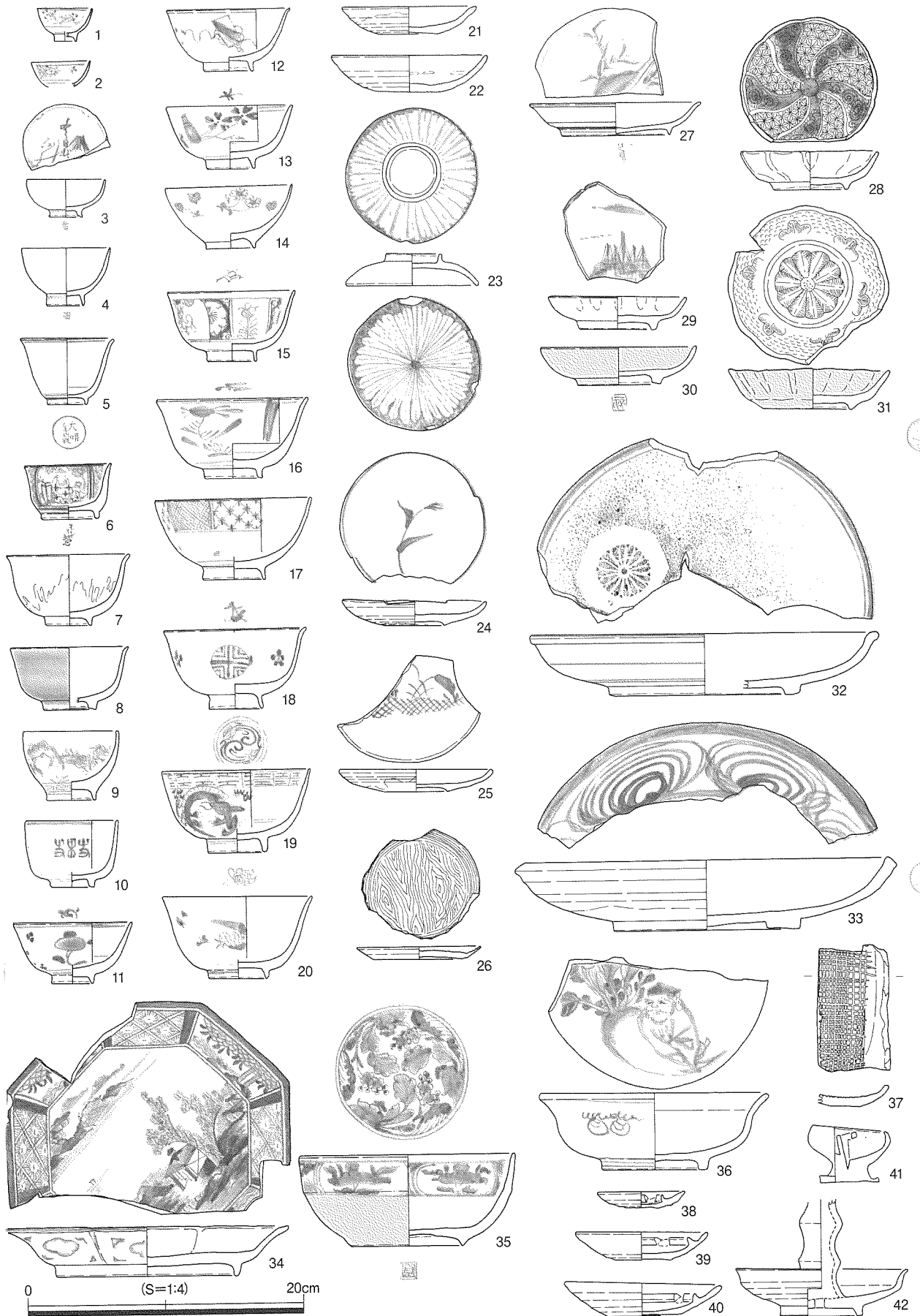


图13 SK84出土遺物(1)

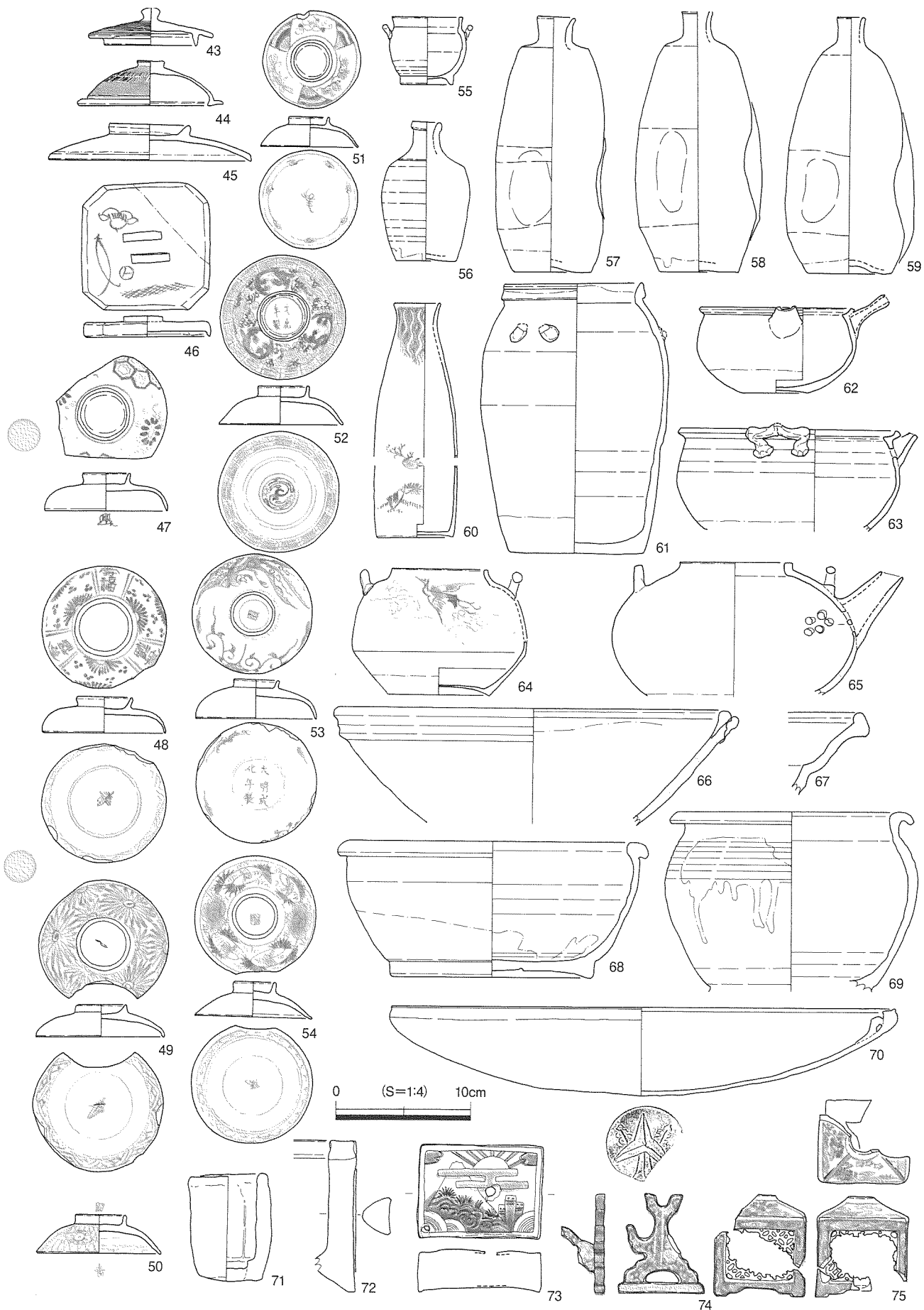


图14 SK84出土遺物(2)



写真40 SK84出土遺物

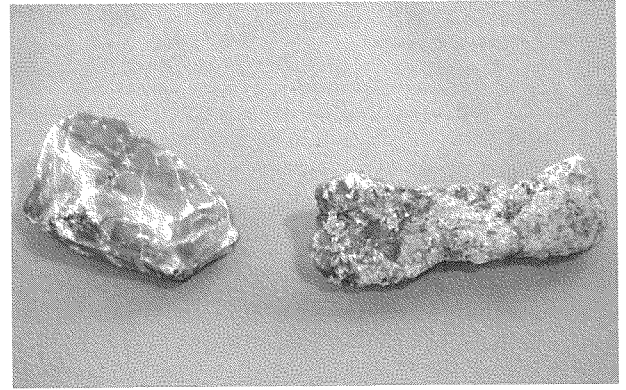


写真41 SK84出土遺物(火打石・火打金)

表2 SK84掲載遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	磁器	上絵付小杯	19世紀中頃、赤、桃、黄、緑色の草花上絵付け	39	陶器	錆釉灯明皿受け皿	19世紀中頃、瀬戸美濃
2	磁器	上絵付小杯	19世紀中頃、赤、桃、黄、緑色の草花、蝶の上絵付け	40	陶器	灰釉灯明皿受け皿	19世紀中頃、瀬戸美濃
3	磁器	染付磁器小杯	19世紀中頃	41	陶器	鉄絵灯明皿受け皿	19世紀中頃、瀬戸美濃
4	磁器	染付磁器小杯	19世紀中頃	42	陶器	鉄釉ひょうそく	19世紀中頃、瀬戸美濃
5	磁器	染付磁器小杯	19世紀中頃	43	陶器	鉄釉台付掛ひょうそく	19世紀中頃、瀬戸美濃
6	磁器	染付磁器小杯	19世紀中頃	44	陶器	錆釉糸目土瓶蓋	19世紀中頃、瀬戸美濃
7	磁器	上絵付小杯	19世紀中頃、赤絵、人物の上絵付け	45	陶器	蓋	19世紀中頃
8	陶器	緑釉流し灰釉碗	19世紀中頃、瀬戸美濃	46	陶器	行平鍋蓋	19世紀中頃、瀬戸美濃
9	磁器	瑠璃釉磁器碗	19世紀中頃、外面全体にコバルト釉	47	陶器	織部蓋物蓋	19世紀中頃、瀬戸美濃、再興織部
10	磁器	染付磁器小杯	19世紀中頃、動物、植物の絵柄	48	磁器	上絵付碗蓋	19世紀中頃、赤絵など
11	磁器	染付磁器小杯	19世紀中頃、八卦文様	49	磁器	染付磁器碗蓋	19世紀中頃
12	磁器	染付磁器碗	19世紀中頃、花文様	50	磁器	染付磁器碗蓋	19世紀中頃
13	磁器	染付磁器碗	19世紀中頃、毬、羽根突き文様	51	磁器	染付磁器碗蓋	19世紀中頃
14	磁器	染付磁器碗	19世紀中頃、草花文様	52	磁器	上絵付小碗蓋	19世紀中頃
15	磁器	染付磁器碗	19世紀中頃、草花文様	53	磁器	染付磁器碗蓋	19世紀中頃
16	磁器	上絵付碗	19世紀中頃、芙蓉手風	54	磁器	染付磁器碗蓋	19世紀中頃
17	磁器	染付磁器碗	19世紀中頃、草花文様	55	磁器	染付磁器碗蓋	19世紀中頃
18	磁器	染付磁器碗	18世紀後半、肥前	56	陶器	灰釉双耳小壺	19世紀中頃、瀬戸美濃
19	磁器	染付磁器碗	19世紀中頃、丸文など	57	陶器	灰釉徳利	19世紀中頃、瀬戸美濃
20	磁器	染付磁器碗	19世紀中頃	58	陶器	灰釉徳利	19世紀中頃、瀬戸美濃、「ペコカン徳利」
21	磁器	染付磁器碗	19世紀中頃	59	陶器	灰釉徳利	19世紀中頃、瀬戸美濃、「ペコカン徳利」
22	陶器	灰釉小皿	19世紀中頃、瀬戸美濃	60	陶器	灰釉徳利	19世紀中頃、瀬戸美濃、「ペコカン徳利」
23	陶器	掛分皿	19世紀中頃、瀬戸美濃、内面錆釉、外面灰釉	61	磁器	染付磁器徳利	19世紀中頃
24	陶器	碗蓋	19世紀中頃、瀬戸美濃、麦薬手	62	陶器	錆釉三耳壺	19世紀中頃、瀬戸美濃
25	陶器	灰釉鉄絵小皿	19世紀中頃、瀬戸美濃、碁筒底	63	陶器	灰釉行平鍋	19世紀中頃、瀬戸美濃
26	陶器	灰釉鉄絵小皿	19世紀中頃、瀬戸美濃、碁筒底	64	陶器	灰釉陶手鍋	19世紀中頃、瀬戸美濃
27	土師質	小皿	19世紀中頃、内面は木目模様に透明釉	65	陶器	灰釉土瓶	19世紀中頃、信楽か
28	磁器	染付磁器皿	19世紀中頃	66	陶器	鉄釉土瓶	19世紀中頃、瀬戸美濃
29	磁器	染付磁器小皿	19世紀中頃	67	陶器	鉄釉播鉢	19世紀中頃、瀬戸美濃
30	磁器	青磁小皿	19世紀中頃	68	陶器	鉄釉播鉢	19世紀中頃、瀬戸美濃
31	磁器	染付磁器型押小皿	19世紀中頃、半磁器質	69	陶器	灰釉捏鉢	19世紀中頃、瀬戸美濃
32	磁器	青磁型押小皿	19世紀中頃、三田焼	70	陶器	鉄釉甕	19世紀中頃、瀬戸美濃
33	陶器	鉄絵吹き墨皿	19世紀中頃、瀬戸	71	土師質	内耳鍋	19世紀中頃
34	陶器	馬の目皿	19世紀中頃、瀬戸	72	土師質	焼塩壺	19世紀?
35	磁器	染付磁器皿	19世紀中頃、肥前	73	陶質	五徳	19世紀中頃
36	磁器	青磁染付鉢	18世紀末頃、肥前	74	磁器	染付磁器水滴	19世紀中頃
37	陶器	陶胎染付鉢	19世紀中頃	75	磁器	染付磁器筆架	19世紀中頃
38	陶器	錆釉卸皿	19世紀中頃、瀬戸美濃	76	磁器	染付磁器	19世紀中頃、器種不明

●SK148

<形状>不整楕円形

<長さ>3.64m

<幅>2.83m

<深さ>0.44m

<埋土>褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>御深井釉型打皿、肥前染付磁器、白磁、京焼風陶器(「清水」銘)など。17世紀後半頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑か

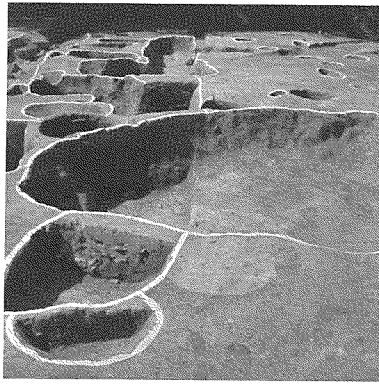


写真42 SK148

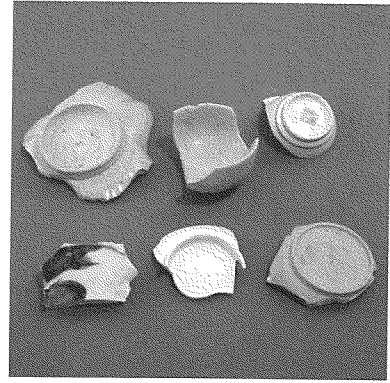


写真43 SK148出土遺物



●SK167

<形状>楕円形

<長さ>1.71m

<幅>1.18m

<深さ>0.38m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>瀬戸美濃鬚盥、内耳鍋片など。18世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑か

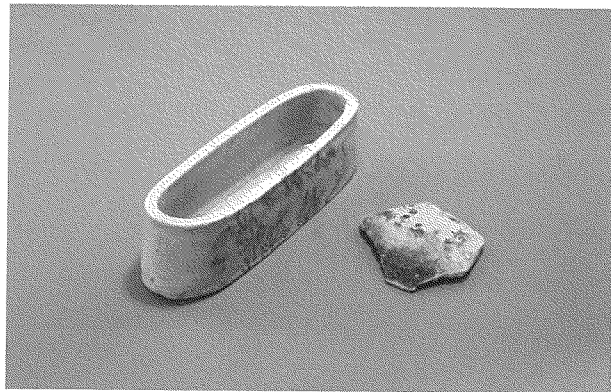


写真44 SK167出土遺物



●SK182

<形状>不整形

<長さ>4.71m

<幅>(2.83)m

<深さ>0.30m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>染付磁器碗片、瀬戸美濃陶器片、焼塩壺、土師皿など。19世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑か

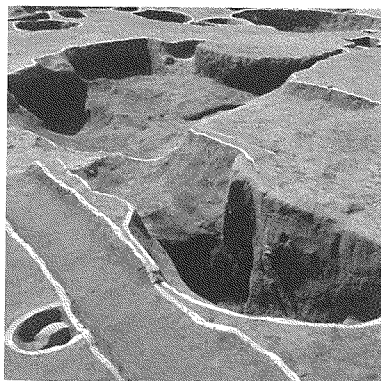


写真45 SK182

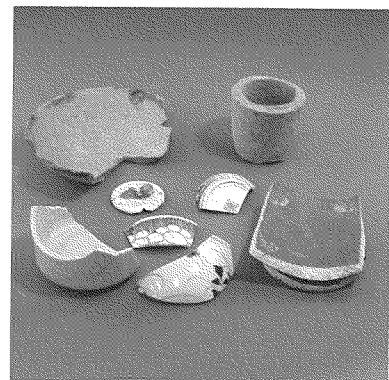


写真46 SK182出土遺物

●SK183

<形状>不整長方形

<長さ>4.26m

<幅>2.85m

<深さ>0.90m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>瀬戸卸皿、
瀬戸美濃陶器徳利、染付磁器碗、
瀬戸播鉢、常滑甕、軒棧瓦など。

19世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑か

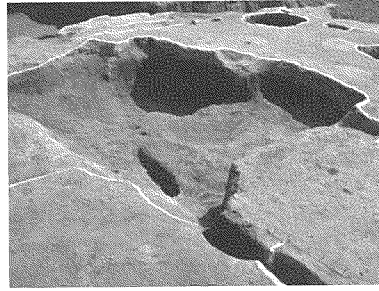


写真47 SK183



写真48 SK183出土遺物

●SK198

<形状>隅丸方形

<長さ>1.04m

<幅>1.00m

<深さ>0.96m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>瀬戸美濃碗、
皿、鉢、播鉢片。手づくね土師質
小皿など。17世紀中頃。

<遺構の性格など>地下室(ちかむ
ろ)か。

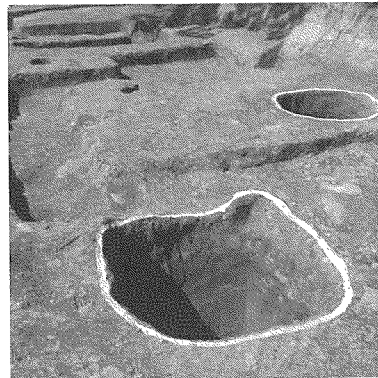


写真49 SK198

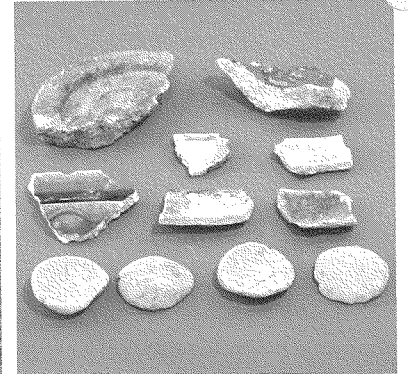


写真50 SK198出土遺物

●SK228

<形状>不整楕円形

<長さ>4.44m

<幅>1.55m

<深さ>0.92m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>瀬戸美濃天
目茶碗、播鉢、瀬戸美濃丸碗、志
野丸皿、土師皿、軒丸瓦など。17
世紀中頃。

<遺構の性格など>階段付の地下室
(ちかむろ)。後に廃棄土坑。

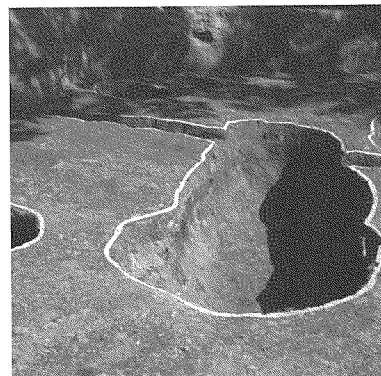


写真51 SK228

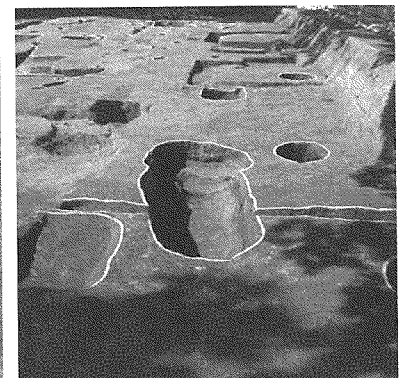


写真52 SK228

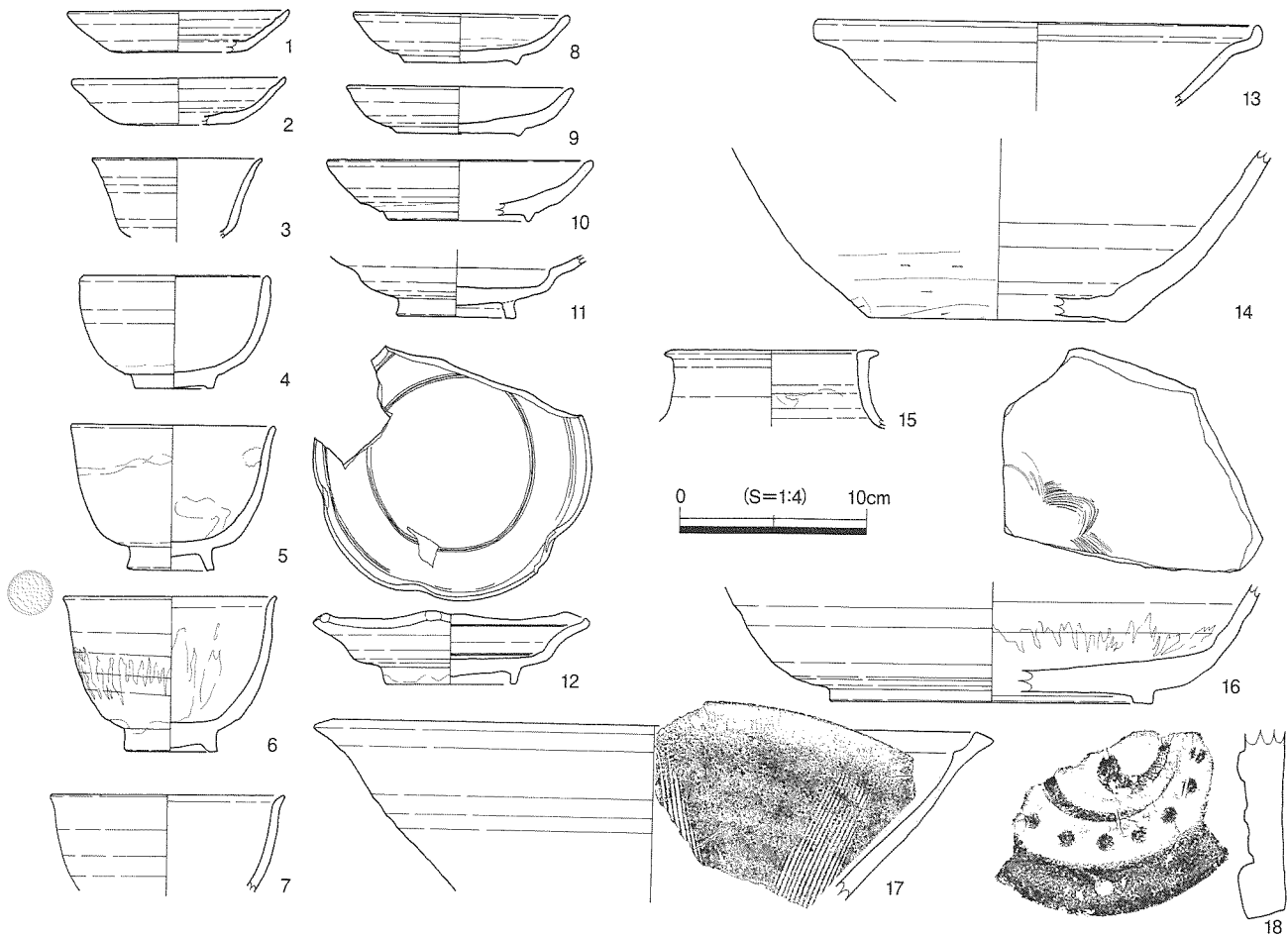


図15 SK228出土遺物

表3 SK228掲載遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	土師器	皿	ろくろ成形	10	陶器	丸皿	長石釉、17世紀
2	土師器	皿	ろくろ成形	11	陶器	折縁皿	長石釉、17世紀
3	陶器	小坏	黄瀬戸釉、17世紀	12	陶器	輪花折縁皿	灰釉、17世紀
4	陶器	碗	灰釉、17世紀	13	陶器	折縁鉢	灰釉+鉄釉、17世紀
5	陶器	碗	鉄釉、17世紀	14	陶器	甕	鉄釉、17世紀
6	陶器	碗	鉄釉+灰釉、17世紀	15	陶器	壺	鉄釉、17世紀
7	陶器	碗	灰釉、17世紀	16	陶器	大鉢	黄瀬戸釉、17世紀
8	陶器	丸皿	灰釉+緑釉、17世紀	17	陶器	搦鉢	17世紀
9	陶器	丸皿	長石釉、17世紀	18	瓦	軒丸瓦	

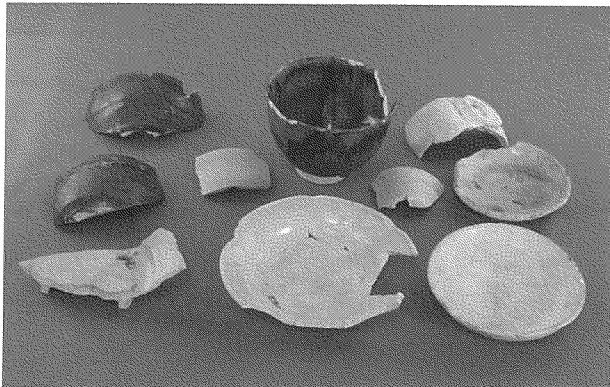


写真53 SK228出土遺物

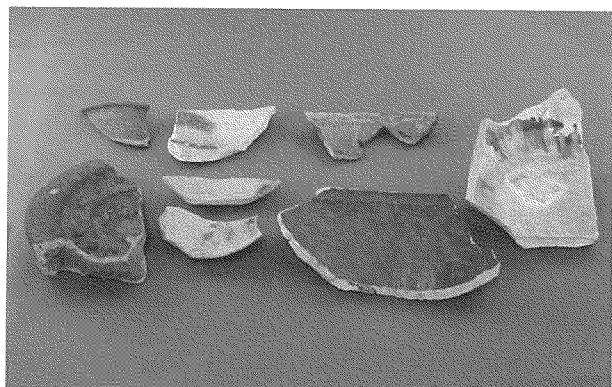


写真54 SK228出土遺物

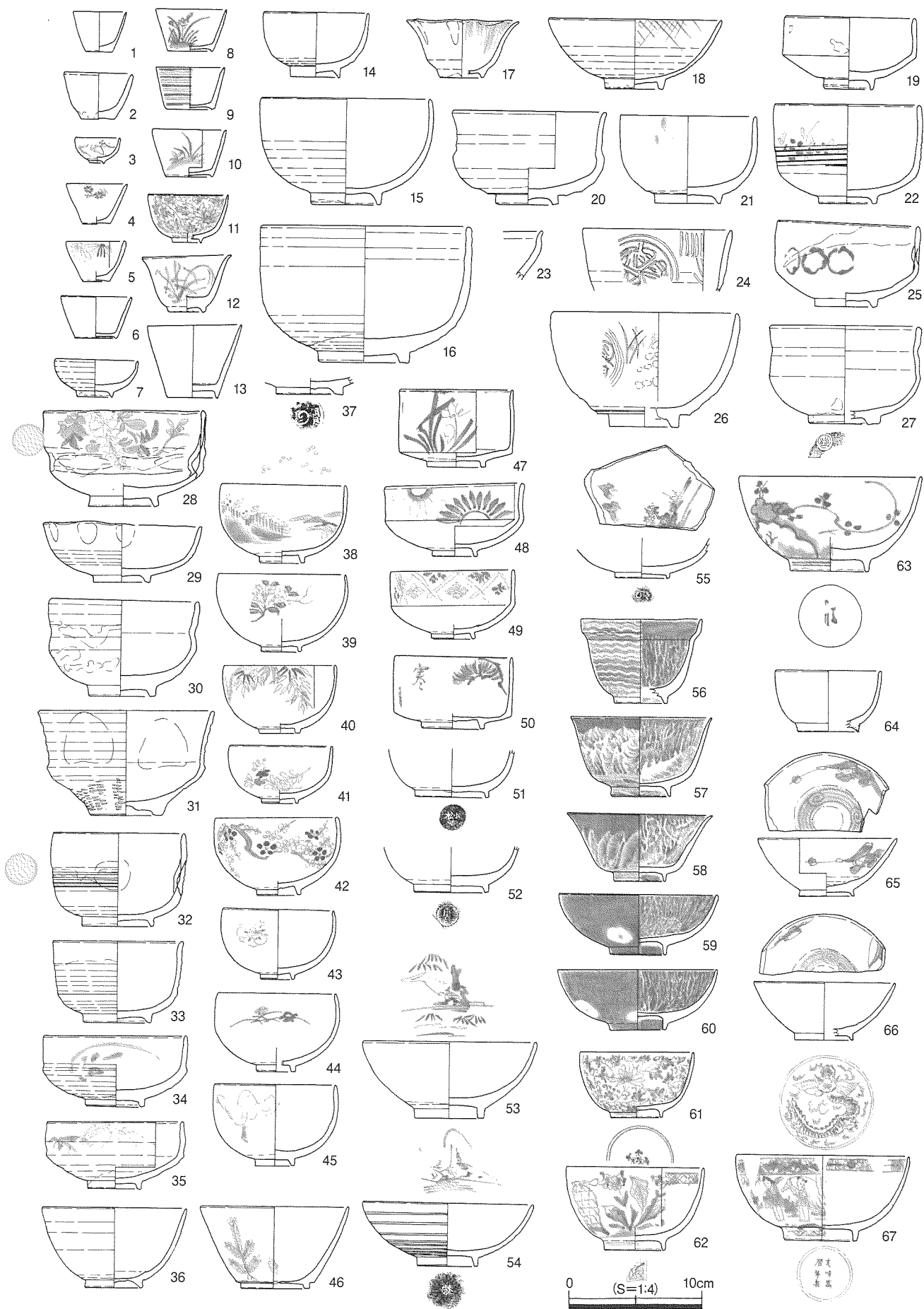


图16 SK239出土遺物(1)

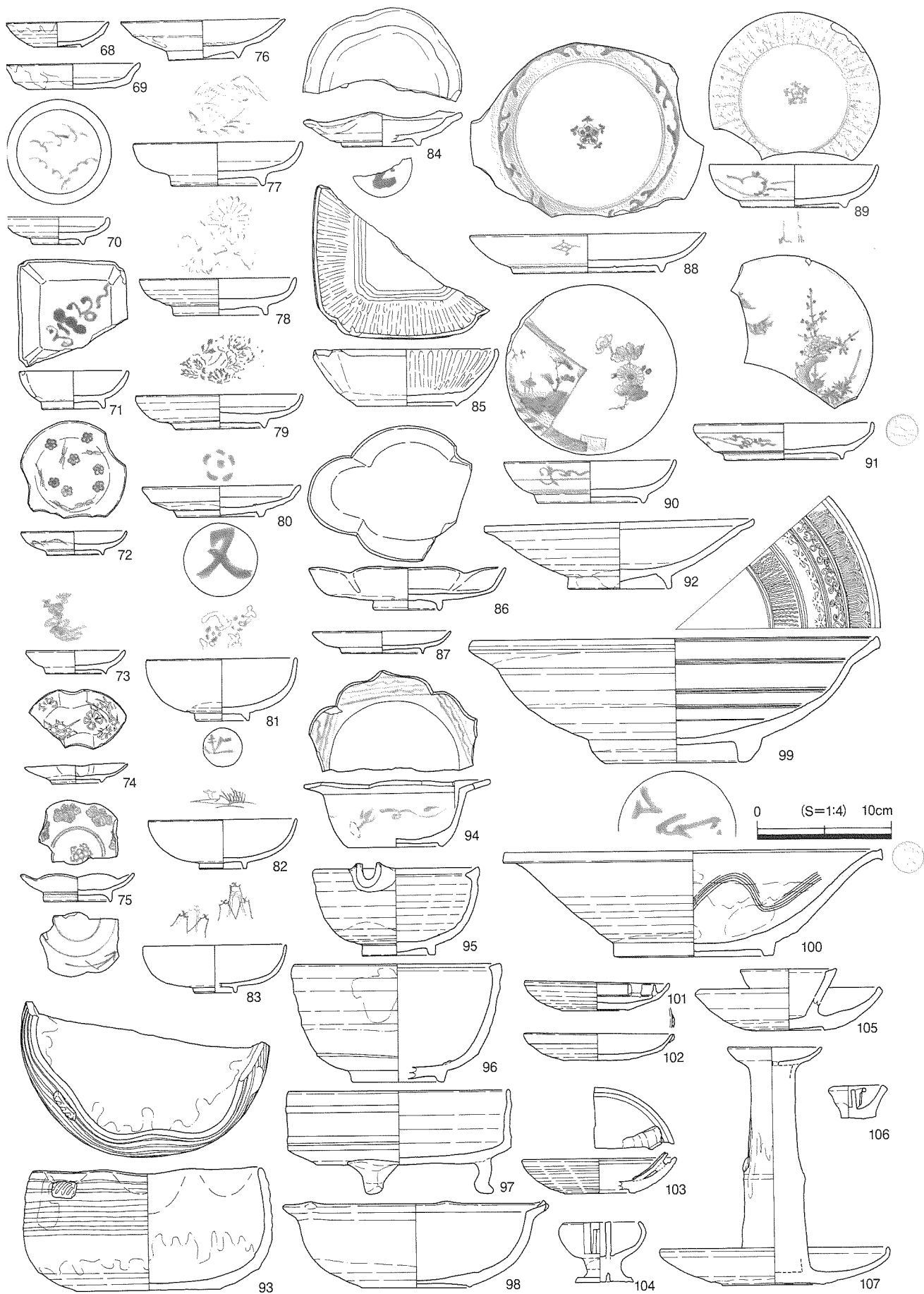


图17 SK239出土遺物(2)

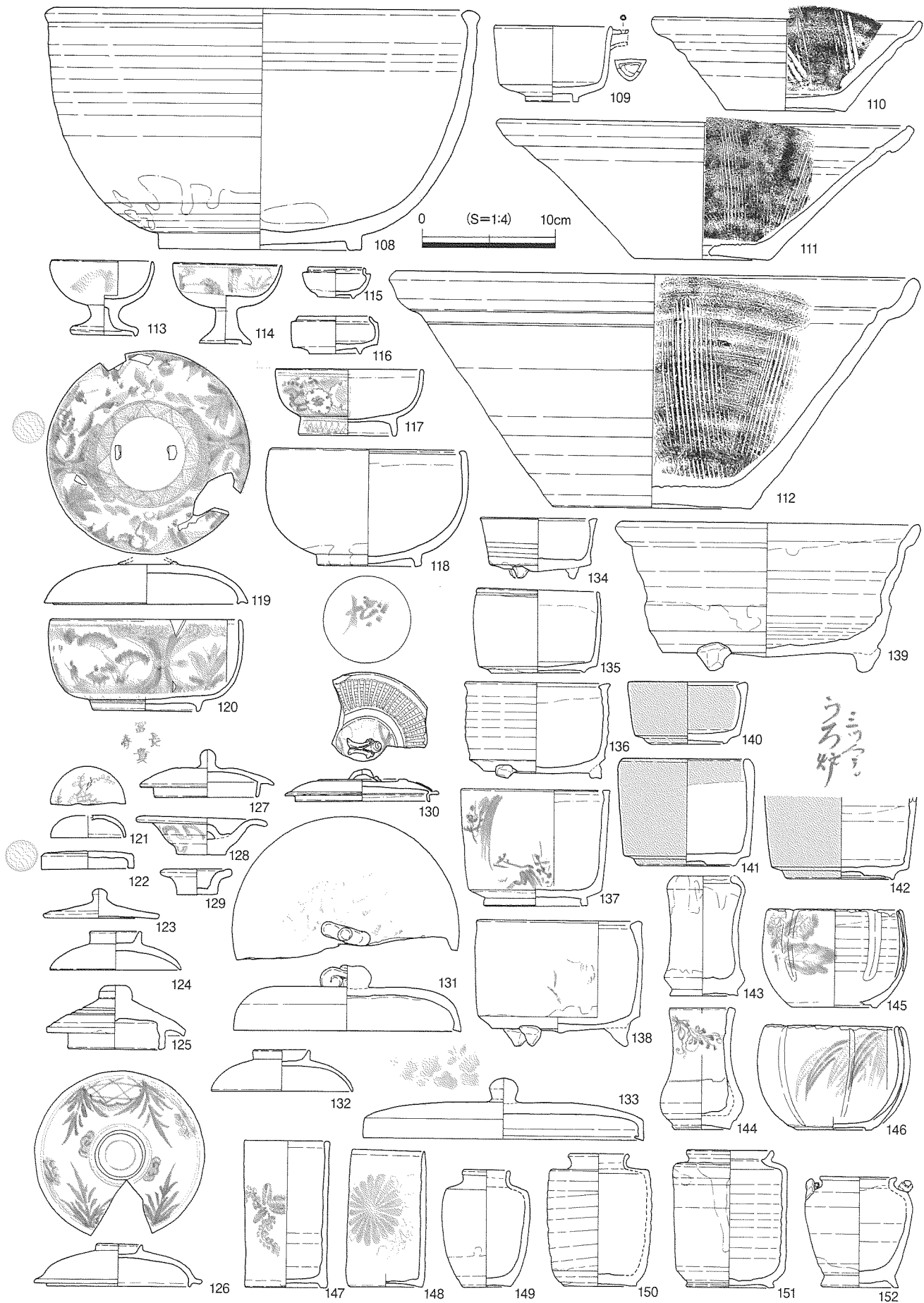


图18 SK239出土遺物(3)

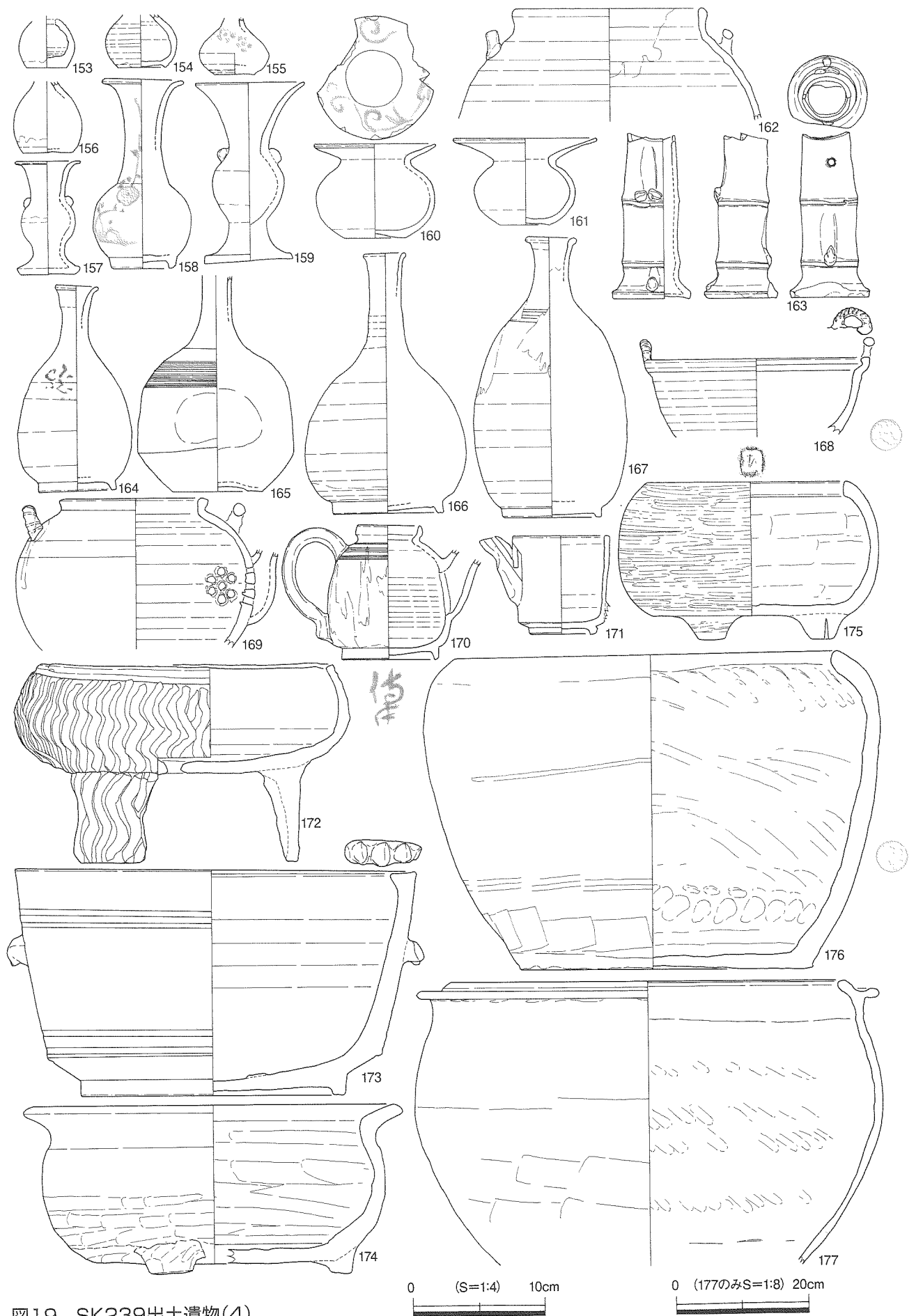


図19 SK239出土遺物(4)

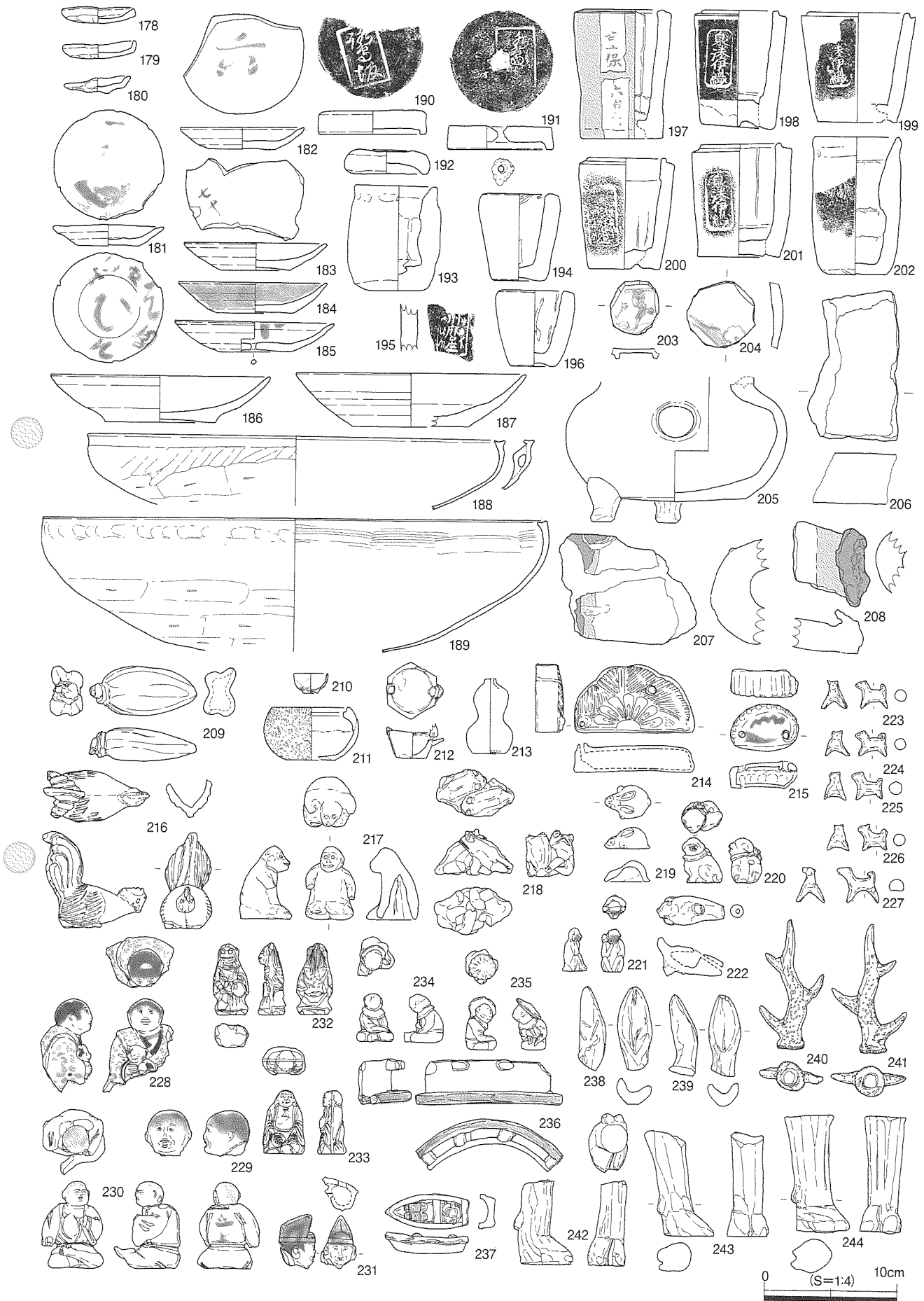


图20 SK239出土遺物(5)

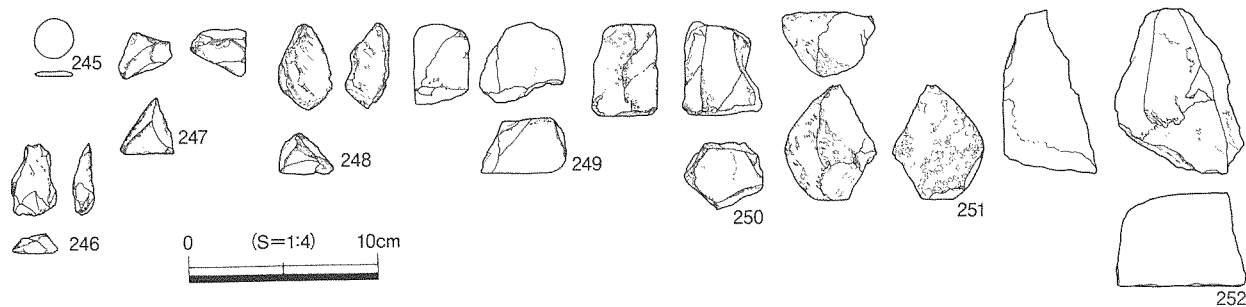


図21 SK239出土遺物(6)

表5 SK239掲載遺物一覧(1)

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	陶器	灰袖小杯	18世紀、瀬戸美濃	54	陶器	京焼風陶器碗	17世紀末～18世紀前半、肥前、「森?」
2	陶器	灰袖小杯	18世紀、瀬戸美濃	55	陶器	京焼風陶器碗	17世紀末～18世紀前半、肥前、「清水」
3	陶器	上絵付小碗	18世紀、京焼か。ミニチュア品	56	陶器	刷毛目碗	17世紀末～18世紀前半、肥前系、現川焼
4	陶器	上絵付小杯	18世紀、京焼か	57	陶器	刷毛目碗	17世紀末～18世紀前半、肥前系、現川焼
5	陶器	上絵付小杯	18世紀、京焼か	58	陶器	刷毛目碗	17世紀末～18世紀前半、肥前系、現川焼
6	磁器	白磁小杯	18世紀、肥前	59	陶器	刷毛目碗	17世紀末～18世紀前半、肥前系、現川焼
7	磁器	白磁小杯	18世紀、肥前	60	陶器	刷毛目碗	17世紀末～18世紀前半、肥前系、現川焼
8	磁器	染付猪口	18世紀、肥前	61	磁器	染付碗	18世紀、肥前
9	磁器	赤絵猪口	18世紀、肥前	62	磁器	染付碗	18世紀、肥前
10	磁器	染付猪口	18世紀、肥前	63	磁器	染付碗	18世紀、肥前
11	磁器	染付小碗	18世紀、肥前	64	磁器	青磁染付碗	18世紀、肥前
12	磁器	染付小杯	17世紀、肥前	65	磁器	色絵磁器碗	18世紀、肥前
13	磁器	白磁猪口	18世紀、肥前	66	磁器	色絵磁器碗	18世紀、肥前
14	陶器	灰袖丸碗	18世紀、瀬戸美濃	67	磁器	色絵磁器碗	18世紀、肥前
15	陶器	灰袖丸碗	18世紀、瀬戸美濃	68	陶器	灰袖小皿	18世紀、瀬戸美濃
16	陶器	灰袖丸碗	18世紀、瀬戸美濃	69	陶器	灰袖小皿	18世紀、瀬戸美濃
17	陶器	灰袖小鉢(向付?)	18世紀、瀬戸美濃、呉須絵	70	陶器	灰袖小皿	18世紀、瀬戸美濃、呉須絵
18	陶器	鉄絵碗	18世紀、瀬戸美濃	71	陶器	灰袖角皿	18世紀、瀬戸美濃、鉄絵
19	陶器	鉄袖碗	18世紀、瀬戸美濃、錆袖	72	磁器	染付小皿	18世紀、肥前
20	陶器	灰袖碗	18世紀、瀬戸美濃	73	磁器	染付小皿	18世紀、肥前
21	陶器	灰袖碗	18世紀、瀬戸美濃、呉須絵	74	磁器	染付型打小皿	18世紀、肥前
22	陶器	灰袖碗	18世紀、瀬戸美濃、呉須絵	75	磁器	染付輪花小皿	18世紀、肥前
23	陶器	鉄袖天目茶碗	17世紀?、瀬戸美濃	76	陶器	灰袖皿	17世紀末～18世紀前半、瀬戸美濃
24	陶器	灰袖碗	18世紀、瀬戸美濃、三葉葵紋	77	陶器	灰袖皿	18世紀、瀬戸美濃
25	陶器	長石袖碗	18世紀、瀬戸美濃、緑袖と鉄絵	78	陶器	灰袖皿	18世紀、瀬戸美濃
26	陶器	灰袖丸碗	18世紀、瀬戸美濃、三葉葵紋	79	陶器	灰袖皿	18世紀、瀬戸美濃
27	陶器	鉄袖碗	18世紀、瀬戸美濃、錆袖	80	陶器	灰袖皿	18世紀、瀬戸美濃
28	陶器	鉄袖上絵付碗	18世紀、瀬戸美濃	81	陶器	灰袖皿	18世紀、瀬戸美濃
29	陶器	錆袖碗	18世紀、瀬戸美濃、錆袖	82	陶器	灰袖皿	18世紀、京、信楽?
30	陶器	錆袖碗	18世紀、瀬戸美濃、錆袖	83	陶器	京焼風陶器碗	17世紀末～18世紀前半
31	陶器	錆袖碗	18世紀、瀬戸美濃、錆袖	84	陶器	灰袖輪花皿	18世紀、瀬戸美濃
32	陶器	掛分碗	18世紀、瀬戸美濃、灰袖、鉄袖	85	陶器	角鉢	18世紀、瀬戸美濃
33	陶器	掛分碗	18世紀、瀬戸美濃、灰袖、鉄袖	86	陶器	御深井袖型打皿	17世紀末～18世紀前半、美濃
34	陶器	灰袖碗	18世紀、瀬戸美濃、上絵付	87	磁器	白磁小皿	17世紀末～18世紀前半、肥前
35	陶器	灰袖碗	18世紀、瀬戸美濃、上絵付	88	磁器	染付皿	17世紀末～18世紀前半、肥前、墨押き
36	陶器	鉄袖碗	18世紀か、産地不明	89	磁器	染付皿	17世紀末～18世紀前半、肥前
37	陶器	碗	18世紀、京焼、「朝日」	90	磁器	染付皿	18世紀前半、肥前
38	陶器	上絵付碗	18世紀、京焼か	91	磁器	染付皿	18世紀前半、肥前
39	陶器	上絵付碗	18世紀、京焼か	92	陶器	灰袖鉢	17世紀末～18世紀前半、肥前系
40	陶器	上絵付碗	18世紀、京焼か	93	陶器	灰袖鉢	18世紀、瀬戸美濃
41	陶器	上絵付碗	18世紀、京焼か	94	陶器	灰袖輪花鉢	18世紀、瀬戸美濃、呉須絵
42	陶器	上絵付碗	18世紀、京焼か	95	陶器	灰袖片口鉢	18世紀、瀬戸美濃
43	陶器	上絵付碗	18世紀、京、信楽?	96	陶器	灰袖鉢	18世紀、瀬戸美濃
44	陶器	上絵付碗	18世紀、京、信楽?	97	陶器	灰袖足付盤	18世紀、瀬戸美濃
45	陶器	呉須絵碗	18世紀、京、信楽?	98	陶器	灰袖鉢	18世紀、瀬戸美濃
46	陶器	鉄絵碗	18世紀、信楽か、一部に呉須	99	陶器	三島手大鉢	17世紀末～18世紀前半、肥前
47	陶器	鉄絵碗	18世紀、京、信楽?	100	陶器	灰袖大鉢	17世紀末～18世紀前半、瀬戸美濃
48	陶器	上絵付碗	18世紀、京、信楽?	101	陶器	錆袖灯明皿	18世紀、瀬戸美濃
49	陶器	上絵付碗	18世紀、京、信楽?	102	陶器	錆袖灯明皿受皿	18世紀、瀬戸美濃
50	陶器	京焼風陶器碗	17世紀末～18世紀前半、肥前	103	陶器	灯明皿	18世紀、瀬戸美濃
51	陶器	京焼風陶器碗	17世紀末～18世紀前半、肥前、「小松吉」	104	陶器	ひょうそく	18世紀、瀬戸美濃、鉄袖
52	陶器	京焼風陶器碗	17世紀末～18世紀前半、肥前、「雲」	105	陶器	灯明皿受台	18世紀前半、瀬戸美濃、鉄袖
53	陶器	京焼風陶器碗	17世紀末～18世紀前半、肥前	106	陶器	ひょうそく	18世紀、瀬戸美濃、灰袖

表6 SK239掲載遺物一覧(2)

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
107	陶器	灯明皿受台	18世紀、瀬戸美濃、鉄釉
108	陶器	灰釉控鉢	18世紀、瀬戸美濃
109	陶器	灰釉柄杓	18世紀、瀬戸美濃、竹または木製の柄を付けた。
110	陶器	搦鉢	18世紀、瀬戸美濃、鉄釉
111	陶器	搦鉢	18世紀、瀬戸美濃、鉄釉
112	陶器	搦鉢	18世紀、瀬戸美濃、鉄釉
113	陶器	仏飯器	18世紀、瀬戸美濃、呉須絵
114	磁器	染付仏飯器	18世紀、肥前
115	陶器	灰釉蓋物	18世紀、瀬戸美濃
116	陶器	灰釉壺物	18世紀、瀬戸美濃
117	磁器	染付蓋物	18世紀、肥前
118	陶器	錆釉壺物	18世紀、瀬戸美濃
119	磁器	染付磁器蓋	18世紀、肥前
120	磁器	染付磁器蓋物	18世紀、肥前、(119とセット)
121	陶器	上絵付蓋	18世紀、京焼?
122	陶器	灰釉蓋	18世紀、瀬戸美濃
123	陶器	灰釉蓋	18世紀、瀬戸美濃
124	陶器	灰釉蓋	18世紀、瀬戸美濃
125	陶器	蓋	18世紀、産地不明
126	陶器	蓋	18世紀、瀬戸美濃
127	陶器	蓋	18世紀、瀬戸美濃
128	陶器	蓋	18世紀、瀬戸美濃
129	磁器	染付磁器蓋	18世紀、肥前
130	陶器	灰釉壺	18世紀、瀬戸美濃
131	陶器	長石釉蓋	18世紀、瀬戸見尾
132	磁器	蓋	18世紀、肥前
133	陶器	蓋	18世紀、瀬戸美濃
134	陶器	黄瀬戸釉香炉	18世紀、瀬戸美濃
135	陶器	鉛釉香炉	18世紀、瀬戸美濃
136	陶器	灰釉香炉	18世紀、瀬戸美濃
137	陶器	灰釉香炉	18世紀、瀬戸美濃、鉄絵
138	陶器	灰釉香炉	18世紀、瀬戸美濃
139	陶器	鉄釉香炉	18世紀、瀬戸美濃
140	磁器	青磁香炉	18世紀、肥前
141	磁器	青磁香炉	18世紀、肥前
142	磁器	青磁香炉	18世紀、肥前
143	陶器	灰落とし	18世紀、灰釉、瀬戸美濃
144	磁器	赤絵灰落とし	18世紀、肥前
145	陶器	火入れ	18世紀、京焼?
146	陶器	火入れ	18世紀、京焼?
147	陶器	筆立	18世紀、灰釉、摺絵、瀬戸美濃
148	陶器	筆立	18世紀、上絵付け、京、信楽?
149	陶器	鉄釉茶入れ	17世紀、肥前瀬戸美濃
150	陶器	鉄釉茶入れ	18世紀、瀬戸美濃
151	陶器	鉛釉壺	18世紀、瀬戸美濃
152	陶器	鉄釉双耳壺	18世紀、瀬戸美濃
153	陶器	灰釉小瓶	18世紀、瀬戸美濃
154	陶器	灰釉小瓶	18世紀、瀬戸美濃
155	陶器	鉄釉小瓶	18世紀、瀬戸美濃
156	陶器	鉄釉小瓶	18世紀、瀬戸美濃
157	陶器	掛分仏花瓶	18世紀、瀬戸美濃
158	磁器	染付磁器花瓶	18世紀、肥前
159	陶器	掛分仏花瓶	18世紀、瀬戸美濃
160	陶器	灰釉唾壺	18世紀、瀬戸美濃
161	陶器	灰釉唾壺	18世紀、瀬戸美濃
162	陶器	灰釉双耳壺	18世紀、瀬戸美濃
163	陶器	鉛釉竹形花入れ	18世紀、瀬戸美濃
164	陶器	灰釉徳利	18世紀、瀬戸美濃、鉄絵
165	陶器	鉄釉徳利	18世紀、瀬戸美濃
166	陶器	鉛釉徳利	18世紀、瀬戸美濃
167	陶器	鉄釉徳利	18世紀、瀬戸美濃、うのふ釉
168	陶器	鉄釉手付水注	18世紀、瀬戸美濃
169	陶器	土瓶	18世紀、産地不明、無釉
170	陶器	鉄釉手付水注	18世紀、瀬戸美濃
171	陶器	灰釉手付水注	18世紀、瀬戸美濃
172	陶器	灰釉三足水盥	18世紀、瀬戸美濃、焼成後底部穿孔
173	陶器	灰釉水鉢	18世紀、瀬戸美濃
174	瓦質	三足火鉢	18世紀、産地不明
175	陶器	三足鉢	18世紀、常滑あかも
176	陶器	甕	18世紀、常滑
177	陶器	甕	18世紀前半、常滑
178	土師質	小皿	17世紀、手づくね成形
179	土師質	小皿	17世紀、手づくね成形

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
180	土師質	小皿	17世紀、手づくね成形
181	土師質	皿	18世紀、ろくろ成形、墨書
182	土師質	皿	18世紀、ろくろ成形、墨書
183	土師質	皿	18世紀、ろくろ成形、墨書
184	土師質	皿	18世紀、ろくろ成形、油煙付着
185	土師質	皿	18世紀、ろくろ成形、油煙付着、底部穿孔
187	土師質	皿	18世紀、ろくろ成形
188	土師質	内耳鍋	18世紀
189	土師質	内耳鍋	18世紀
190	土師質	焼塩壺蓋	18世紀
191	土師質	焼塩壺蓋	18世紀、中央に穿孔
192	土師質	焼塩壺蓋	17世紀
193	土師質	焼塩壺	17世紀
194	土師質	焼塩壺	18世紀
195	土師質	焼塩壺片	18世紀
196	土師質	焼塩壺	18世紀
197	土師質	焼塩壺	18世紀、墨書「享保十六年」(1731)か、外面黒漆塗布
198	土師質	焼塩壺	18世紀
199	土師質	焼塩壺	18世紀
200	土師質	焼塩壺	18世紀
201	土師質	焼塩壺	18世紀
202	土師質	焼塩壺	17世紀
203	磁器	加工円盤	17世紀、中国か
204	磁器	加工円盤	18世紀、肥前
205	土師質	三足提灯	18世紀
206	陶器	緑釉鉢	17世紀、瀬戸美濃
207	陶質	ふいご羽口	18世紀
208	陶質	ふいご羽口	18世紀
209	土製品	干柿	18世紀
210	磁器	碗	18世紀、肥前、ミニチュア
211	軟質陶	蜜柑形容器	18世紀、産地不明、黄色釉
212	陶器	鏡子	18世紀、ミニチュア
213	陶器	鉄釉瓢箪形小瓶	18世紀、瀬戸美濃
214	陶器	御深井桶水滴	17世紀末～18世紀前半、美濃
215	磁器	染付磁器水滴	18世紀、肥前、甍形
216	土製品	鶏	18世紀
217	陶製品	猿	18世紀、瀬戸美濃、灰釉
218	土製品	蛙	18世紀、摺絵の表現か
219	陶製品	兎	18世紀、瀬戸美濃、灰釉
220	陶製品	犬(狒)	18世紀、瀬戸美濃、灰釉、鉄絵
221	陶製品	猿	18世紀、産地不明、
222	土製品	鳩笛	18世紀
223	陶製品	犬	18世紀、瀬戸美濃、灰釉
224	陶製品	犬	18世紀、瀬戸美濃、灰釉
225	陶製品	犬	18世紀、瀬戸美濃、鉄釉
226	陶製品	犬	18世紀、瀬戸美濃、鉄釉
227	陶製品	犬	18世紀、瀬戸美濃、灰釉
228	陶製品	人物と犬(狒)	18世紀、京?信楽か、上絵付
229	陶製品	人物(頭部片)	18世紀、京、信楽か
230	土製品	人物	18世紀、墨書
231	陶製品	人物(頭部片)	18世紀、京?信楽か
232	軟質陶	神像	18世紀、施釉
233	軟質陶	神像	18世紀、施釉
234	土製品	人物(唐子か)	18世紀
235	土製品	人物(唐子か)	18世紀
236	軟質陶	橋(箱庭)	18世紀、施釉
237	軟質陶	舟	18世紀、施釉
238	陶製品	鹿(耳)	18世紀、鉄釉、瀬戸美濃
239	陶製品	鹿(耳)	18世紀、鉄釉、瀬戸美濃
240	陶製品	鹿(角)	18世紀、鉄釉、瀬戸美濃
241	陶製品	鹿(角)	18世紀、鉄釉、瀬戸美濃
242	陶製品	鹿(脚)	18世紀、鉄釉、瀬戸美濃
243	陶製品	鹿(脚)	18世紀、鉄釉、瀬戸美濃
244	陶製品	鹿(脚)	18世紀、鉄釉、瀬戸美濃
245	石製品	碁石	粘板岩
246	石製品	火打石	養老瀧産チャート、青灰色で硝目あり。使用痕少し。
247	石製品	火打石	黄灰色チャートの礫を素材とする。使用痕非常に多い。
248	石製品	火打石	養老瀧産チャートの礫を素材とする。使用痕わずか。
249	石製品	火打石	黄白色チャートの礫を素材とする。使用痕非常に多い。
250	石製品	火打石	黄白色チャートの礫を素材とする。使用痕非常に多い。
251	石製品	火打石	薄紅色チャートの礫を素材とする。使用痕なし。
252	石製品	火打石(素材の残核)	黄褐色チャートの礫を素材とする。打削面、剥離痕あり。



写真56 SK239出土遺物(瀬戸・美濃陶器)

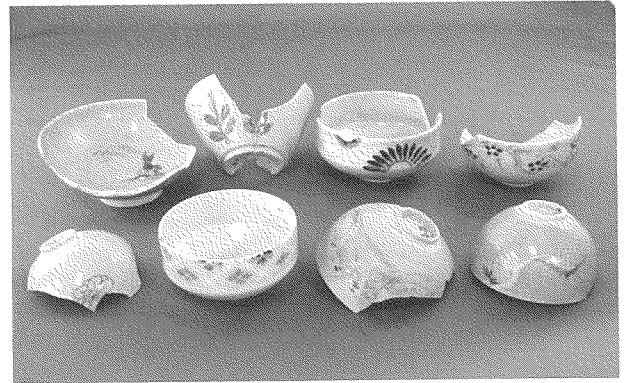


写真57 SK239出土遺物(京・信楽陶器)



写真58 SK239出土遺物(肥前系陶磁器)



写真59 SK239出土遺物(德利)

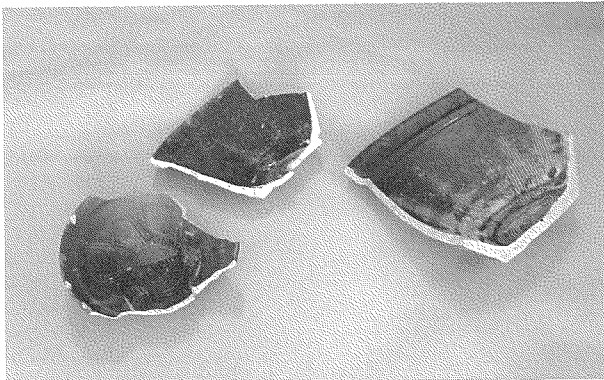


写真60 SK239出土遺物(播鉢)

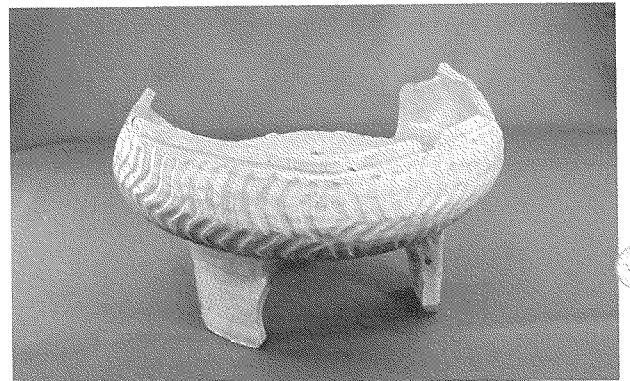


写真61 SK239出土遺物(三足盤)

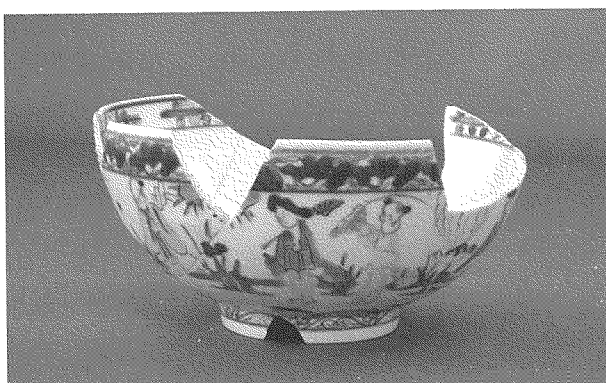


写真62 SK239出土遺物(肥前色絵磁器碗)



写真63 SK239出土遺物(同左内面)



写真64 SK239出土遺物(土師質皿と焼塩壺)



写真65 SK239出土遺物(焼塩壺の刻印)



写真66 SK239出土遺物(享保十六年(1731)か)

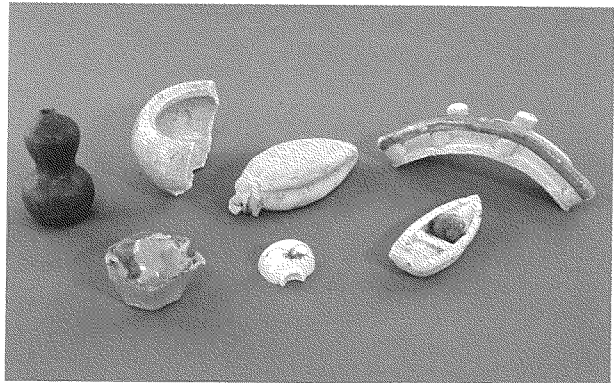


写真67 SK239出土遺物ミニチュアなど

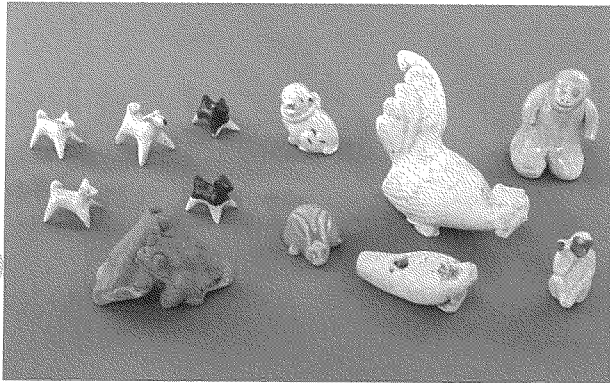


写真68 SK239出土遺物(動物など)

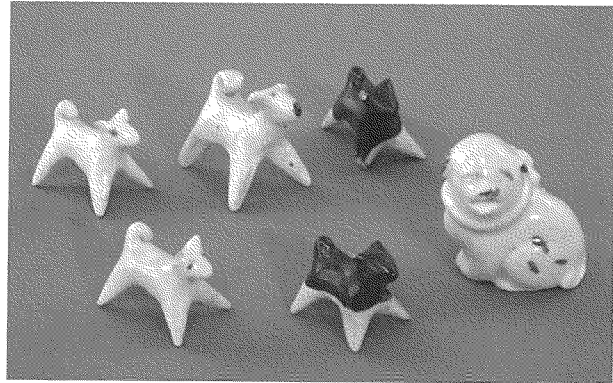


写真69 SK239出土遺物(犬)

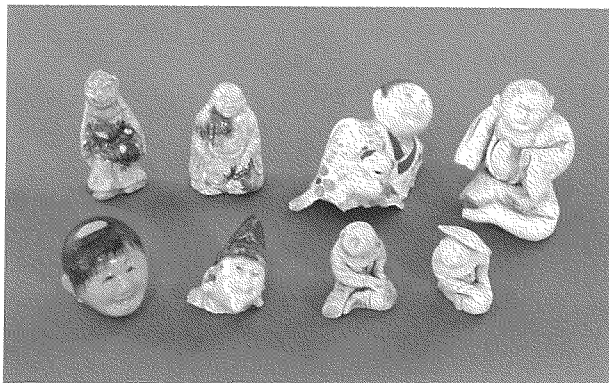


写真70 SK239出土遺物(人物)

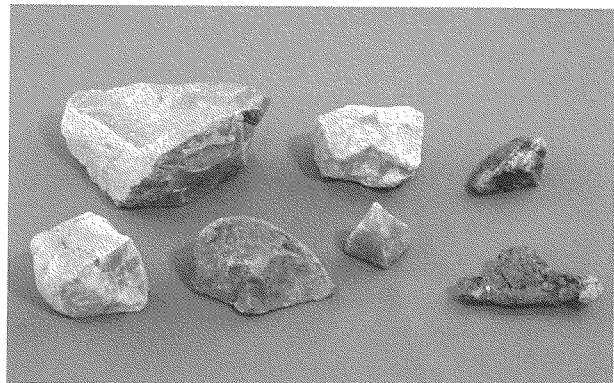


写真71 SK239出土遺物(火打石と火打金)

●SK242

<形状>隅丸長方形

<長さ>1.99m

<幅>(1.06)m

<深さ>0.35m

<埋土>灰黄褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>瀬戸播鉢片、
土鍋片など。17世紀代か。

<遺構の性格など>不明

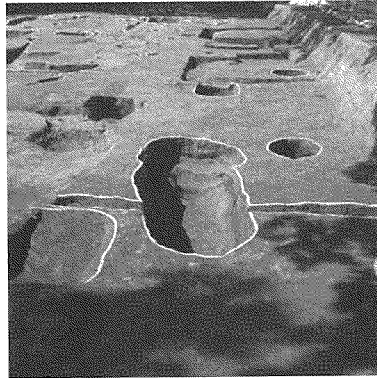


写真72 SK242(手前左端)

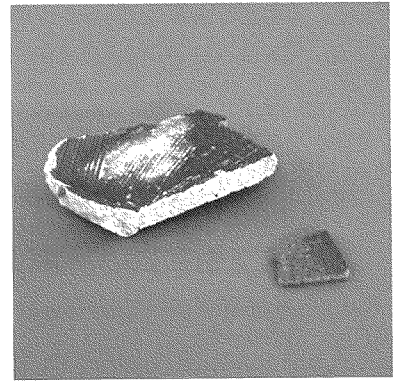


写真73 SK242出土遺物

●SK292

<形状>不整円形

<長さ>1.70m

<幅>(1.27)m

<深さ>1.45m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>志野丸皿、焼塩壺など。17
世紀中頃か。

<遺構の性格など>不明

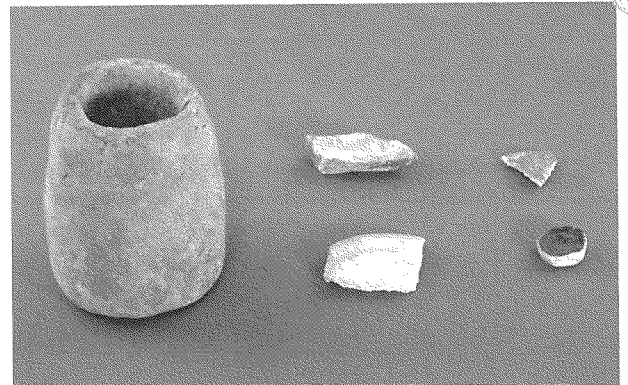


写真74 SK292出土遺物

●SK372(以下のSKはB区検出)

<形状>不整形方形か

<長さ>6.97m

<幅>(2.88)m

<深さ>0.23m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>瀬戸美濃陶器、瀬戸播
鉢、御深井釉皿、肥前系磁器皿、碗、現川焼碗、
軒丸瓦、軒平瓦、焼塩壺、土師皿、常滑甕、鬼瓦
片など。17世紀末～18世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑



写真75 SK372出土遺物

●SK374

<形状>一部のため不明

<長さ>9.14m

<幅>(1.04) m

<深さ>(0.70) m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>瀬戸美濃陶器片、肥前磁器片。18世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑



写真76 SK374(断面)

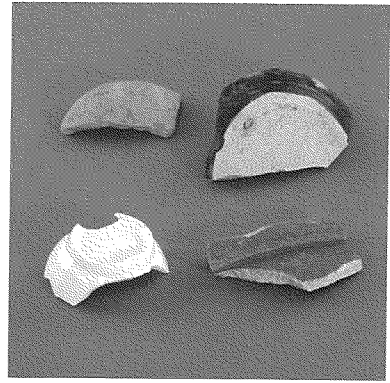


写真77 SK374出土遺物



●SK468

<形状>不整楕円形

<長さ>2.69m

<幅>2.15m

<深さ>0.70m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>肥前染付磁器徳利、青磁香炉、肥前系陶器碗、内耳鍋、土師皿など。18世紀前半から中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑

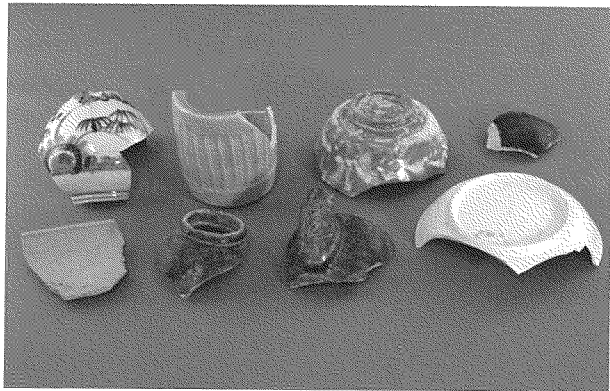


写真78 SK468出土遺物



●SK478

<形状>切合いのため不明

<長さ>2.20m

<幅>(1.77) m

<深さ>0.31m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>平瓦? (寛政年のへら書あり)。18世紀末。

<遺構の性格など>廃棄土坑

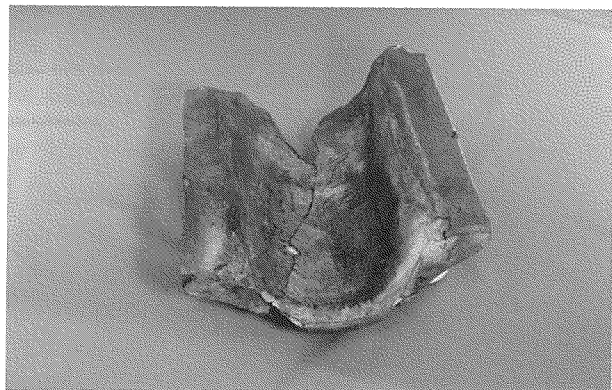


写真79 SK478出土遺物

●SK495

<形状>土坑群で不整形

<長さ>(16.70)m

<幅>8.30m

<深さ>2.14m

<埋土>暗褐色砂質土など

<主な出土遺物と時期>瀬戸美濃陶器茶碗、瀬戸播鉢、肥前三島手大鉢、現川焼碗、肥前磁器皿、常滑甕、
焼塩壺、土師皿、軒丸瓦など。17世紀末～18世紀中頃。

<遺構の性格など>重複する廃棄土坑

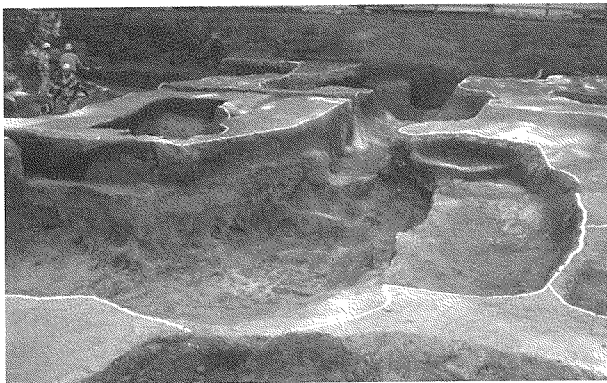


写真80 SK495



写真81 SK495

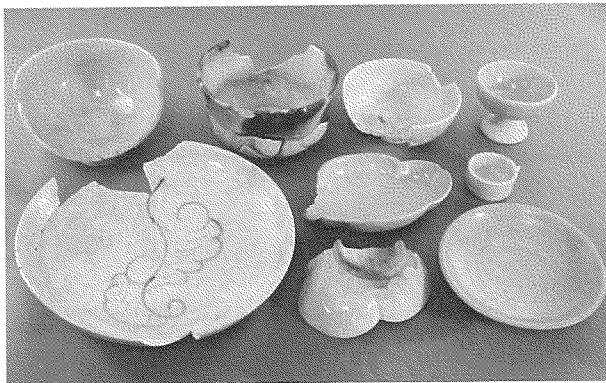


写真82 SK495出土遺物(瀬戸・美濃陶器)



写真83 SK495出土遺物(肥前系陶磁器)



写真84 SK495出土遺物(甕・播鉢)

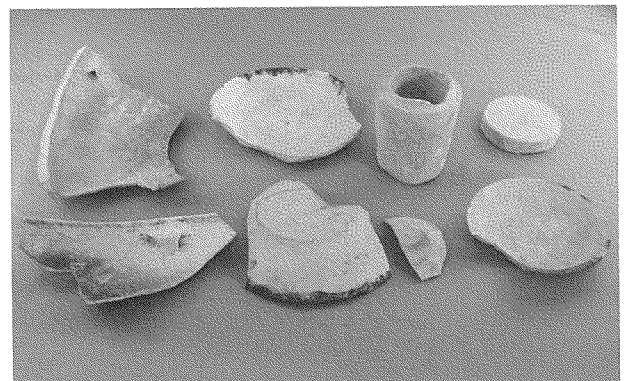


写真85 SK495出土遺物(土師質鍋、皿、焼塩壺)

●SK496

<形状>楕円形

<長さ>3.32m

<幅>1.65m

<深さ>0.30m

<埋土>灰白色砂質土、暗褐色砂質土が混じる
<主な出土遺物と時期>京焼風陶器、肥前磁器上
絵付皿、土師皿、内耳鍋など。18世紀前半。

<遺構の性格など>廃棄土坑



写真86 SK496出土遺物

●SK498

<形状>不整楕円形

<長さ>3.08m

<幅>1.38m

<深さ>0.26m

<埋土>灰オリーブ色シルト

<主な出土遺物と時期>瀬戸播鉢、肥前三島手大
鉢、瀬戸美濃陶器、土師皿など。18世紀前半。

<遺構の性格など>廃棄土坑

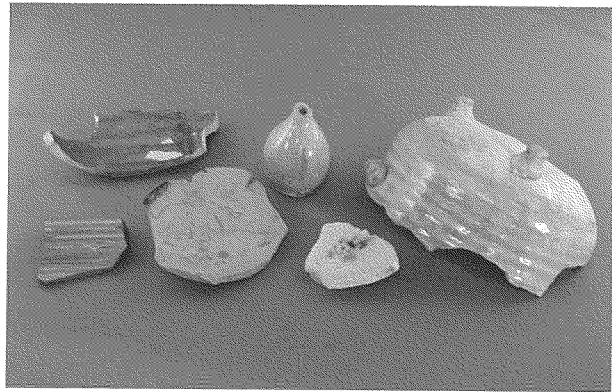


写真87 SK498出土遺物

●SK500

<形状>不整方形

<長さ>8.80m

<幅>6.48m

<深さ>1.45m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>染付磁器広
東碗、瀬戸陶器馬の目皿、瀬戸美
濃刷毛目碗、徳利、土師皿、軒棧
瓦など。19世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑

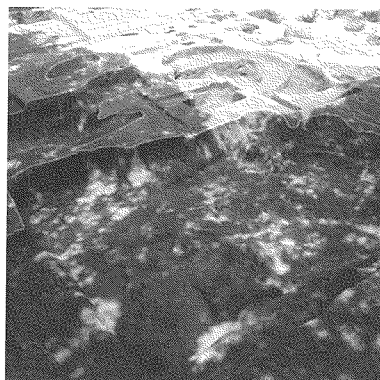


写真88 SK500(手前)

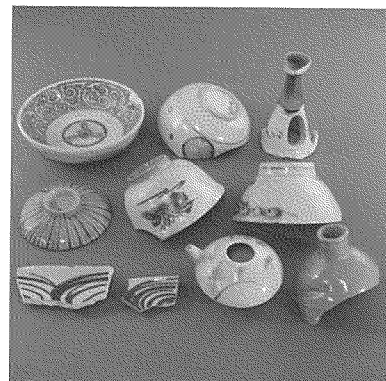


写真89 SK500出土遺物

●SK555

<形状>方形群か

<長さ>(15.35) m

<幅>(7.59) m

<深さ>3m以上

<埋土>灰褐色砂質土など

<主な出土遺物と時期>肥前染付磁器小杯、瀬戸美濃陶器双耳壺?、ひょうそく、軒丸瓦(梅鉢紋)など。

18世紀中頃。

<遺構の性格など>不明、地下室(ちかむろ)状の巨大遺構

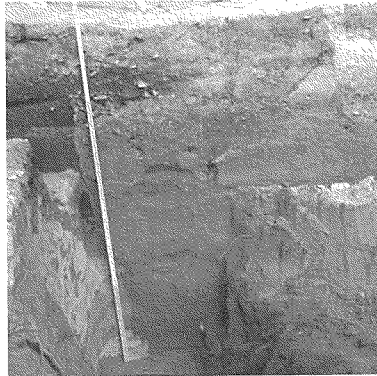


写真90 SK555

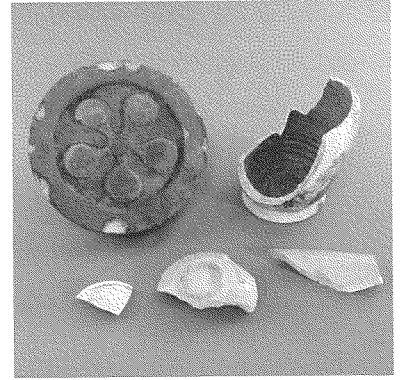


写真91 SK555出土遺物

●SK556

<形状>隅丸方形か

<長さ>(1.77) m

<幅>1.57m

<深さ>0.72m

<埋土>にぶい黄褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>常滑甕片。18世紀?

<遺構の性格など>廃棄土坑

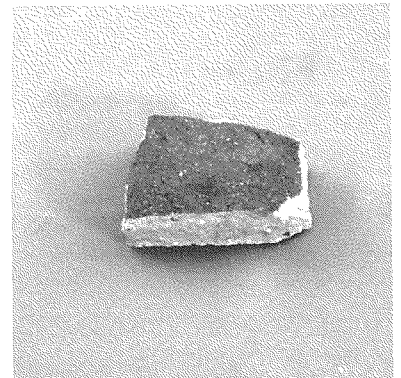


写真92 SK556出土遺物

●SK563

<形状>不整形方形

<長さ>10.77m

<幅>4.23m

<深さ>1.37m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>瀬戸美濃陶器碗、馬の目皿、染付磁器碗、常滑甕、焼塩壺、軒棧瓦など。19世紀前半。

<遺構の性格など>地下室のち廃棄土坑か



写真93 SK563

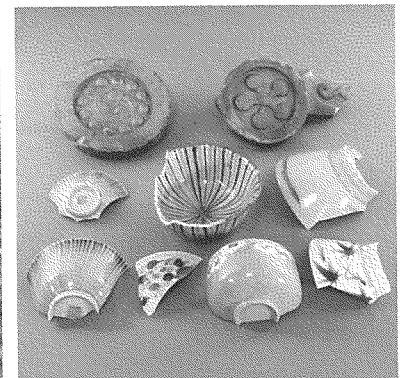


写真94 SK563出土遺物

●SK567

<形状>溝状

<長さ>(6.45)m

<幅>1.72m

<深さ>0.79m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>志野織部丸皿、瀬戸播鉢、瀬戸美濃陶器碗など。17世紀中頃。

<遺構の性格など>不明

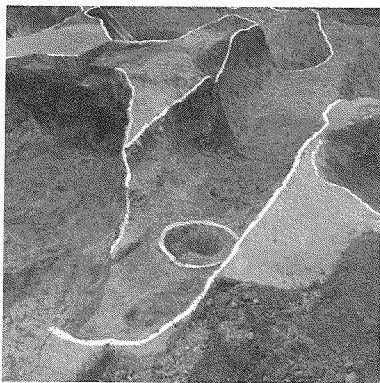


写真95 SK567

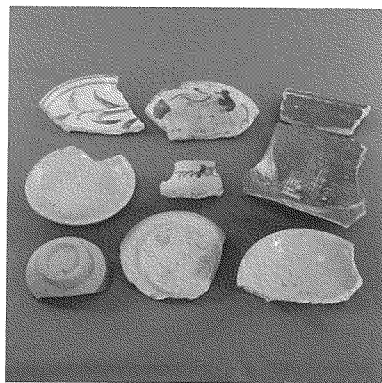


写真96 SK567出土遺物

●SK569

<形状>隅丸方形か

<長さ>(4.52)m

<幅>3.24m

<深さ>1.73m

<埋土>灰褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>染付磁器碗、瀬戸陶器馬の目皿、棧瓦など瓦多量(印銘あり)。19世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑

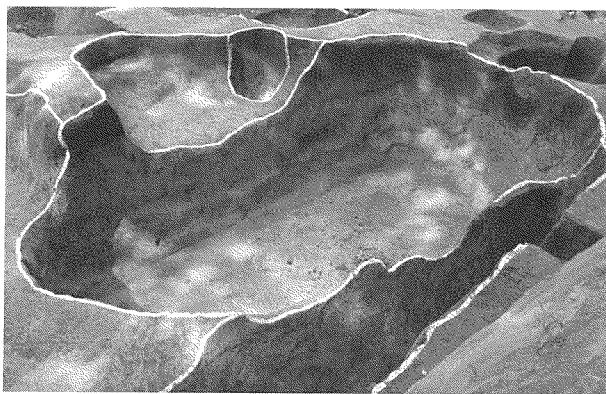


写真97 SK569



写真98 SK569出土遺物(瓦印銘)

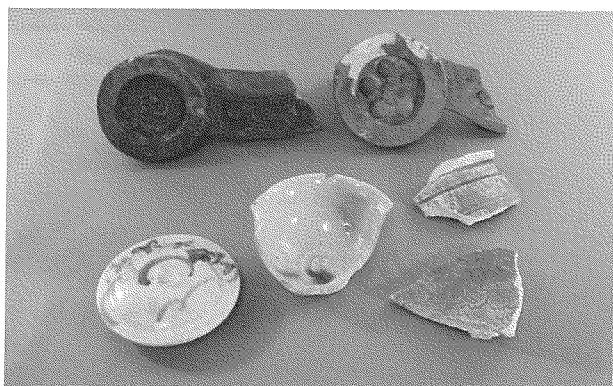


写真99 SK569出土遺物



写真100 SK569出土遺物(同上)

●SK577

<形状>不整楕円形か

<長さ>2.75m

<幅>(1.99)m

<深さ>(1.20)m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>染付磁器端
反碗、瀬戸美濃陶器水鉢、常滑甕、
軒瓦など。19世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑

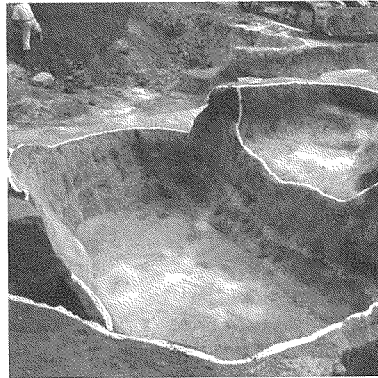


写真101 SK577(右端)



写真102 SK577出土遺物

G 井戸

●SE43

<形状>不整円形

<長さ>1.30m

<幅>1.19m

<深さ>3.32m

<埋土>灰黄褐色砂質土。大レキ多い。

<主な出土遺物と時期>美濃陶器菊
皿、志野丸皿、天目茶碗、鉄釉
徳利、肥前磁器染付小杯、軒平
瓦など。17世紀代。

<遺構の性格など>井戸

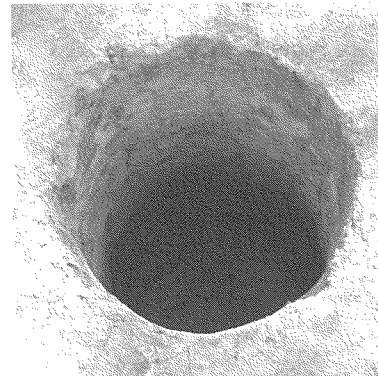


写真103 SE43

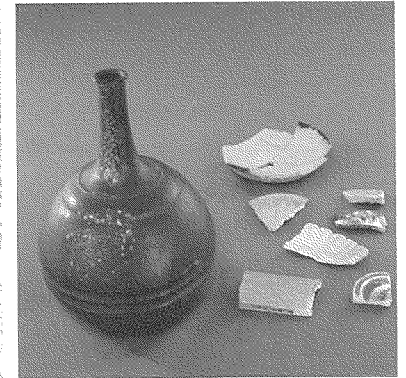


写真104 SE43出土遺物

●SE196

<形状>円形

<長さ>1.07m

<幅>0.98m

<深さ>3.55m

<埋土>暗褐色砂質土。灰白色土ブ
ロックを含む。

<主な出土遺物と時期>志野丸皿、
瀬戸美濃陶器碗、瀬戸挿鉢など。
17世紀中頃。

<遺構の性格など>井戸



写真105 SE196

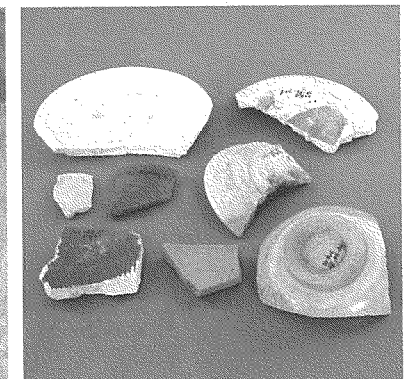


写真106 SE196出土遺物

●SE243

<形状>円形

<長さ>1.21m

<幅>1.15m

<深さ>(3.94)m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>織部向付、

絵志野向付、瀬戸美濃天目茶碗、

唐津香炉、播鉢、焼塩壺、内耳鍋、

土師皿、火打石など。17世紀前葉か。

<遺構の性格など>井戸



写真107 SE243

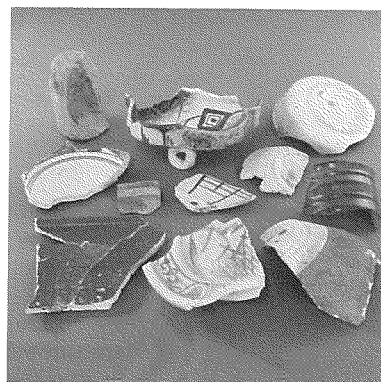


写真108 SE243出土遺物

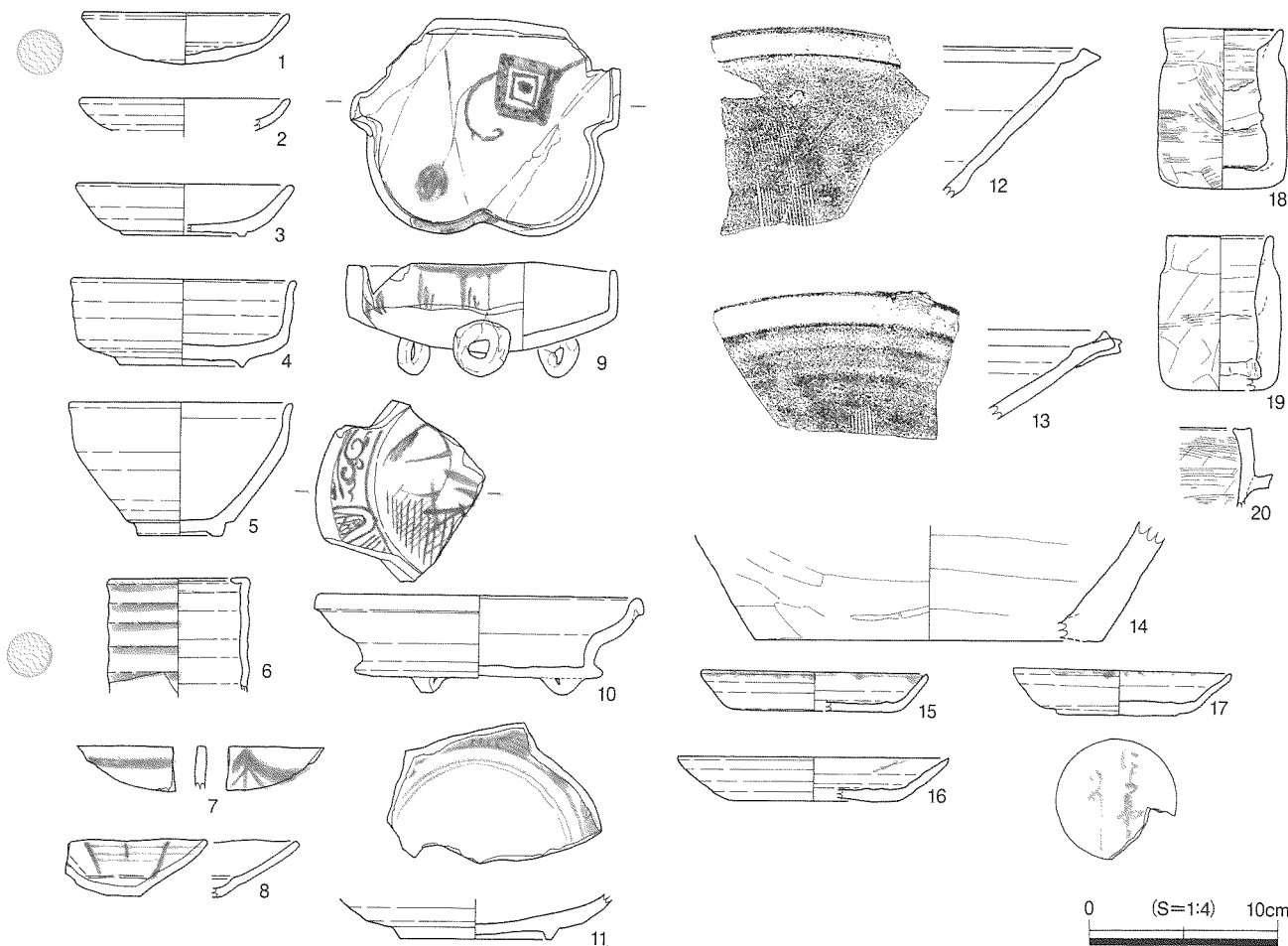


図22 SE243出土遺物

表7 SE243掲載遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	陶器	重圈皿	17世紀初頭	11	陶器	鉄絵皿	17世紀前半、瀬戸美濃
2	陶器	灰釉皿	17世紀、瀬戸美濃	12	陶器	播鉢	17世紀、瀬戸美濃
3	陶器	長石釉皿	17世紀初頭、瀬戸美濃	13	陶器	播鉢	17世紀、瀬戸美濃
4	陶器	長石釉向付	17世紀初頭、瀬戸美濃	14	焼締陶器	甕	常滑窯
5	陶器	天目茶碗	17世紀、瀬戸美濃	15	土師器	皿	ろくろ成形、油煙付着
6	陶器	鉄絵香炉	17世紀、唐津	16	土師器	皿	ろくろ成形、油煙付着
7	陶器	鉄絵向付	17世紀前半、瀬戸美濃	17	土師器	皿	ろくろ成形、油煙付着、墨書
8	陶器	鉄絵皿	17世紀前半、瀬戸美濃	18	土師器	焼塩壺	17世紀
9	陶器	織部向付	17世紀前葉、瀬戸美濃	19	土師器	焼塩壺	17世紀
10	陶器	絵志野向付	17世紀前葉、瀬戸美濃	20	土師器	羽付鍋	羽付鍋

●SE285

<形状>不整形(井筒は円形)

<長さ>2.55m

<幅>1.96m

<深さ>(4.06)m

<埋土>にぶい黄橙色砂質土、下層は黄褐色砂質土。

<主な出土遺物と時期>肥前染付磁器小杯、皿、瀬戸美濃陶器碗、徳利、瀬戸播鉢、焼塩壺(多数)など。18世紀代。

<遺構の性格など>井戸



写真109 SE285



写真110 SE285出土遺物

●SE645

<形状>円形

<長さ>0.93m

<幅>(0.85)m

<深さ>2.98m

<埋土>灰黄褐色中粒砂

<主な出土遺物と時期>染付磁器小杯、磁器上絵付碗、瀬戸美濃陶器碗、瓦片など。17世紀後半か。

<遺構の性格など>井戸

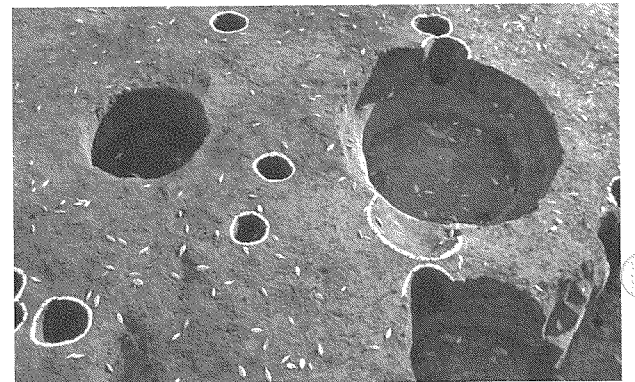


写真111 SE645(右手前)

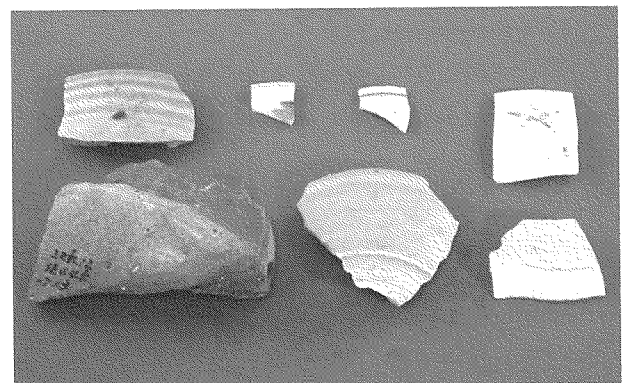


写真112 SE645出土遺物

③ 中世の概要

A 溝状遺構

調査区北西部には、14～15世紀頃の陶器片が出土した短辺約20m、長辺30m程の長方形に区画すると思われる溝が検出された。溝は断面が浅いU字形で防御性はあまり高くない形状であると思われる(SD866・930)。この時期の遺構はあまり多くなく、16世紀にはいった堀や溝が良好に検出されている。

今回の調査区で最も規模の大きな遺構がSD701である。この遺構(堀)は、幅約5m、深さ3m程の薬研堀で、東西に45m程の直線状で検出された。この堀は東側に隣接する土地である合同庁舎の調査地点(1988年)でも検出されていて、この堀と同一の遺構である。これらを合わせると70m以上の延長があり、その位置と規模などから那古野城の外郭を成す堀の可能性が高い。

そして、このSD701を切って造られている南北方向の溝(断面が逆台形状の箱堀)のSD893があり、この溝とつながり、方形区画を構える箱堀の溝SD895、SD998、SD894(薬研に掘り直している)とこれに続く薬研堀のSD1230が検出されている。埋土上層では、16世紀末から17世紀初頭の大窯第4段階に相当する陶器が出土している。

B 土坑

土坑の検出数は比較的少なく、堀や溝の埋土内に位置することもあまりなかった。埋土からは陶器片が少し出土するものがほとんどで、廃棄土坑か他の機能をもった遺構かは明確ではない。

C 井戸

井戸は、2基をSD894・1230(東西方向の細い薬研堀)の遺構内で検出した。SE1347は、この溝の壁で検出された。埋土からは壺、甕片が多く出土している。この井戸の西側で検出されたSE1393は、この薬研堀の溝が半分ほど埋まった頃に、その埋土を掘って造られている状況であった。

D 建物跡など(ピット)

小規模なピットが調査区のほぼ全域に分布し、中世～戦国期の大小の建物等存在した痕跡と思われるが、現在のところ詳細は不明である。



写真113 調査状況(SD701)

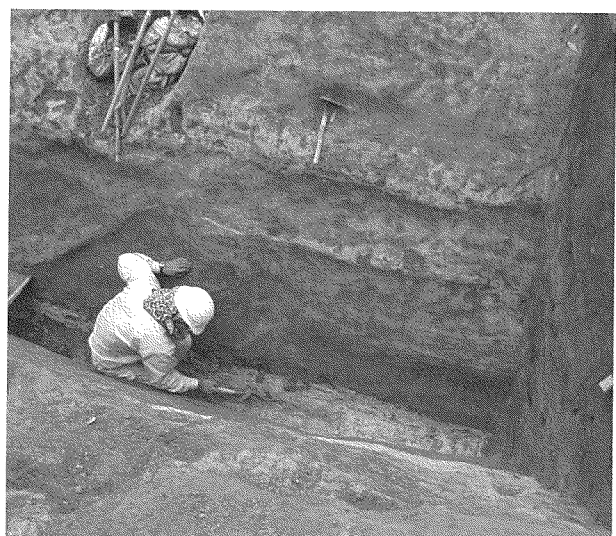


写真114 調査状況(SD701)

A 溝状遺構

●SD866・930

<形状>隅丸方形の溝

<長さ>(14.24)m、(17.74)m

<幅>1.26~1.80m

<深さ>0.22~0.32m

<埋土>黒褐色土

<主な出土遺物と時期>山茶碗(北部系)、古瀬戸灰釉碗、鉄釉碗、小皿、古瀬戸四耳壺、折縁深皿、卸皿、常滑甕、羽釜など。14~15世紀。

<遺構の性格など>居館等に伴う溝か。

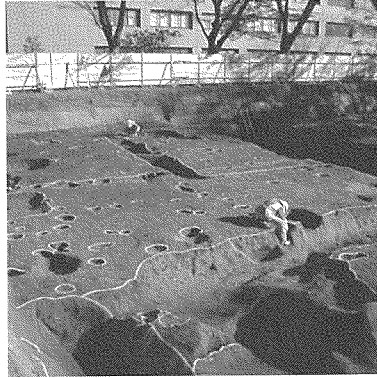


写真115 SD866(手前)

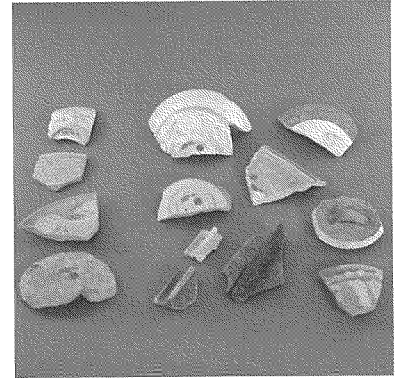


写真116 SD866出土遺物

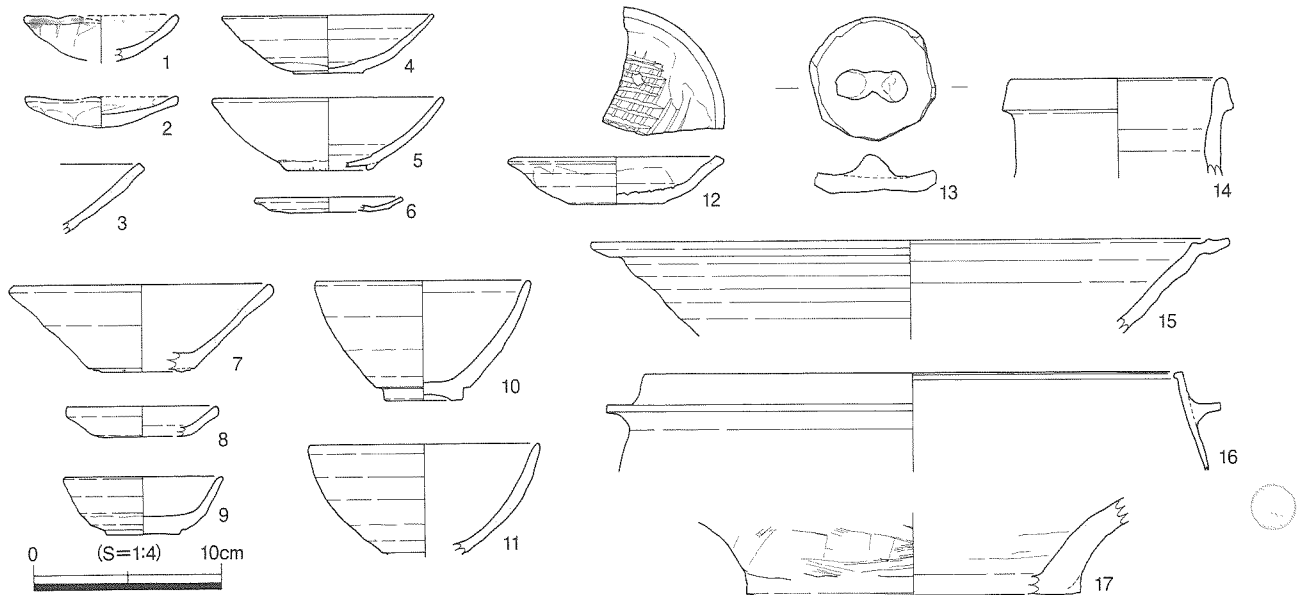


図23 SD866・930出土遺物

表8 SD866・930掲載遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	土師器	皿	手づくね成形、油煙付着
2	土師器	皿	手づくね成形
3	陶器	平碗	灰釉、15世紀
4	陶器	山茶碗	15世紀、北部系
5	陶器	山茶碗	14世紀、北部系
6	陶器	山茶碗(小皿)	15世紀、北部系
7	陶器	山茶碗	14世紀、南部系
8	陶器	山茶碗(小皿)	14世紀、南部系
9	陶器	小杯	灰釉、14世紀
10	陶器	天目茶碗	灰釉、14世紀
11	陶器	天目茶碗	鉄釉、14世紀
12	陶器	卸皿	灰釉、14世紀
13	陶器	蓋加工円盤)	鉄釉
14	陶器	四耳壺	灰釉、13世紀
15	陶器	折縁深皿	灰釉、15世紀
16	土師器	鍔付鍋	
17	桃繪陶器	甕	常滑窯

●SX700

<形状>短い溝の複合

<長さ>(19.71)m

<幅>3.56m

<深さ>0.91m

<埋土>黒褐色土

<主な出土遺物と時期>山茶碗、古瀬戸卸皿、灰釉碗、柄付片口、挿鉢、常滑甕、羽釜など。13～15世紀前半。

<遺構の性格など>不明。

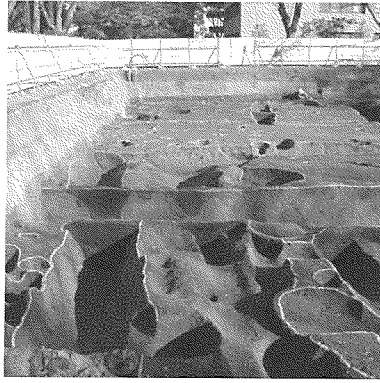


写真117 SX700

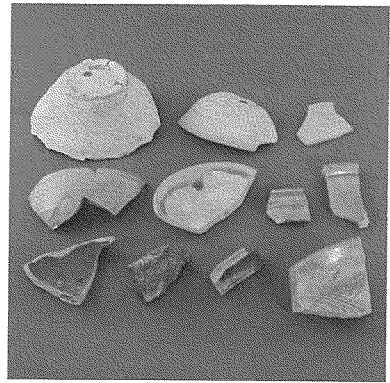


写真118 SX700出土遺物

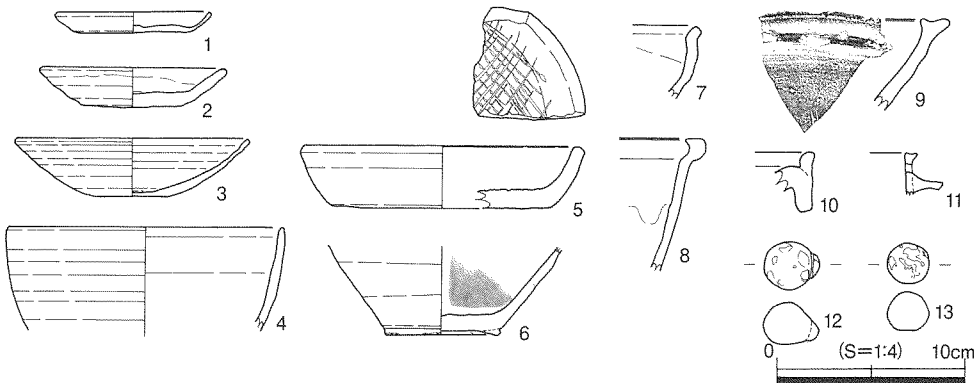


図24 SX700出土遺物

表9 SX700掲載遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	陶器	山茶碗(小皿)	北部系、15世紀	8	陶器	柄付片口	古瀬戸、14～15世紀
2	陶器	灰釉小皿	古瀬戸、15世紀	9	陶器	挿鉢	15世紀頃
3	陶器	山茶碗	北部系、15世紀	10	焼締陶器	甕	常滑窯、14世紀後半頃
4	陶器	灰釉碗	古瀬戸、14～15世紀	11	土師質	鈎付鍋	14世紀頃
5	陶器	卸皿	古瀬戸、13世紀頃	12	陶器	陶丸	13世紀頃
6	陶器	山茶碗	南部系、13世紀	13	陶器	陶丸	13世紀頃
7	陶器	洗	古瀬戸、14世紀頃				

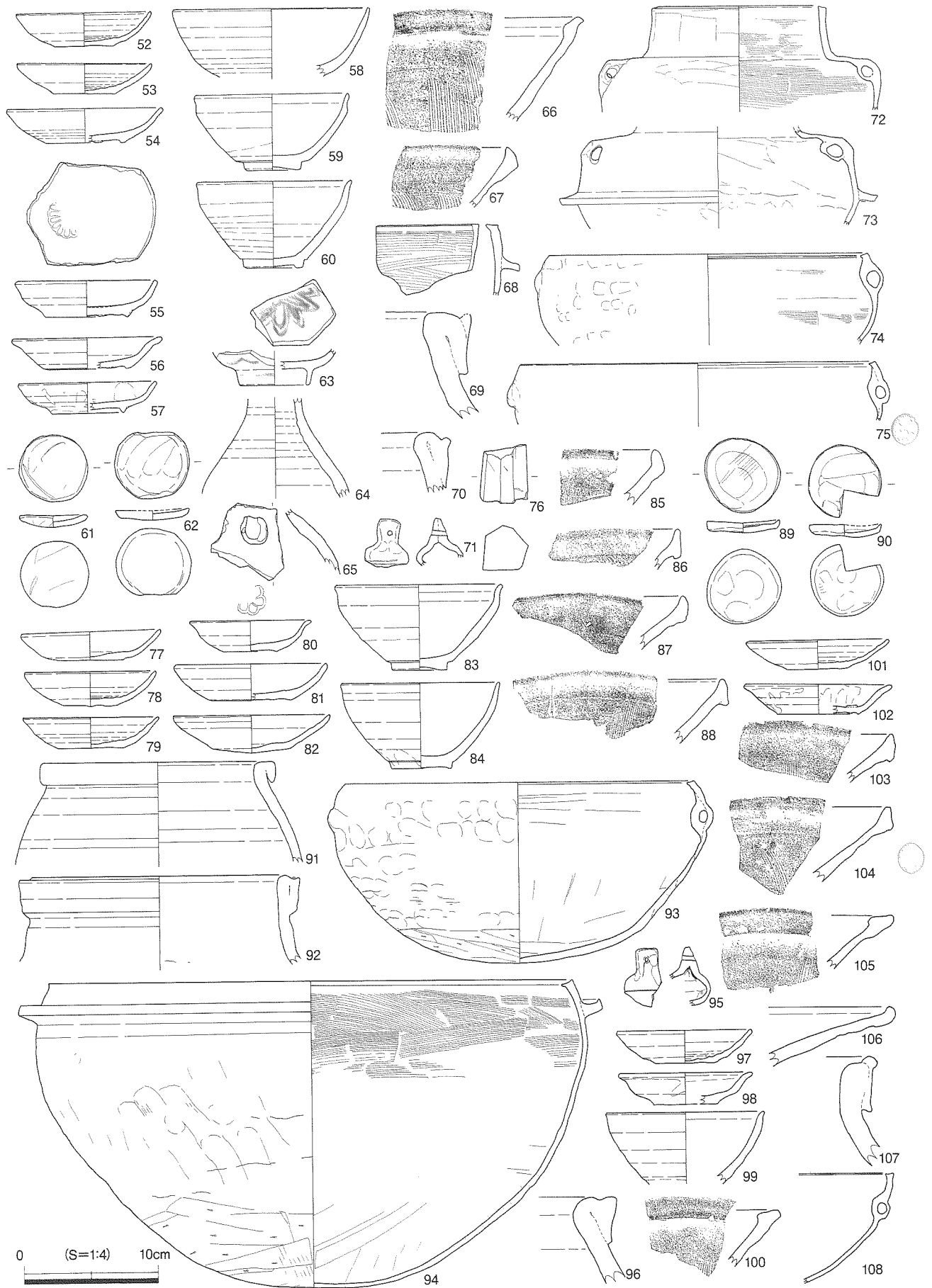


图26 SD701出土遺物(2)

表10 SD701掲載遺物の一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	陶器	丸皿	灰釉、1・2層出土	55	陶器	丸皿	灰釉、3・4層出土
2	陶器	丸皿	鉄釉、1・2層出土	56	陶器	椀皿	鉄釉、3・4層出土
3	陶器	天目茶碗	鉄釉、1・2層出土	57	陶器	丸皿	鉄釉、3・4層出土
4	土師器	小皿	手づくね、1・2層出土	58	陶器	碗	灰釉、3・4層出土
5	陶器	播鉢	1・2層出土	59	陶器	天目茶碗	鉄釉、3・4層出土
6	陶器	播鉢	1・2層出土	60	陶器	天目茶碗	鉄釉、3・4層出土
7	陶器	播鉢	1・2層出土	61	土師器	小皿	手づくね、3・4層出土
8	陶器	重圈皿	2層出土	62	土師器	小皿	手づくね、3・4層出土
9	陶器	重圈皿	2層出土	63	磁器	青花碗	中国産、3・4層出土層出土
10	陶器	端反皿	灰釉、2層出土	64	陶器	瓶	鉄釉、3・4層出土
11	陶器	丸皿	灰釉、2層出土	65	陶器	耳付き壺	鉄釉、3・4層出土
12	陶器	丸皿	鉄釉、2層出土	66	陶器	播鉢	3・4層出土
13	陶器	丸皿	鉄釉、2層出土	67	陶器	播鉢	3・4層出土
14	陶器	碗	灰釉、2層出土	68	土師器	羽付鍋	3・4層出土
15	陶器	天目茶碗	鉄釉、2層出土	69	焼締陶器	甕	常滑窯、3・4層出土
16	陶器	天目茶碗	鉄釉、2層出土	70	焼締陶器	甕	常滑窯、3・4層出土
17	陶器	天目茶碗	鉄釉、2層出土	71	土師器	土鈴	3・4層出土
18	土師器	皿	2層出土	72	土師器	羽付釜	3・4層出土
19	土師器	小皿	手づくね、2層出土	73	土師器	羽付釜	3・4層出土
20	土師器	小皿	手づくね、2層出土	74	土師器	内耳鍋	3・4層出土
21	土師器	小皿	手づくね、2層出土	75	土師器	内耳鍋	3・4層出土
22	陶器	播鉢	2層出土	76	石製品	砥石	多面体、砂岩製、3・4層出土
23	陶器	鉢	灰釉、2層出土	77	土師器	皿	ろくろ成形、4層出土
24	土師器	内耳鍋	2層出土	78	陶器	重圈皿	4層出土
25	土師器	羽付釜	2層出土	79	陶器	重圈皿	4層出土
26	土師器	羽付鍋	2層出土	80	陶器	端反皿	灰釉、4層出土
27	陶器	重圈皿	3層出土	81	陶器	丸皿	鉄釉、4層出土
28	陶器	丸皿	灰釉、3層出土	82	土師器	皿	ろくろ成形、4層出土
29	陶器	丸皿	灰釉、3層出土	83	陶器	天目茶碗	鉄釉、4層出土
30	陶器	椀皿	鉄釉、3層出土	84	陶器	天目茶碗	鉄釉、4層出土
31	陶器	端反皿	鉄釉、3層出土	85	陶器	播鉢	4層出土
32	磁器	白磁皿	中国産、3層出土	86	陶器	播鉢	4層出土
33	陶器	端反皿	灰釉、3層出土	87	陶器	播鉢	4層出土
34	陶器	天目茶碗	鉄釉、3層出土	88	陶器	播鉢	4層出土
35	陶器	天目茶碗	鉄釉、3層出土	89	土師器	小皿	手づくね、4層出土
36	陶器	天目茶碗	鉄釉、3層出土	90	土師器	小皿	手づくね、4層出土
37	土師器	小皿	手づくね、3層出土	91	陶器	壺	鉄釉、4層出土
38	土師器	小皿	手づくね、3層出土	92	焼締陶器	壺	常滑窯、4層出土
39	土師器	土鈴	3層出土	93	土師器	内耳鍋	4層出土
40	土師器	土鈴	3層出土	94	土師器	羽付鍋	4層出土
41	磁器	青磁香炉	3層出土	95	土師器	土鈴	4層出土
42	陶器	瓶	鉄釉、3層出土	96	焼締陶器	甕	常滑窯、4層出土
43	陶器	壺	鉄釉、3層出土	97	陶器	重圈皿	5・6層出土
44	陶器	筒型容器	鉄釉、3層出土	98	陶器	端反皿	鉄釉、5・6層出土
45	陶器	播鉢	3層出土	99	陶器	天目茶碗	鉄釉、5・6層出土
46	焼締陶器	甕	常滑窯、3層出土	100	陶器	播鉢	5・6層出土
47	土師器	内耳鍋	3層出土	101	陶器	重圈皿	5・6・7層出土
48	土師器	羽付釜	3層出土	102	陶器	端反皿	鉄釉、5・6・7層出土
49	土師器	内耳鍋	3層出土	103	陶器	播鉢	5・6・7層出土
50	土師器	羽付鍋	3層出土	104	陶器	播鉢	5・6・7層出土
51	土師器	羽付鍋	3層出土	105	陶器	播鉢	5・6・7層出土
52	陶器	重圈皿	3・4層出土	106	陶器	播鉢	5・6・7層出土
53	陶器	重圈皿	3・4層出土	107	焼締陶器	甕	常滑窯、5・6・7層出土
54	陶器	丸皿	灰釉、3・4層出土	108	土師器	内耳鍋	5・6・7層出土

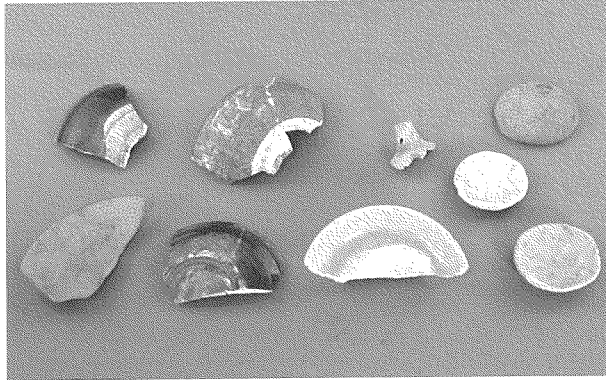


写真125 SD701(A区2層)出土遺物

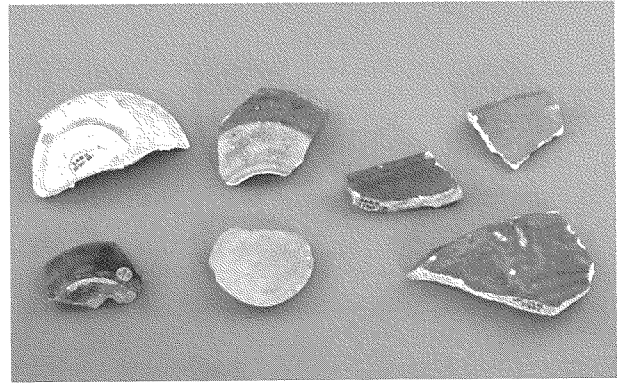


写真126 SD701(B区1・2層)

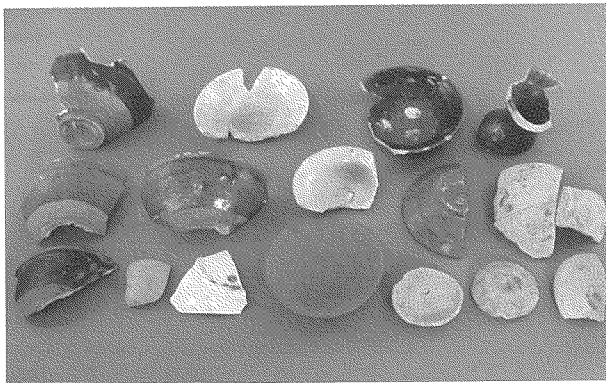


写真127 SD701(A区3層)出土遺物

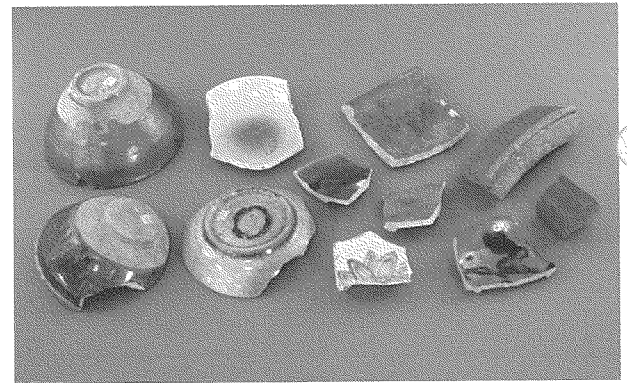


写真128 SD701(B区3・4層か)出土遺物

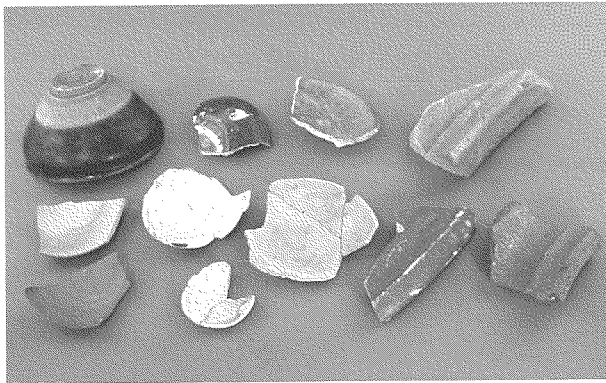


写真129 SD701(A区4層)出土遺物

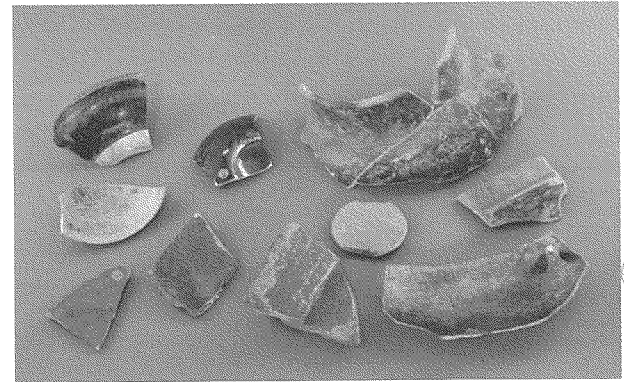


写真130 SD701(B区3・4層)出土遺物

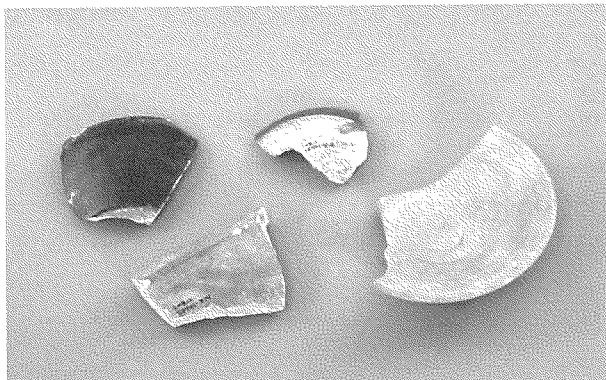


写真131 SD701(A区5・6層)出土遺物

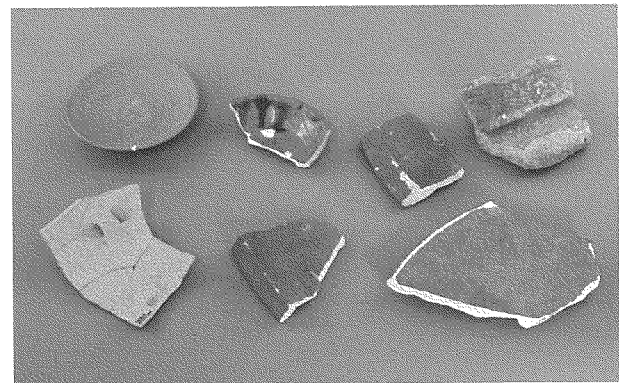


写真132 SD701(B区5・6・7層)出土遺物

●SD893

<形状>直線とコーナー

<長さ>(31.82)m

<幅>2.19m

<深さ>1.37m

<埋土>暗褐色土など

<主な出土遺物と時期>天目茶碗、皿、香炉、土鍋、土師皿など。16世紀中頃～16世紀末頃。

<遺構の性格など>家臣団屋敷の一角か

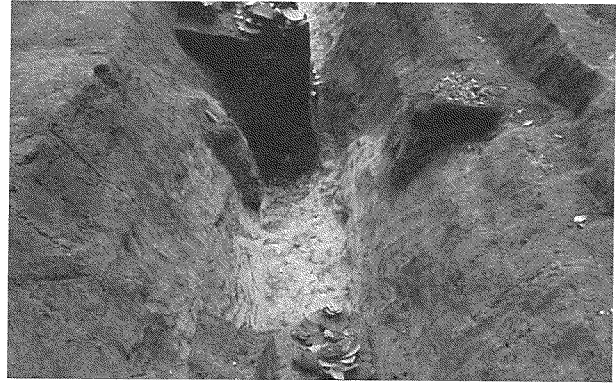


写真133 SD893遺物出土状況

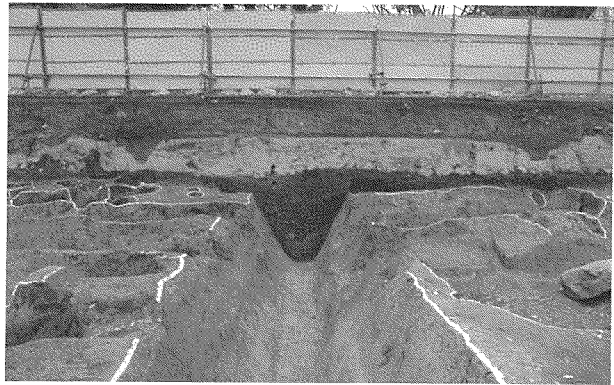


写真134 SD893



写真135 SD893(1層)出土遺物

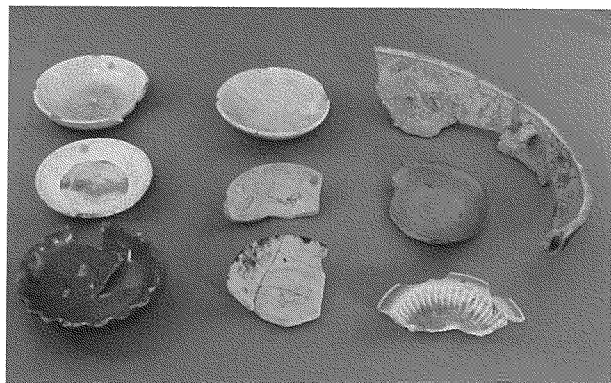


写真136 SD893(1層)出土遺物

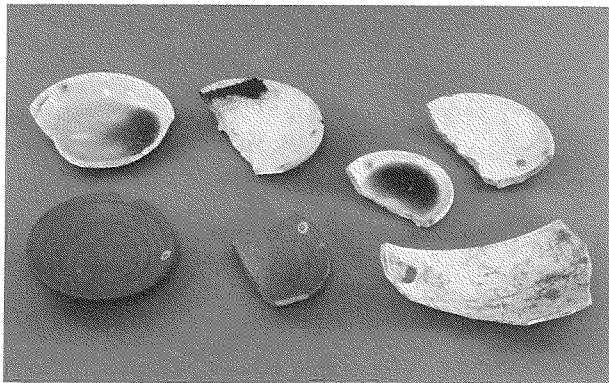


写真137 SD893(2層)出土遺物

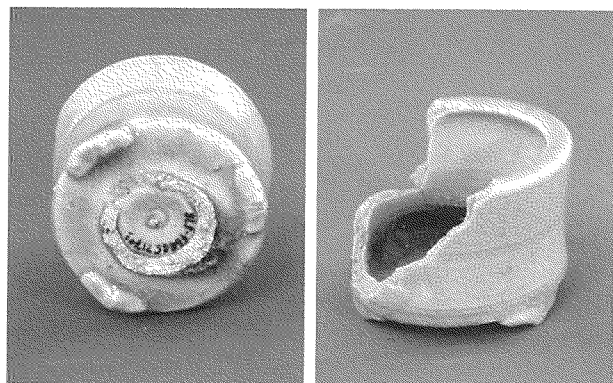


写真138 SD893(2層)出土遺物 (同左)

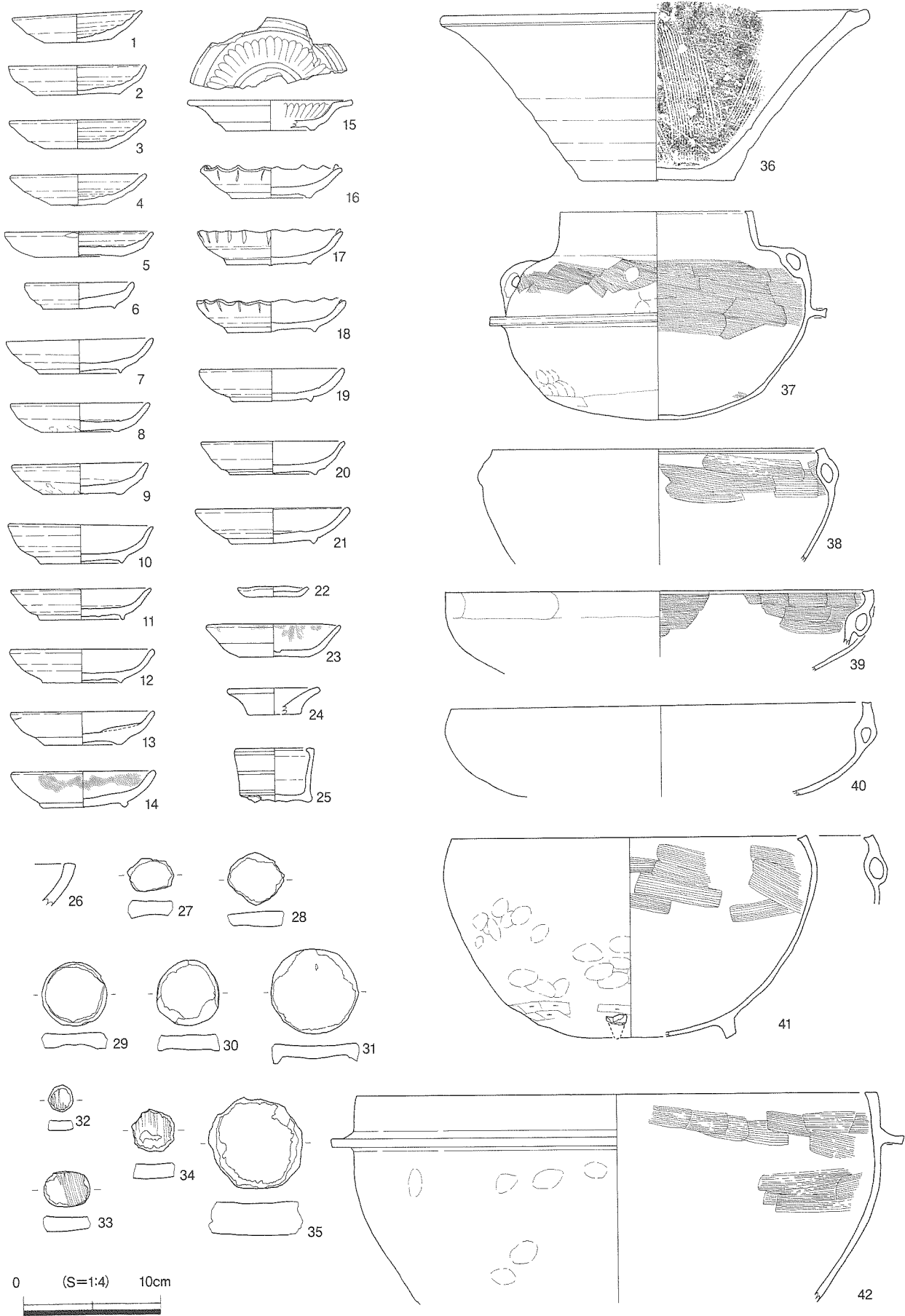


图27 SD893出土遺物

表11 SD893掲載遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	陶器	重園皿	16世紀	22	土師質	小皿	
2	陶器	重園皿	16世紀	23	土師質	皿	油煙付着、ろくろ成形
3	陶器	重園皿	16世紀	24	陶器	小杯か	鉄釉
4	陶器	重園皿	16世紀	25	陶器	香炉	灰釉
5	陶器	重園皿	16世紀	26	陶器	鉢	備前窯?
6	陶器	灰釉皿	16世紀	27	陶器	加工円盤	
7	陶器	灰釉皿	16世紀	28	陶器	加工円盤	
8	陶器	灰釉皿	16世紀	29	陶器	加工円盤	
9	陶器	灰釉皿	16世紀	30	陶器	加工円盤	
10	陶器	灰釉皿	16世紀	31	陶器	加工円盤	
11	陶器	灰釉皿	16世紀	32	陶器	加工円盤	
12	陶器	灰釉皿	16世紀	33	陶器	加工円盤	
13	陶器	灰釉皿	16世紀	34	陶器	加工円盤	
14	陶器	灰釉皿	16世紀	35	瓦	加工円盤	
15	陶器	折縁皿	灰釉、16世紀	36	陶器	播鉢	上層、17世紀初頭
16	陶器	稜皿	鉄釉、16世紀	37	土師質	羽付釜	16世紀
17	陶器	稜皿	鉄釉、16世紀	38	土師質	内耳鍋	16世紀
18	陶器	稜皿	鉄釉、16世紀	39	土師質	内耳鍋	16世紀
19	陶器	丸皿	長石釉	40	土師質	内耳鍋	16世紀
20	陶器	丸皿	長石釉	41	土師質	内耳鍋	16世紀
21	陶器	丸皿	長石釉	42	土師質	羽付鍋	16世紀

●SD895

<形状>直線状。結合部あり。

<長さ>(20.35) m

<幅>1.61m

<深さ>1.14m

<埋土>暗褐色土。

<主な出土遺物と時期>播鉢、常滑甕、灰釉皿、土師皿、土師質手づくね小皿など。16世紀後半頃。

<遺構の性格など>家臣団屋敷の一角か

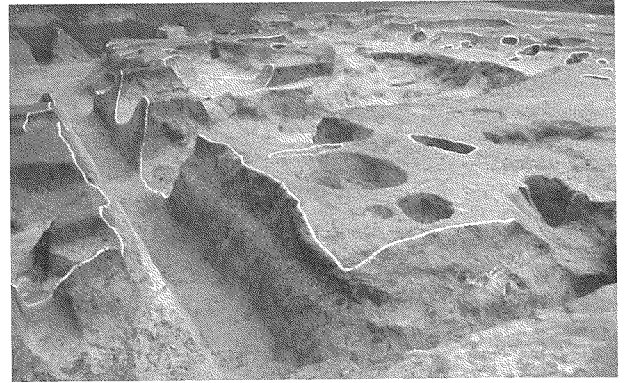


写真139 SD895

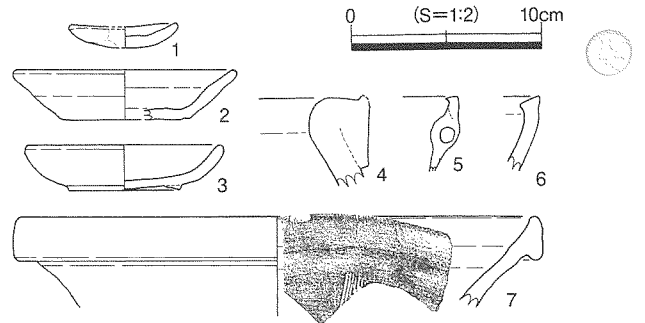


図28 SD895出土遺物

表12 SD895掲載遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	土師器	小皿	手づくね成形
2	土師器	皿	ろくろ成形
3	陶器	皿	焼成不良
4	焼締陶器	甕	常滑窯
5	土師器	内耳鍋	
6	陶器	鉢	鉄釉
7	陶器	播鉢	16世紀

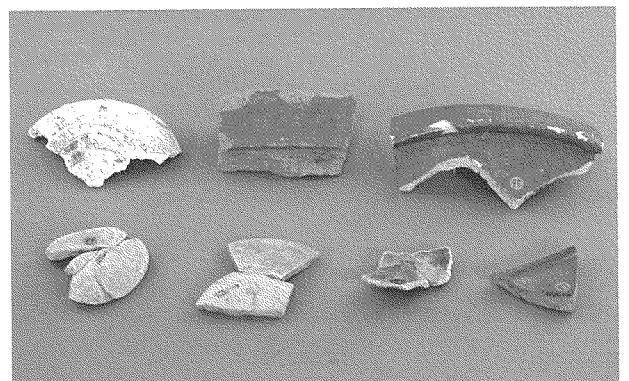


写真140 SD895出土遺物

●SD894・1230

<形状>直線状。結合部あり。

<長さ>(25.03)m

<幅>2.00~2.60m

<深さ>1.97~2.17

<埋土>暗褐色土など

<主な出土遺物と時期>播鉢、志野丸皿、天目茶碗、内耳鍋、土師質手づくね小皿、五輪塔、石臼など。16世紀末~17世紀初頭。

<遺構の性格など>家臣団屋敷の一角か

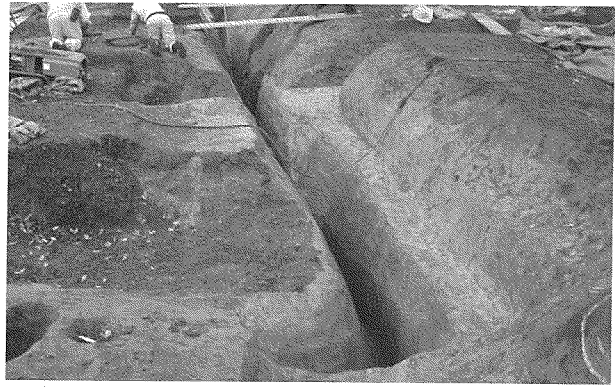


写真141 SD894



写真142 SD894(SD893との結合部)

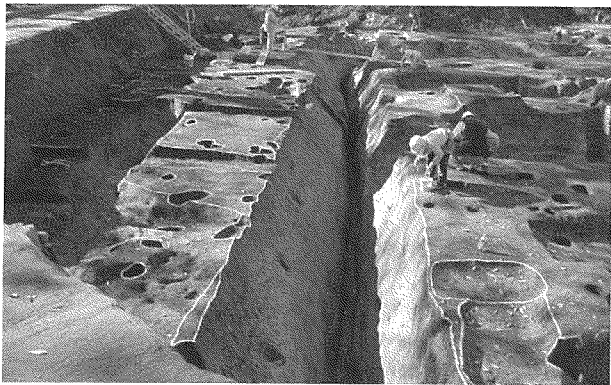


写真143 SD1230

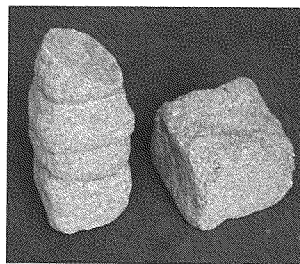


写真144 SD1230出土遺物(五輪塔)

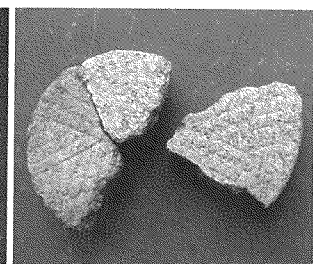


写真145 SD1230出土遺物(石臼)

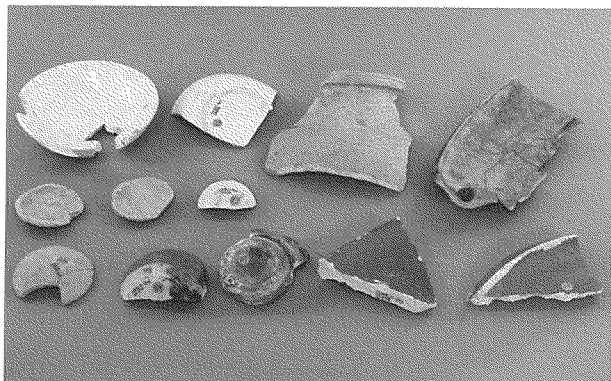


写真146 SD1230出土遺物

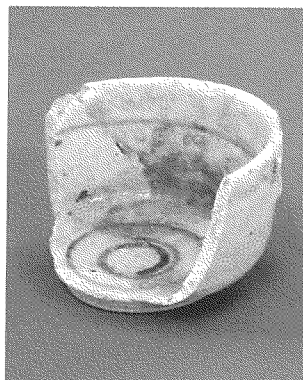


写真147 SD1230内SK1342出土遺物

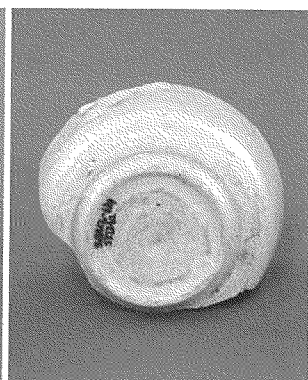


写真148 (同左)

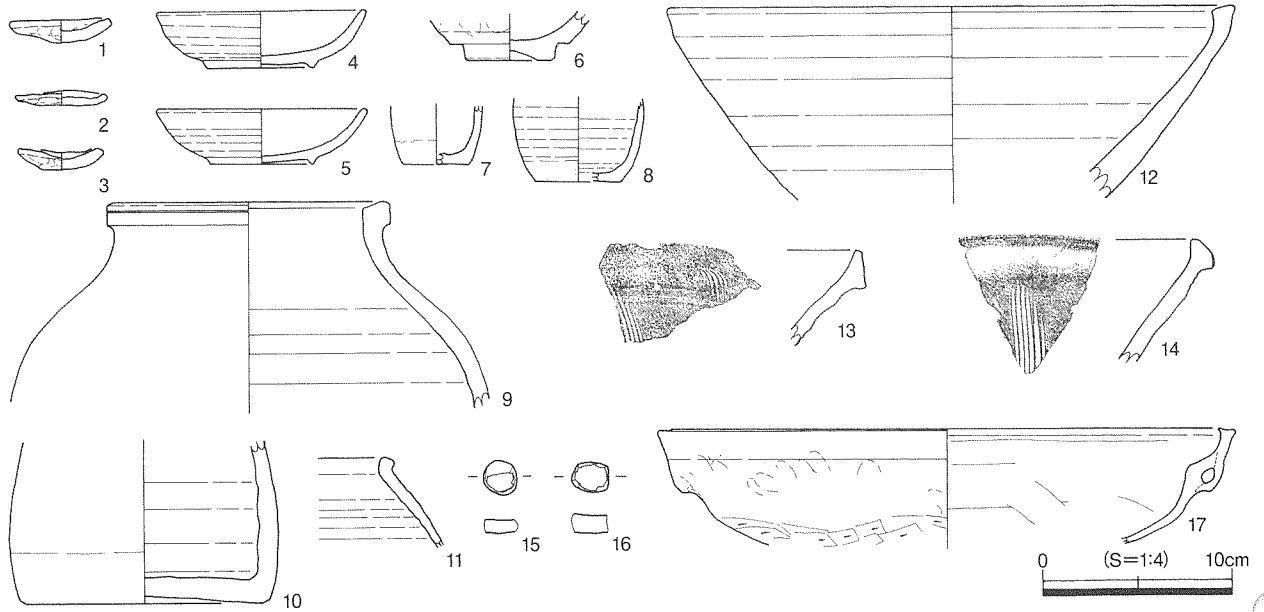


図29 SD894・1230出土遺物

表13 SD894・1230掲載遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	土師器	小皿	手づくね成形
2	土師器	小皿	手づくね成形
3	土師器	小皿	手づくね成形
4	陶器	皿	長石釉
5	陶器	皿	長石釉
6	陶器	天目茶碗	鉄釉
7	陶器	茶入れ	鉄釉
8	陶器	茶入れ	鉄釉
9	陶器	壺	鉄釉
10	陶器	甕か	鉄釉
11	陶器	壺	鉄釉
12	陶器	鉢	鉄釉
13	陶器	播鉢	鉄釉
14	陶器	播鉢	鉄釉
15	陶器	加工円盤	播鉢片
16	陶器	加工円盤	播鉢片
17	土師器	内耳鍋	

●SD992

<形状>逆L字形

<長さ>9.60m

<幅>0.36~1.15m

<深さ>0.10~0.65m

<埋土>暗褐色土

<主な出土遺物と時期>山茶碗、播鉢、土師質手づくね小皿など。15世紀中頃。

<遺構の性格など>不明

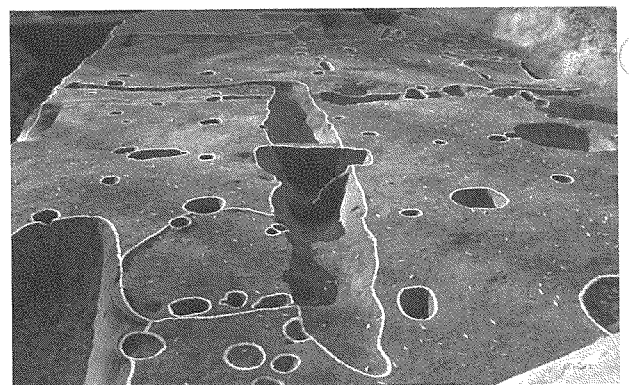


写真149 SD992

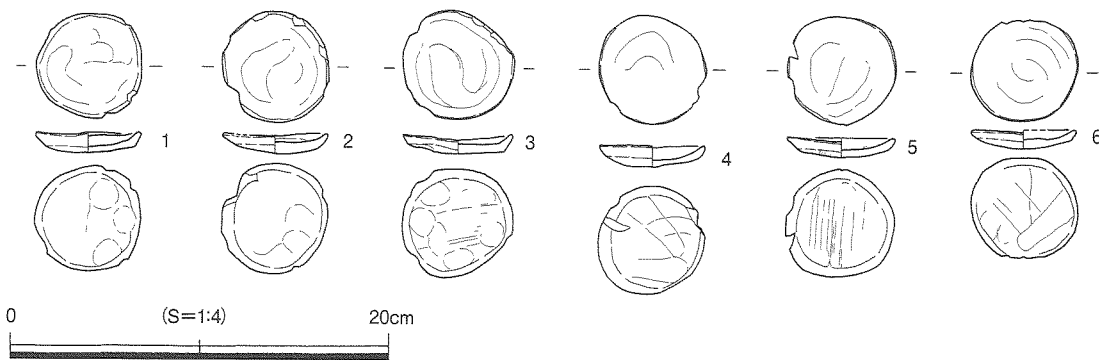


図30 SD992出土遺物

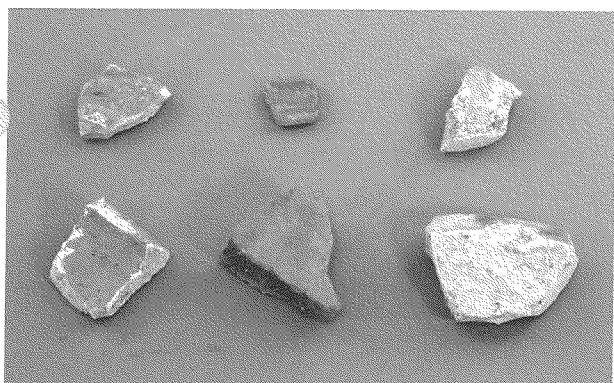


写真150 SD992出土遺物

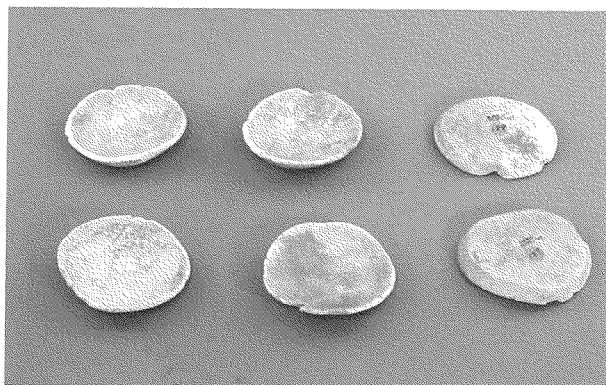


写真151 SD992出土遺物

表14 SD992掲載遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	土師器	小皿	手づくね成形
2	土師器	小皿	手づくね成形
3	土師器	小皿	手づくね成形
4	土師器	小皿	手づくね成形
5	土師器	小皿	手づくね成形
6	土師器	小皿	手づくね成形

●SD993

<形状>細い直線状

<長さ>(23.15)m

<幅>0.25~0.50m

<深さ>0.10~0.43m

<埋土>暗褐色土

<主な出土遺物と時期>山茶碗、灰釉鉢、播鉢など。

15世紀か。

<遺構の性格など>区画溝？



写真152 SD993

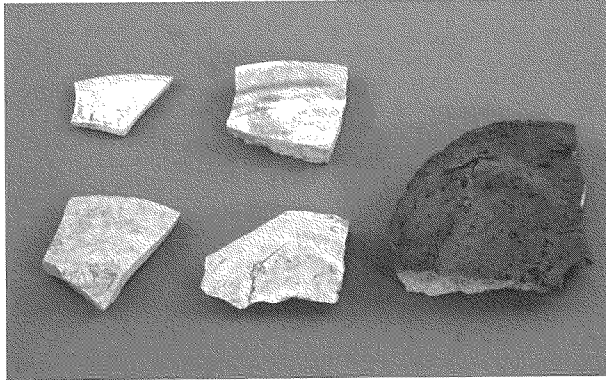


写真153 SD933出土遺物

B 土坑

●SK855

<形状>楕円形

<長さ>1.95m

<幅>1.50m

<深さ>0.15m

<埋土>黒褐色シルト。斑状に地山含む。

<主な出土遺物と時期>遺物なし。

<遺構の性格など>不明



写真154 SK855など

●SK857

<形状>隅丸方形

<長さ>2.83m

<幅>2.59m

<深さ>0.33m

<埋土>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>挿鉢、天目茶碗、鉄釉皿、
常滑甕など。16世紀中頃。

<遺構の性格など>不明



写真155 SK857

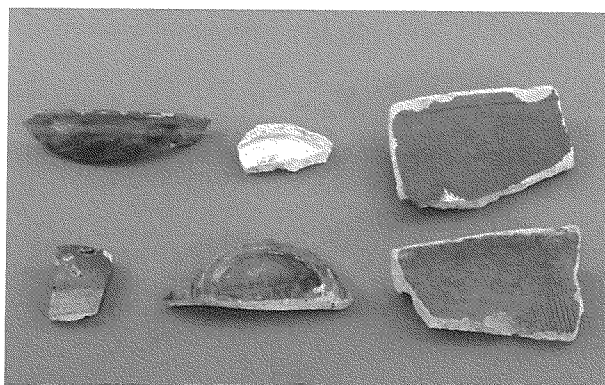


写真156 SK857出土遺物

●SK878

<形状>楕円形か

<長さ>(1.91)m

<幅>1.43m

<深さ>0.49m

<埋土>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>天目茶碗、播鉢、16世紀前半～中頃。

<遺構の性格など>不明

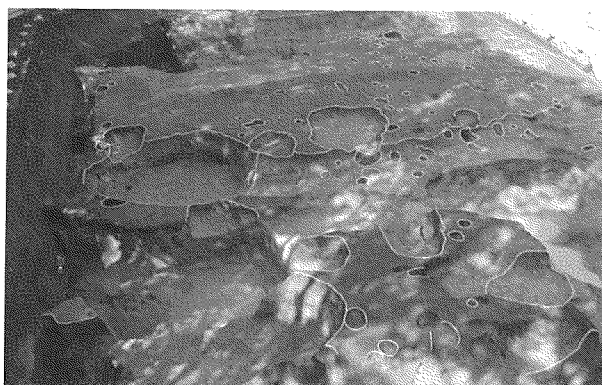


写真157 SK878(中央手前)

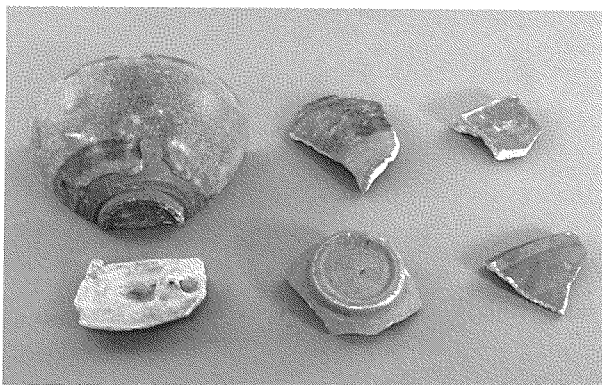


写真158 SK878出土遺物

●SK880

<形状>楕円形か

<長さ>(6.75)m

<幅>3.47m

<深さ>1.04m

<埋土>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>播鉢、天目茶碗、長石釉碗、灰釉小皿、常滑甕、内耳鍋、瓦片など。16世紀末頃。

<遺構の性格など>不明



写真159 SK880(手前)

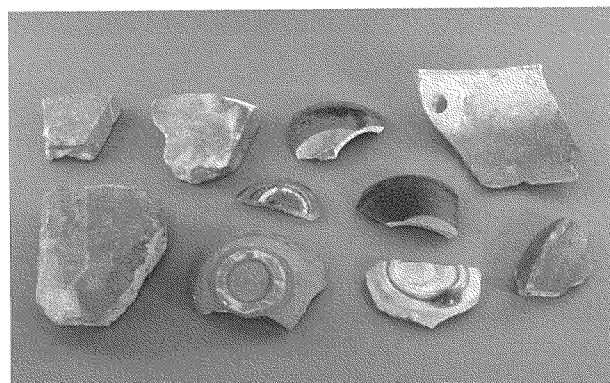


写真160 SK880出土遺物

●SK882

<形状>不整楕円形

<長さ>5.69m

<幅>4.22m

<深さ>1.05m

<埋土>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>山茶碗、播鉢、古瀬戸直縁大皿、古瀬戸折縁深皿、鉄釉土釜、土師皿、土釜など。

15世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑か



写真161 SK882

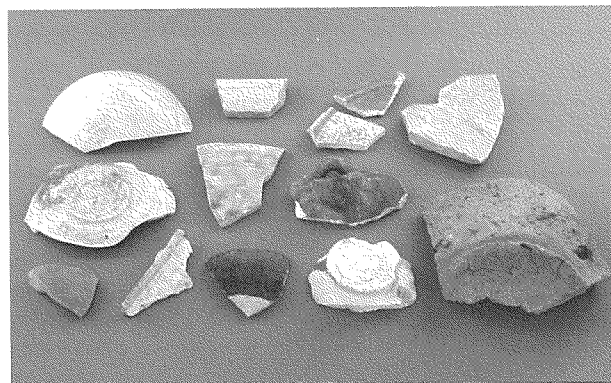


写真162 SK882出土遺物

●SK907

<形状>隅丸方形

<長さ>1.65m

<幅>1.34m

<深さ>0.37m

<埋土>黒褐色粘質土

<主な出土遺物と時期>山茶碗、灰釉平碗、播鉢など。15世紀中頃か。

<遺構の性格など>不明

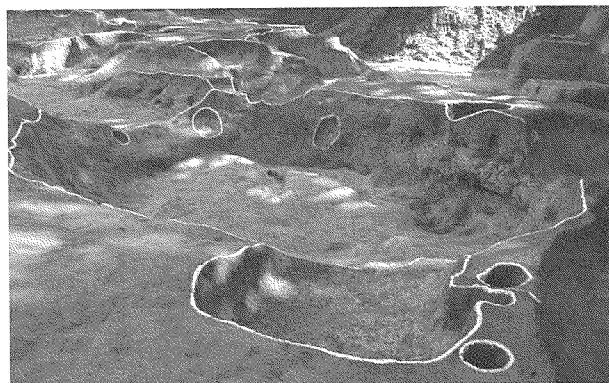


写真163 SK907(手前)

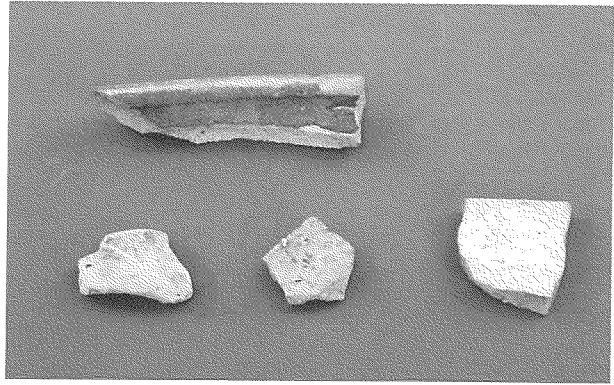


写真164 SK907出土遺物

●SK994

<形状>隅丸長方形

<長さ>4.19m

<幅>1.60m

<深さ>0.64m

<埋土>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>天目茶碗、鉄釉小皿、播鉢、土師皿など。16世紀末頃。

<遺構の性格など>不明

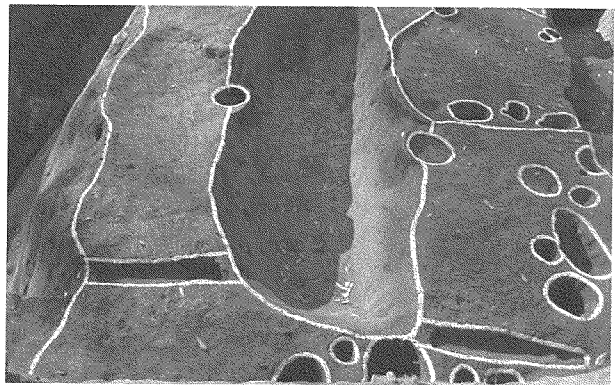


写真165 SK994

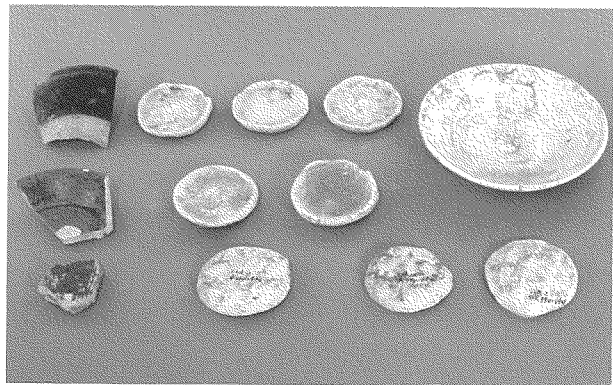


写真166 SK994出土遺物

●SK1002

<形状>楕円形

<長さ>4.76m

<幅>2.88m

<深さ>0.52m

<埋土>黒褐色シルト。巨礫1点。

<主な出土遺物と時期>灰釉平碗、播鉢、土釜など。15世紀。

<遺構の性格など>不明

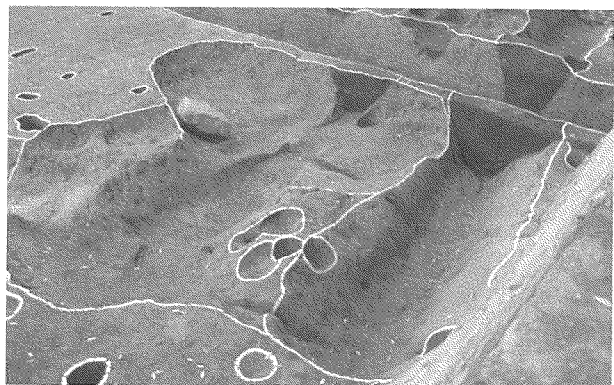


写真167 SK1002

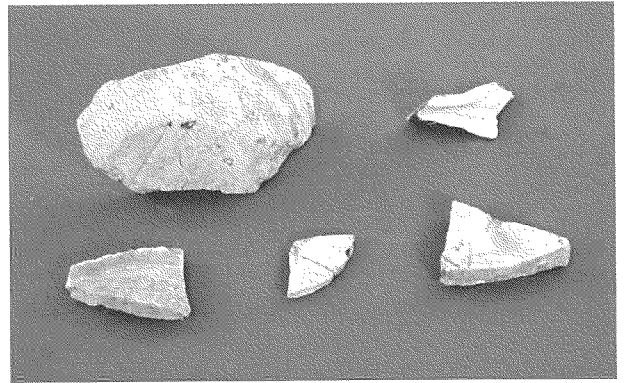


写真168 SK1002出土遺物.eps

C 井戸

●SE1347

<形状>円形

<長さ>1.11m

<幅>1.05m

<深さ>2.83m

<埋土>黒褐色シルトなど

<主な出土遺物と時期>播鉢、灰釉丸皿、鉄釉皿、
鉄釉耳付壺、鉄釉甕、常滑甕など。16世紀中頃。

<遺構の性格など>井戸。SD1230に切られる。

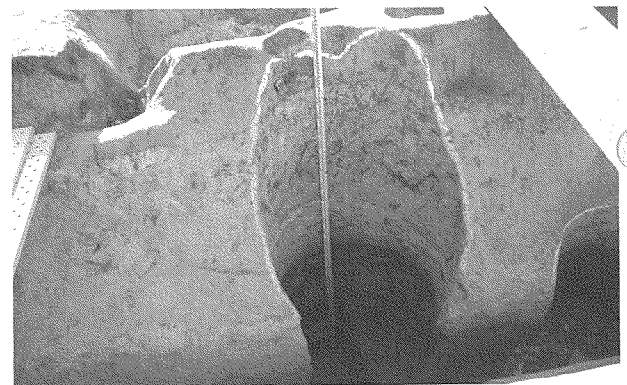


写真169 SE1347

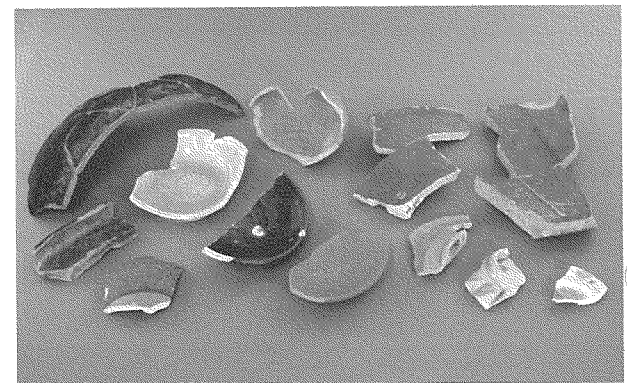


写真170 SE1347出土遺物



写真171 SE1347出土遺物

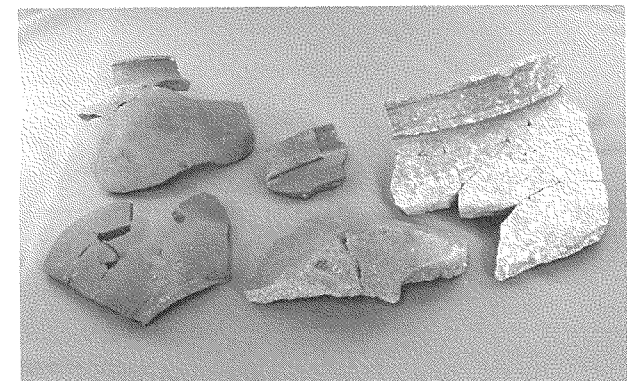


写真172 SE1347出土遺物

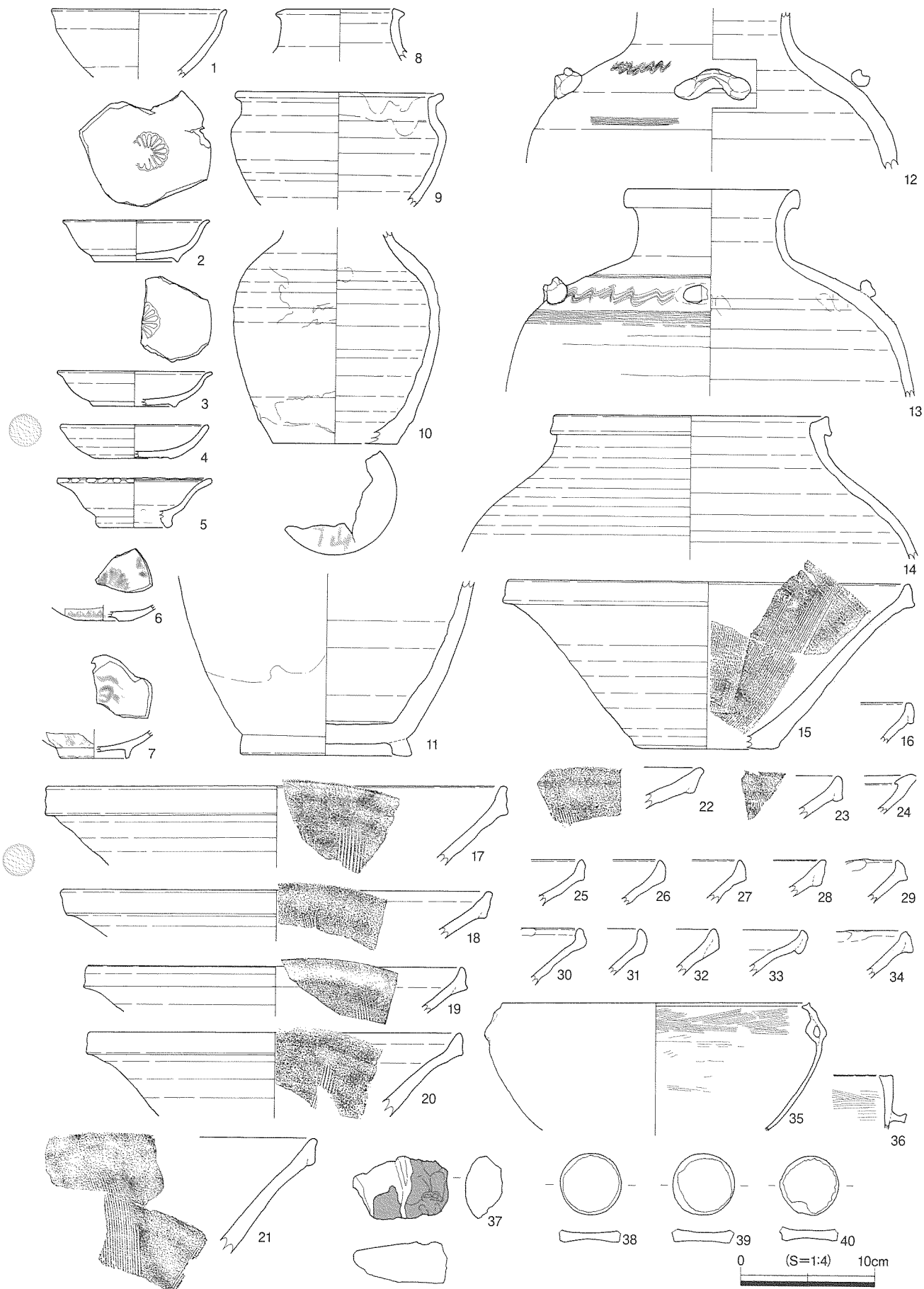


图31 SE1347出土遺物(1)

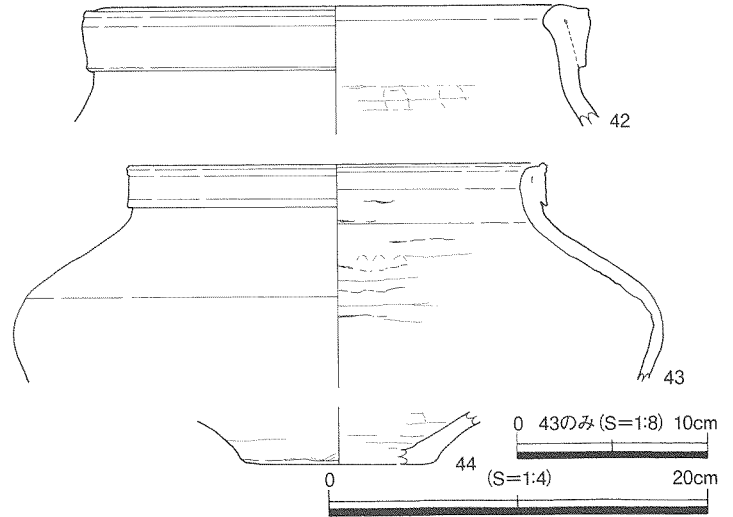
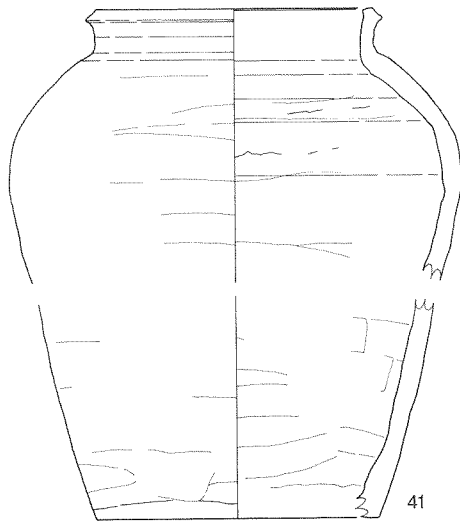


図32 SE1347出土遺物(2)

表15 SE1347掲載遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	陶器	天目茶碗	鉄釉	23	陶器	播鉢	
2	陶器	丸皿	灰釉	24	陶器	播鉢	
3	陶器	丸皿	灰釉	25	陶器	播鉢	
4	陶器	丸皿	鉄釉	26	陶器	播鉢	
5	磁器	青磁端反皿	中国産	27	陶器	播鉢	
6	磁器	青花皿	中国産	28	陶器	播鉢	
7	磁器	青花碗	中国産	29	陶器	播鉢	
8	陶器	壺	鉄釉	30	陶器	播鉢	
9	陶器	甕	鉄釉	31	陶器	播鉢	
10	陶器	瓶	鉄釉	32	陶器	播鉢	
11	陶器	壺	鉄釉	33	陶器	播鉢	
12	陶器	四耳壺	鉄釉	34	陶器	播鉢	
13	陶器	四耳壺	鉄釉	35	土師器	内耳鍋	
14	陶器	甕	鉄釉	36	土師器	羽根鍋	
15	陶器	播鉢		37	土製品	ふいご羽口	
16	陶器	播鉢		38	陶器	加工円盤	天目茶碗底部
17	陶器	播鉢		39	陶器	加工円盤	天目茶碗底部
18	陶器	播鉢		40	陶器	加工円盤	天目茶碗底部
19	陶器	播鉢		41	焼締陶器	壺	常滑窯
20	陶器	播鉢		42	焼締陶器	甕	常滑窯
21	陶器	播鉢		43	焼締陶器	甕	常滑窯
22	陶器	播鉢		44	焼締陶器	甕	常滑窯

●SE1393

<形状>円形

<長さ>1.18m

<幅>1.07m

<深さ>2.63m

<埋土>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>播鉢、中国白磁小杯、白磁丸皿、鉄釉小皿、小天目茶碗、土師皿。16世紀中頃。

<遺構の性格など>井戸。SD1230下半埋土を切る。



写真173 SE1393

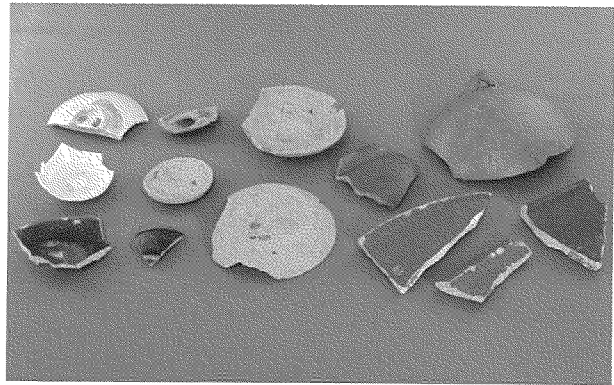


写真174 SE1393出土遺物

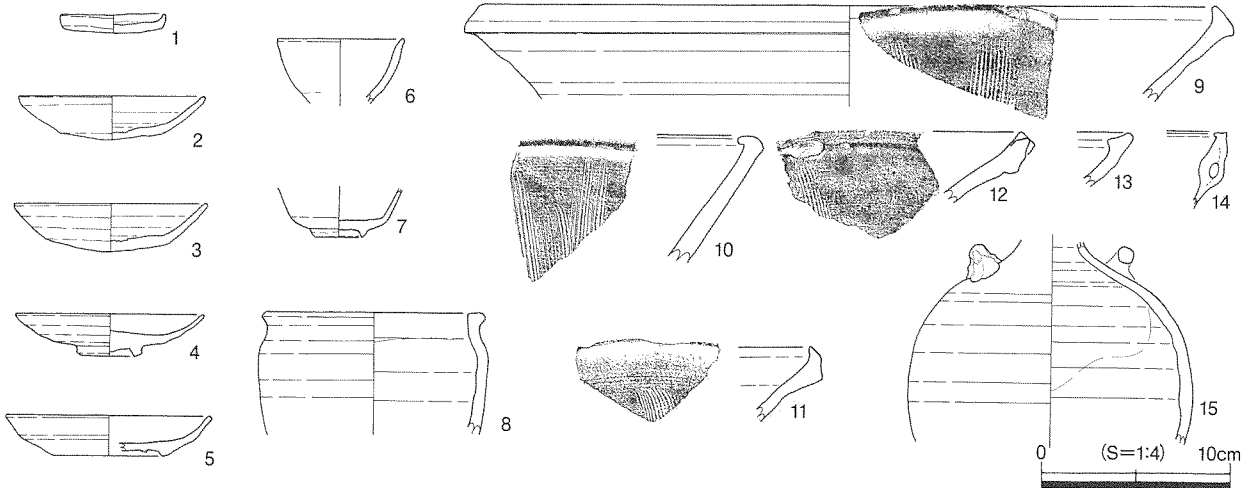


図33 SE1393出土遺物

表16 SE1393掲載遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	土師器	小皿	手づくね成形	9	陶器	播鉢	
2	土師器	皿	ろくろ成形	10	陶器	播鉢	
3	土師器	皿	ろくろ成形	11	陶器	播鉢	
4	磁器	白磁小皿	中国産	12	陶器	播鉢	
5	陶器	丸皿	鉄釉	13	陶器	播鉢	
6	陶器	小天目茶碗	鉄釉	14	土師器	内耳鍋	
7	磁器	白磁小杯	中国産	15	陶器	耳付瓶	鉄釉
8	陶器	筒型容器	鉄釉				

④ 古代の概要

A 竪穴住居跡

調査区の南東部に竪穴住居跡の遺構が3棟分検出された。このうちSB1000は、全体の形状が比較的良好的な状態であり、8世紀頃の須恵器、土師器が出土した。また、各遺構とも床面近くまで遺構の上部が失われていた。

B ピット

調査区南東部の竪穴住居跡が検出されたあたりに分布するピットのなかには、古代の柱穴等が含まれているとおもわれるが、中世～古代の遺構の時期の特定が困難である。

A 竪穴住居跡

●SB1000

<形状>隅丸長方形

<長さ>5.22m

<幅>3.68m

<深さ>0.27m

<埋土>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>須恵器、土師器甕。8世紀頃。

<遺構の性格など>竪穴住居



写真175 SB1000

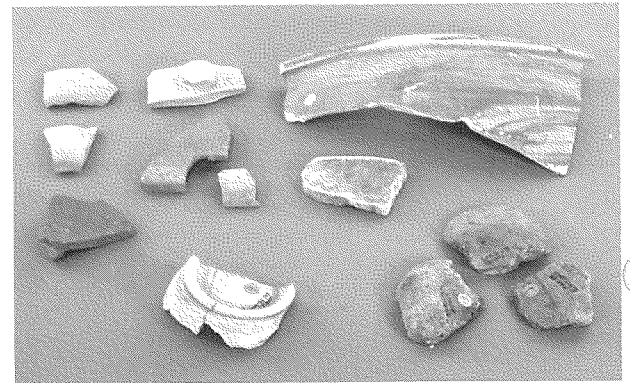


写真176 SB1000出土遺物

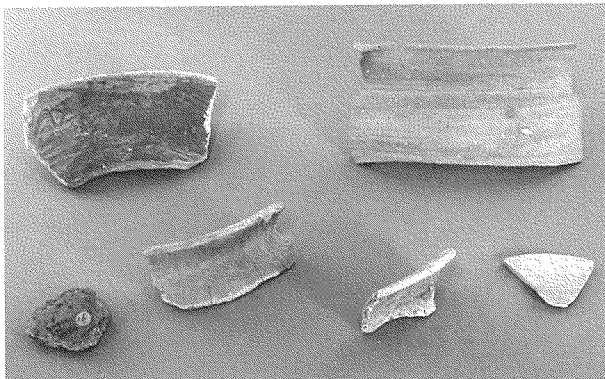


写真177 SB1000内SK1396出土遺物



写真178 SB1000内SK1404出土遺物

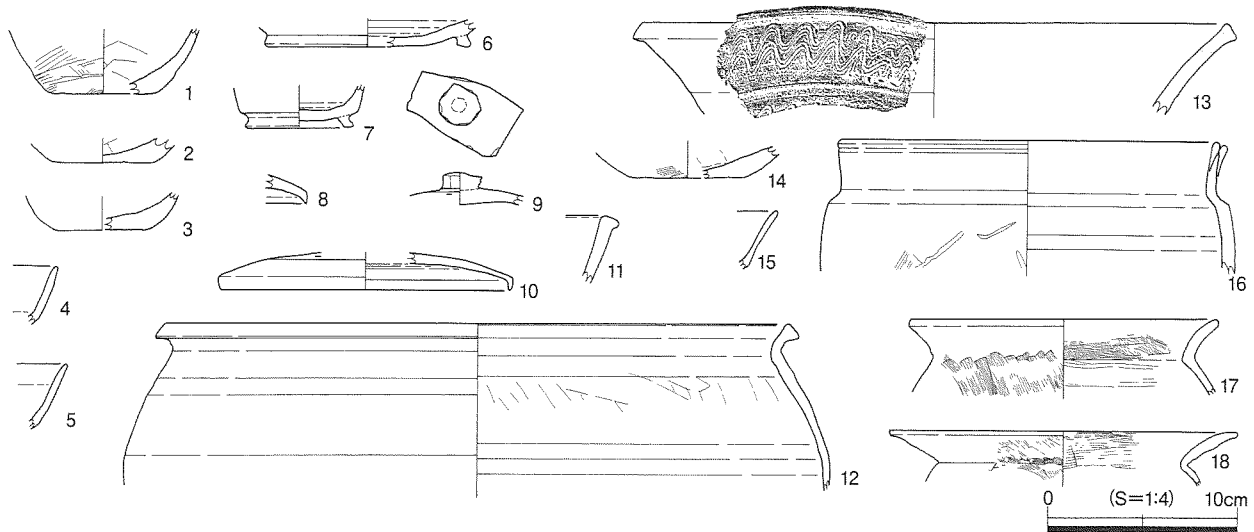


図34 SB1000,SK1396(SB1000内)出土遺物

表17 SB1000掲載遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	土師器	甕		10	須恵器	環	
2	土師器	甕		11	須恵器	鉢	
3	土師器	甕		12	須恵器	甕	
4	須恵器	環		13	須恵器	壺	SK1396
5	須恵器	環		14	土師器	甕	SK1396
6	須恵器	環		15	須恵器	環	SK1396
7	須恵器	環?		16	須恵器	短頸壺	SK1396
8	須恵器	環		17	土師器	甕	SK1396
9	須恵器	環		18	土師器	甕	SK1396

●SK(SB)1001

<形状>隅丸長方形か

<長さ>3.41m

<幅>(3.38)m

<深さ>0.11m

<埋土>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>須恵器片。8世紀頃。

<遺構の性格など>竪穴住居



写真179 SK(SB)1001

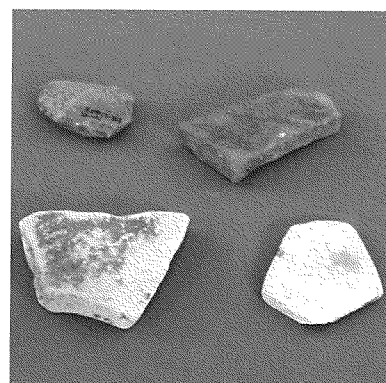


写真180 SK(SB)1001出土遺物

●SB1273

<形状>隅丸長方形か

<長さ>(3.91)m

<幅>(3.10)m

<深さ>0.18m

<埋土>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>須恵器片、土師器片。8世紀頃。

<遺構の性格など>竪穴住居か

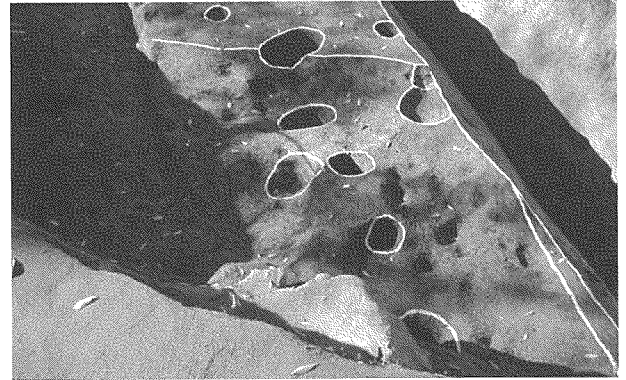


写真181 SB1273

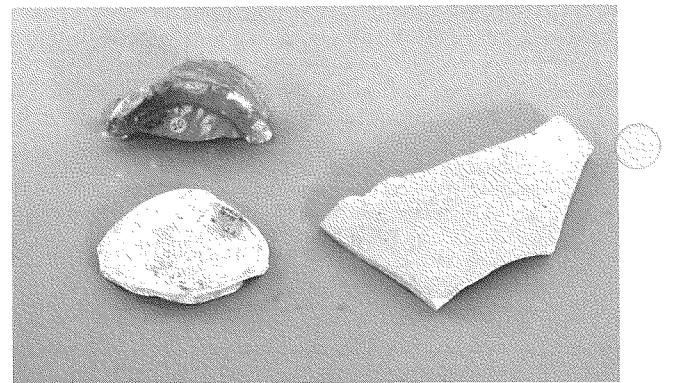


写真182 SB1273出土遺物

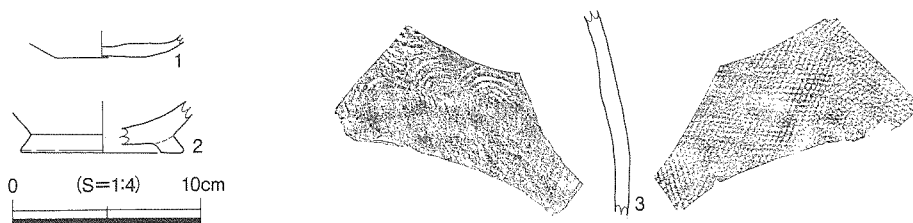


図35 SB1273出土遺物

表18 SB1273掲載遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	土師器	甕	
2	須恵器	壺	
3	須恵器	甕	
4	須恵器	坏	SK1404(SB1000内)出土
5	須恵器	坏	SK1109出土

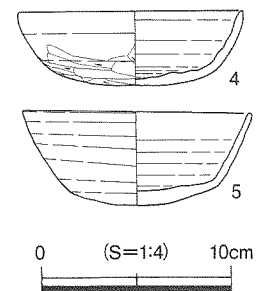


図36 4.SK1404
5.SK1109
出土遺物

⑤ 古代以前の概要

調査中に近世や中世の遺構埋土から、黒曜石片、磨製石斧、埴輪片などがわずかに出土しているが、これらの時期の包含層や遺構は検出されなかった。当遺跡では、旧石器、縄文時代は遺物のみであるが、弥生時代中期や古墳時代後期の竪穴住居跡や古墳周溝、古代の竪穴住居跡などが台地西側付近や台地北縁部で検出されている。

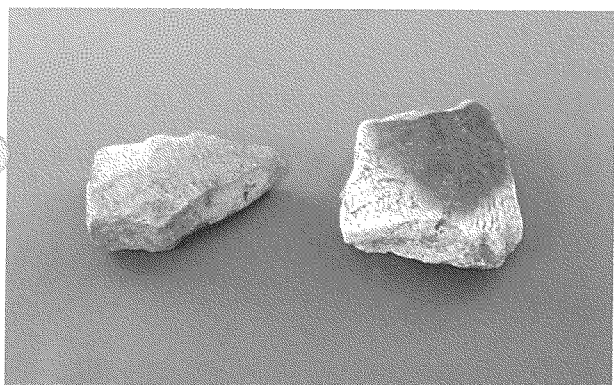


写真183 古代瓦(左：SD03,右：SK880)



写真184 埴輪片(検出)



写真185 磨製石斧(SK880)

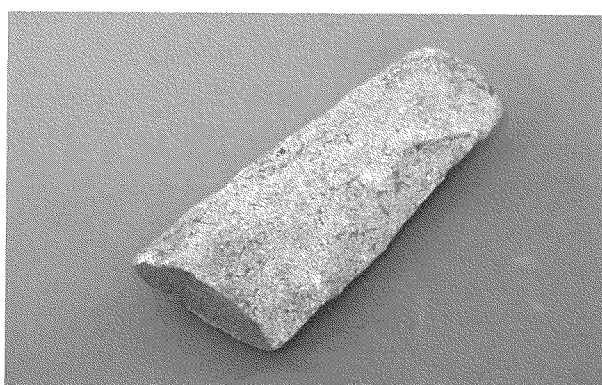


写真186 打製石斧(SK880)



写真187 磨製石斧(SD893)

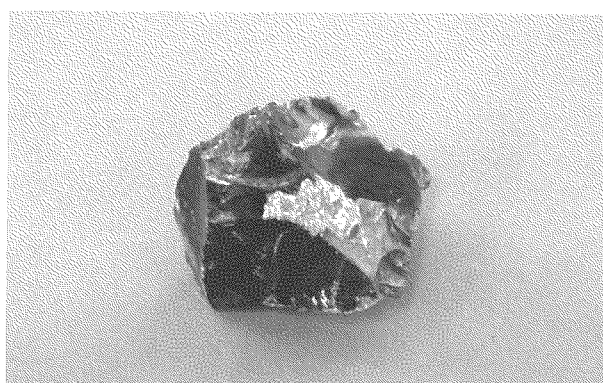


写真188 黒曜石片(B1区検出)

4 自然科学的分析

名古屋城三の丸遺跡出土の人骨

名古屋大学博物館 新美倫子

名古屋城三の丸遺跡ではヒトの頭蓋骨が1点出土した。この資料は、戦国時代(16世紀)に作られた溝SD0701が埋没する過程で、その埋土を掘り込んで作られた土坑SK1453の中から検出され、所属時期は戦国時代(16世紀)と思われる。

頭蓋骨は左側面を下にした状態で埋まっていた。溝の更新を目的として溝内に堆積した埋土が除去された際に、右側が削り取られたとのことであり(出土状況写真123)、残存していたのは頭蓋骨の左側1/2程度であった。削平は頭蓋骨の正中線に対してやや斜めに行われており、顔面はほとんど失われ、頬骨突起を含む左前頭骨の一部と左頬骨・上左第3後臼歯?破片1点が残存していただけである。一方、後頭骨は左2/3程度と大部分が残っていた。頬骨突起・下顎窩部分を含む左側頭骨と左頭頂骨はほぼ完存であり、蝶形骨の一部や右頭頂骨の一部も残っている。骨の保存状況はあまり良くない。

下顎骨や四肢骨など頭蓋骨以外の部位はまったく出土しなかった。寛骨もないためこの個体の性別は確定できないが、左乳様突起は筆者所有の現代日本人男性レプリカと同程度の大きさである。眼窩上隆起はなくなっているので、その状況は不明である。

主な縫合については、冠状縫合は内面では消失しかかっており、外面では薄いながらも確認できる。矢状縫合も内面では消失しかかっているが、外面では確認できる。ラムダ縫合は内面では癒合が始まっているが、外面でははっきり確認できる。



ヒト頭蓋骨(約2/3)

5 まとめ

《近代》

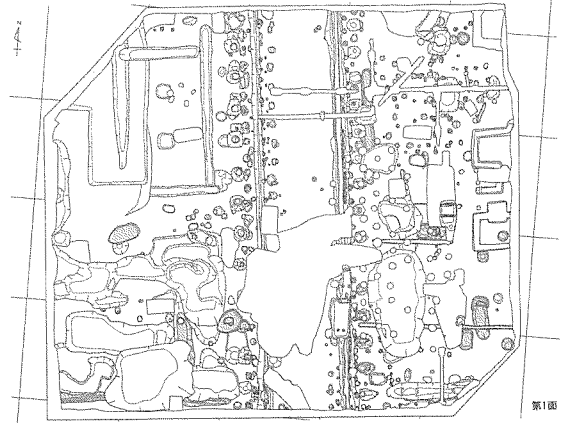
調査地点は、前述したように旧日本軍の野砲兵第3連隊の営庭と呼ばれた訓練場の一部にあたる。調査区の東半部にこの時期の遺構が集中しているのは、西半部側を戦車等の配置する敵陣とみなしていたためで、前線に「たこつぼ」をつくり、移動し身をかがめる塹壕と、その背後には指揮官のいる陣地を配置した状態になっている(註1)。これらの遺構は、調査区中央を南北に続く江戸時代の道路部分が非常に固く締まっているため、この道路跡を避けて東側に塹壕等を造ったのではないかとおもわれる。

《近世》

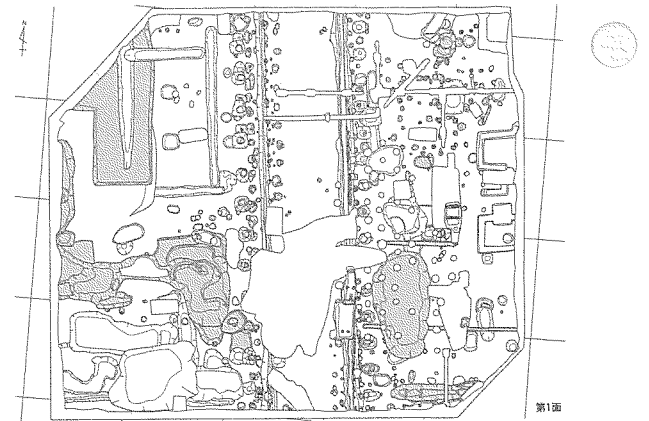
当地点の特徴として、名古屋城築城期に当時の戦国期以前の土地の表面を今回の調査区のほぼ全域に50~90cmの厚さで盛土し、整地したうえで道路や屋敷地を設定し、江戸時代初期から幕末までの遺構がこの整地面から造られていたことが判った。当調査区付近では、熱田台地をなす地盤の熱田層の上面の標高が名古屋城三の丸の東端や西端近くの発掘調査地点と比べて低く、窪地や浅い谷地形が、戦国期までの風景で見られたのであろう。

当地点のような整地土(盛土)は、東隣地の国の合同庁舎地点(1988)や西側の県警本部地点(1991)の調査区にもみられ、特に県警本部地点の調査報告書(1993遠藤)では、「・・・微地形をも許容することなく、名古屋城の普請に際しては、埋め立て整地して巨大な曲輪を創出しているのである。近世城郭の土木技術のすごさを思わざるをえない。今日、三の丸の官庁街は平坦な地形をみせているが、かかる地形の形成は、名古屋城普請にあったわけである。」と述べられている。

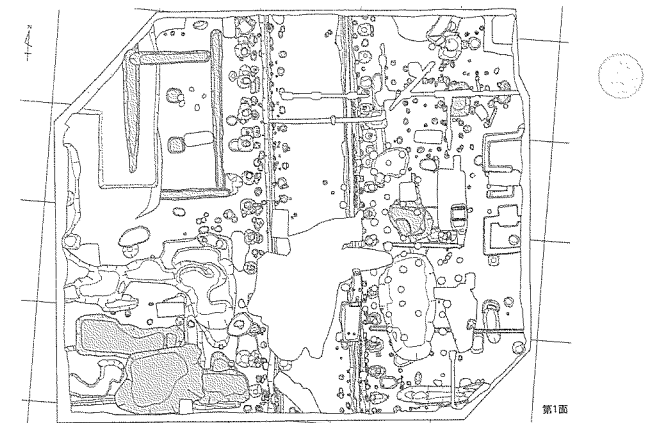
「御太鼓櫓筋」の道路面は、調査区北端では、



近世Ⅰ期(17世紀~18世紀前葉)



近世Ⅱ期(18世紀中頃~18世紀末頃)



近世Ⅲ期(19世紀初頭~19世紀中頃)

(S=1/800)

図37 近世遺構変遷図[道路・側溝・塹の柱穴列は除く]

南端より30cmほど高く、道路の側溝の底面の高さも北端が南端より20cmほど高い状況であった。他の検出遺構には、廃棄土坑や井戸のほか土蔵基礎、道路に沿った塀の基礎などがあるが、その時期を大きく三つに分けて示したのが図37である。廃棄土坑は、今回18世紀代のものが多く、この頃は陶磁器をはじめ生活用品が17世紀代に比べ、大量に生産、流通、消費された時代であったことを示すのであろう。特に、1 A区の土坑(S K 239)は、18世紀中頃に横井氏の屋敷地拝領が終わり、そのときまでの生活用品の廃棄物を大量に処分するための土坑であろうとおもわれ、ほとんど重複のない単独の巨大土坑として検出された。

また、道路東側の屋敷地では、江戸時代後期から幕末頃の土坑が少ないことは、廃棄物を処理する土坑を掘ることもないまま明治政府の陸軍用地と化してしまっただろうか。《戦国期～中世》(この期間をⅠ期からⅢ期に区分した遺構の分布図が図38である。)

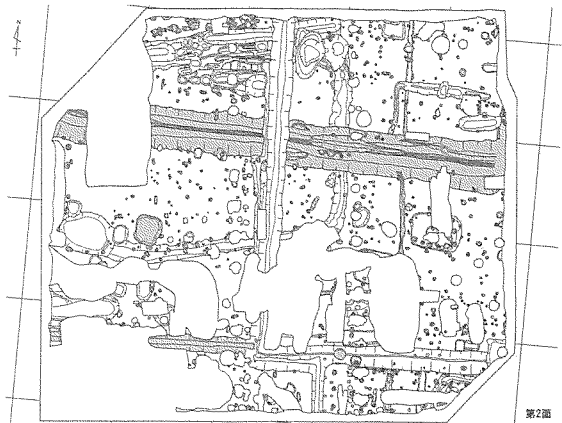
調査区北西部分で20m×30m程と推定される浅い溝で方形に区画する遺構が検出され、古瀬戸後期の施釉陶器や山茶碗が出土している。今川氏が那古野の地に屋敷を構える1431年(永享3)の頃の遺構であり、居館等の性格をもつとおもわれる。今川氏親が1521～24年(大永1～4)頃に「那古野城」を築く以前(図38のⅠ期)の遺構と考えられる。

Ⅱ期の遺構は、築造時期は現在のところ明確ではないが、16世紀中頃から後半に機能していたとおもわれ、織田信秀が今川氏から那古野城を攻略した時期を含むとおもわれる。

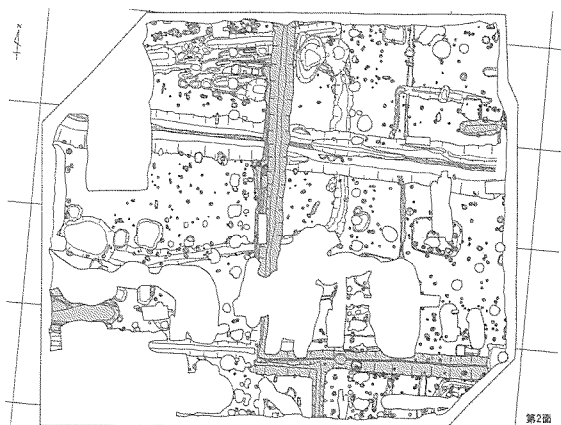
那古野城廃城の時期とされる1582年(天正10)の後も、Ⅲ期の遺構は機能していたとおもわれ、京と東国を結ぶ交通上の要地でもあり、家臣団屋敷の集結を示す方形区画溝が17世紀初頭まで



中世Ⅰ期(15世紀～16世紀初頭)



中世Ⅱ期(16世紀中頃～16世紀後半)



中世Ⅲ期(16世紀末～17世紀初頭)

(S=1/800)

図38 中世～戦国期遺構変遷図

存在していたことは、那古野城の盛衰を考えるうえで注目されよう。

《古代》

古代には、竪穴住居跡の遺構が3棟分検出されたが、調査区内では古代以前の包含層の堆積は無く、中世、戦国期の城館の造営活動などに伴い失われたのかもしれない。ただし、後世の遺構に混入する須恵器などの遺物は少なく、もともと比較的小規模な集落であったと思われる。ほかに、古代の瓦片が後世の遺構から2点出土している。これらの瓦は、10世紀の創立とされる天王社の神宮寺であった安養寺が、今の三の丸の中央部あたりを占めていたとされることから、これに関連する遺物なのかもしれない。

《古代以前》

古代以前は、概要にもふれたように遺構は検出されなかったが、黒曜石片やチャートの剥片などが、中近世の遺構から出土している。弥生時代では、これまで伝名古屋城出土とされる銅鐸や弥生時代後期の高杯の出土もあり、当地点でも弥生時代の大型蛤刃石斧とおもわれる刃部片が出土し、遺跡範囲(台地)中央部付近で検出されたことは、新知見であった。

[注]

1 伊藤厚史氏ご教示による。

[参考文献]

1 1990 梅本博志・小澤一弘他『名古屋城三の丸遺跡(Ⅱ)』愛知県埋蔵文化財センター第16集

2 1993 遠藤才文『名古屋城三の丸遺跡(Ⅳ) - 愛知県警察本部地点の調査 - 』愛知県埋蔵文化財センター第44集



第1面AB区全景(南から)



第2面A区全景(西から)



第2面B区全景(東から)

報告書抄録

ふりがな	なごやじょうさんのまるいせきだいじゅうにじはくつちようさほうこくしよ
書名	名古屋城三の丸遺跡第12次発掘調査報告書(中央新幹線「名城非常口」地点)
編著者名	水野裕之
編集機関	名古屋市教育委員会
所在地	〒460-8508愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 TEL 052-972-3269 FAX 052-972-4202
発行機関	名古屋市教育委員会
所在地	〒460-8508愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 TEL 052-972-3269 FAX 052-972-4202
発行年月日	2017年3月10日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	面積(m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
名古屋城 三の丸遺跡	愛知県名古屋市 中区三の丸二丁目2	23100	7-27	35度 10分 41秒	136度 54分 16秒	2016・04・01 ～ 2017・02・29	約1900m ²	鉄道建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
名古屋城 三の丸遺跡	城館址 散布地	戦国期 近世	堀、溝 道路、土坑	陶磁器類	

名古屋城三の丸遺跡第12次発掘調査報告書
 (中央新幹線「名城非常口」地点)
 2017年3月10日
 編集・発行 名古屋市教育委員会
 印刷 西濃印刷株式会社



